

スペースデザイン ISSN 0583-4991
419号1999年8月1日発行 毎月1回1日発行
H40年2月5日第三種郵便物認可

SD

Space Design

9908

Monthly Journal of Art and Architecture

集
階段 Beyond Function
stairs Beyond Function

ビル空調機リニューアル 合理化委員会の評決です。



YAZAKIの吸収冷温水機スーパーアロエースは、コンパクトなユニット設置タイプです。場所を取らず、ロッカーのように整然と並べて設置できます。エレベーターや階段から容易に搬入でき、工期の大幅な短縮が可能。ビル空調機のリニューアルに最適です。

ユニット形冷温水機のパイオニア

ロッカー設置に最適な スーパーアロエース

矢崎総業株式会社

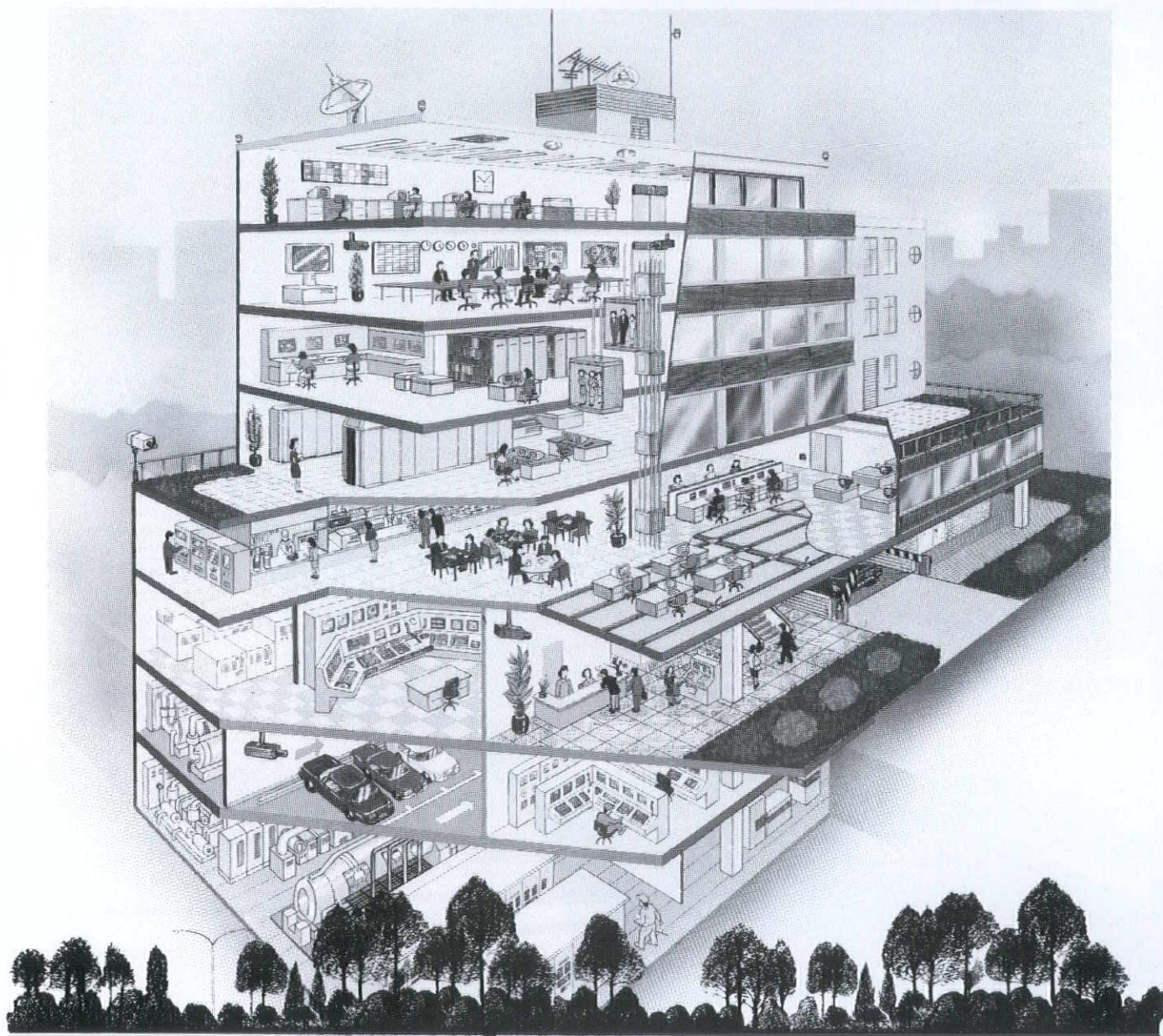
Y-CITYワールドヘッドクォーターズ：〒410-1194 静岡県裾野市御宿1500 TEL0559(65)3002
空調機器事業部：〒435-8575 静岡県浜松市子安町1370 TEL053(461)5112

札幌支社 011 (852) 2914	仙台支社 022 (284) 9115	東京支社 03 (3298) 3140
名古屋支社 052 (833) 8415	北陸支社 0764 (41) 6516	大阪支社 06 (6458) 4825
中国支社 082 (923) 2115	四国支社 087 (833) 3336	九州支社 092 (411) 4835



快適さは…安全、確実が基本。

快適な環境づくりに、 豊かな経験。



●技術と伝統の…

内線工事 ■ 外線工事

東光電気工事株式会社

本社 〒101-8350 東京都千代田区西神田1-4-5 TEL.(03)3292-2111

支社所在地／札幌・仙台・大宮・千葉・丸の内(東京)・新宿(東京)・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡

National/Panasonic

AV&C FLAPS

AUDIO
音響システム

VISUAL
映像システム

COMMUNICATION
通信システム

COMPUTER
コンピューターシステム

FOOD
食品流通システム

LIGHT
照明システム

AIR & AQUA
空調・水管理システム

PASSAGE
搬送システム

SOFTWARE &
SYSTEM
ソフトウェア・
システム

ここにはあります人と自然と技術の調和が

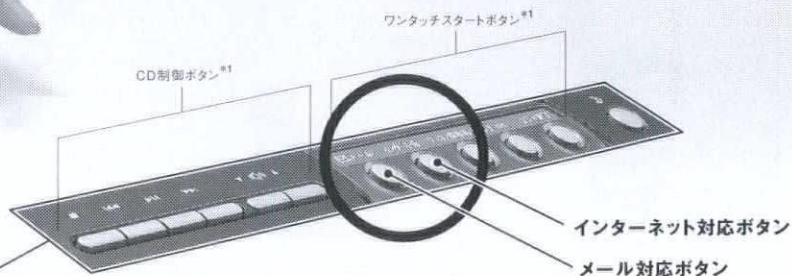
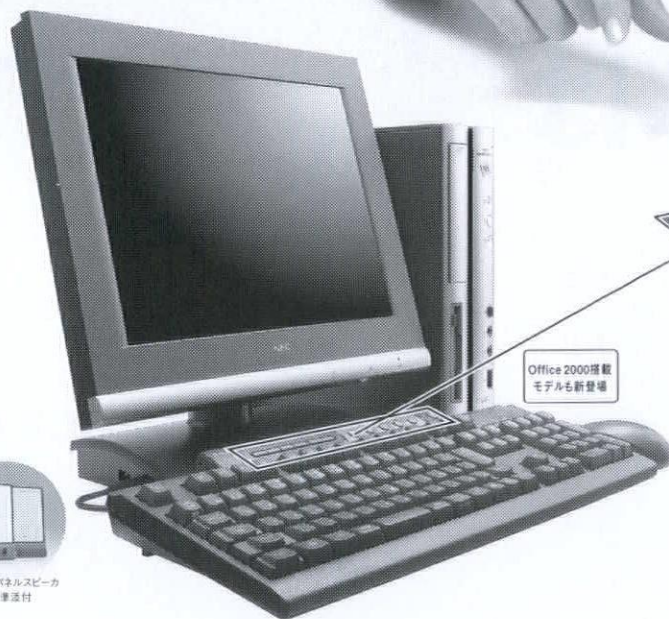
松下電器産業の建設エレクトロニクス技術は人に優しい環境創造を目指してシステム開発に取り組んでいます。そこには人と人・情報・空間をコンセプトに、明日の夢を描くまちづくりの思いがあります。

松下電器産業株式会社

建設システム営業本部 ☎03-5460-2931
北海道支店 ☎011-207-7722
東北支店 ☎022-711-3551
新潟支店 ☎025-246-1031
関東支店 ☎0286-37-2241
神奈川支店 ☎045-651-5051
建設システム営業本部中部支店 ☎052-951-6010
長野支店 ☎0262-26-3990
北陸支店 ☎0762-23-1121
静岡支店 ☎054-247-5155
建設システム営業本部関西支店 ☎06-6949-2111
中国支店 ☎082-247-5272
四国支店 ☎0878-26-1711
九州支店 ☎092-431-1100
沖縄支店 ☎098-869-2926

わたしの、イチ押し。

インターネットもメールも、
ボタンを押すだけ。



 ボタンを押すだけで^{*2} インターネットもメールもらくらく。

👉 5時間無料体験^{※3}ができるから買ったその日からインターネット。

👉 音楽CDもボタンを押すだけ。

●メールの着信を点灯してくれるメール着信ランプ^{※4} ●本格的にインターネットを始める方には、NECのプロバイダ「BIGLOBE」に簡単な手続きで入会できる「BIGLOBE」で電話入会サービス(有料¥500税別)も用意 ●メールがさらに楽しくなる「ハロークエティのハッピーメール」、接続料金の使いすぎも本部で教えてくれる「まいくら?」^{※5}などソフトも充実

ウェブ/印刷/設計ソフトは「Microsoft Office 2000 Personal」または「Voice-太郎-花子/子太郎」から選べる。

VC450J/7FC1・8FD1 オープン価格 Intel® Pentium® III プロセッサ450MHz

VALUESTAR NX

ス リ ム & 大 画 面 は、P C 9 8 - N X。



*1 「ワンタッチスタートボタンおよびCD制御ボタンの機能は電源OFFの状態あるいはスタンバイ状態においてはご使用になれません。なお、5時間無料体験では、初回起動時のみ、使用条件などの確認操作が必要になります。なお、無料体験では電子メールは利用できません。また、プロバイダへの入会金および設定が必要です。」
 *2 アラームポイントまたは電圧値にはお客様の負荷と一致しません。無料体験時は、実際に接続して7日31日間有効で、体験期間は5時間です。無料体験サービスは2003年9月30日まで受けられます。なお無料体験では電子メールは利用できません。あらかじめ設定が必要です。また、ケーブルの接続やケーブルの切断などに、電気料金がかかりますので、安全に使用ください。

●NEC/パソコン情報FAXサービス 東京:03-3769-9821 大原:06-6304-9821
VALUESTAR NX (カタログ全内容) 6006 (14枚) *枚数は変更になる場合があります

●NEC/パソコン対応インターネット・サービス 0120-60-9821 受付時間 9:00~17:00 (祝日を除く) 携帯電話・PHSではご利用いただけません。

●西暦2000年対応に関する情報をインターネット上で提供しております。 <http://www.nec.co.jp/ad2000/>

(本広告に関するカタログを差し上げます。ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、勤務先を明記のうえ
〒100-8001 東京都千代田区5-2-1NFC10-28530 VALUESTAR NX (SD 7/24) まででお送り下さい。)

[illegible]

VALUESTAR NX Pentium® III
 プロセッサ搭載モデルの魅力を紹介。
<http://www.pc98.nec.com.jp/sp/mv/>
 アクセシブルな方にパズルでござへの
 トラベルクロックを抽選でプレゼント!
 詳しくは、下記ホームページへ 期間: 6/10 ~ 9/30



ほとばしるインターネット体験へ

意外なカジマは、 身近なカジマ。

えっ！こんなところにも、
と驚くほど、鹿島の商品は
私たちの暮らしの周辺で活躍しています。
健康、快適、安心をキーワードに
研究開発が進められ、人と自然に
やさしい新しいタイプの
商品やシステムが次々と誕生しています。



健康

ゼオライト建材

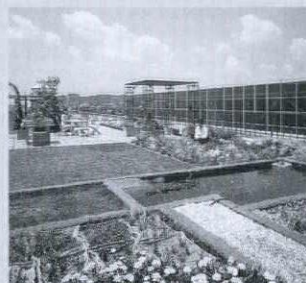
住まいは健康を大きく左右します。湿気や結露、カビなどの発生は住まいを損なうだけでなく、そこに暮らす人々の健康にも影響を与えます。鹿島は、空気中の水分を吸ったり吐いたり、脱臭機能ももつ天然素材「ゼオライト」に注目。耐火性にも優れたこのゼオライト建材は、室内の湿度を一年中快適な状態に保ち、健康住宅を実現する夢の建材です。



快適

エコヒーリングガーデン

ガーデニングを楽しむ人がたいへんな勢いで増えています。庭やベランダで自然を楽しむのはとても素晴らしいこと。鹿島の「ケイソイル」「草花名人」は、バルコニーや屋上庭園にぴったりの、軽くて保水性の高い人工土壌です。重さの条件が厳しい屋上やベランダ、バルコニーでも、緑豊かな自然を育てることができ、生活に潤いを与えます。



安心

戸建て住宅免震

住まいを考えると、地震への対策が不可欠です。壊れない住まいを目指すのであれば、構造を強くすれば解決します。しかし、家具の転倒などによる被害は防ぐことができません。鹿島の「戸建住宅免震システム」は、建物と基礎との間に設置するボールベアリングを活用。建物に伝わる地震エネルギーを1/5以下に減らし、安全で安心な住まいを実現します。



100年をつくる会社

鹿島

KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388

ホームページ <http://www.kajima.co.jp/>

四季宴会

KARUIZAWA
MEETING
& PARTY



軽井沢
ホテル 鹿島/森

ホテルオークラチェーン

ご予約・お問い合わせ:
ホテル 鹿島/森 予約係
☎ 03(3478)6220
現地 ☎ 0267(42)3535(代)
FAX: 0267(42)5335

大興物産の海外建材シリーズ

No.6 木製品(ツーバイフォー, 集成材)



大興夢科山荘

大興物産は、米国ツーバイフォーシステム用各種部材をパッケージ輸入しており、企画段階から調達・施工段階までトータルなコーディネートを行います。

お問い合わせは、大興物産株式会社・海外調達部まで。

〒107-8318 東京都港区元赤坂1-5-31(新井ビル) TEL 03-5474-6054 FAX 03-5474-6386

建設資機材の総合商社 鹿島グループ 大興物産株式会社

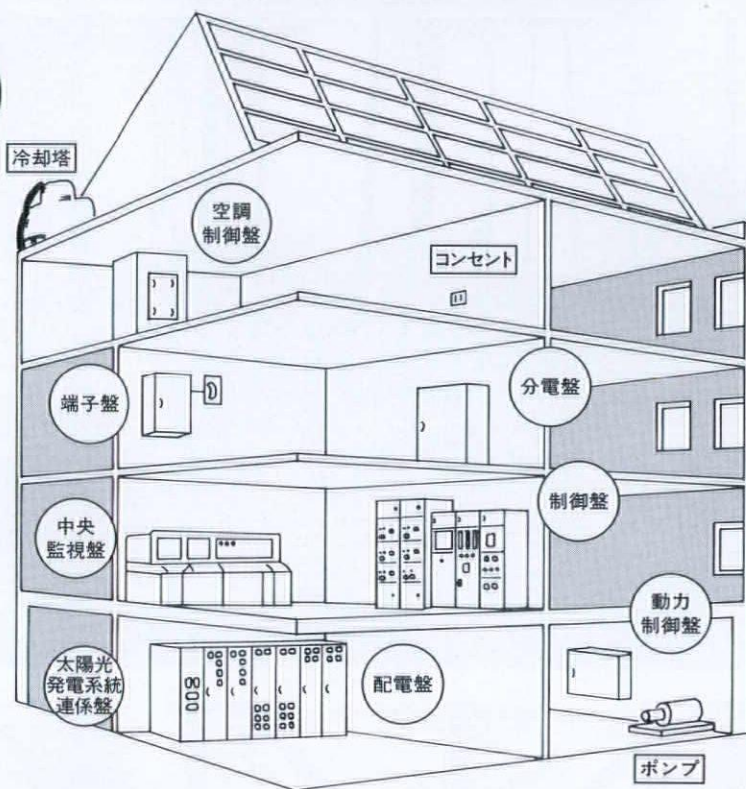
本 社 〒107-8307 東京都港区元赤坂1-6-4 安全ビル

本 社 ☎(03)5474-6060 FAX(03)5474-6076
東京支店 ☎(03)5474-6072 FAX(03)3423-1915
横浜支店 ☎(045)212-3925 FAX(045)212-3996
名古屋支店 ☎(052)961-6171 FAX(052)961-6179
大阪支店 ☎(06)6762-5661 FAX(06)6762-1074

札幌営業所 ☎(011)231-6841 FAX(011)222-4074
東北営業所 ☎(022)219-6861 FAX(022)219-6867
関東営業所 ☎(03)5632-6717 FAX(03)5632-6719
北陸営業所 ☎(025)247-2286 FAX(025)243-5248
広島営業所 ☎(082)249-9221 FAX(082)249-9270

四国営業所 ☎(0878)39-3191 FAX(0878)35-4722
九州営業所 ☎(092)441-2624 FAX(092)471-7996
シンガポール
オフィス ☎65-3440590 FAX65-3446714

見えない電気を交通整理 それは**盤**



川崎電気株式会社

- 本社／山形県南陽市小岩沢225
- 東京本社／東京都港区芝浦3-7-4

信頼と確かな技術で 未来を築く

大栄電気株式会社

代表取締役社長 伊藤 赳

本社 東京都中央区銀座3-7-10 TEL03(3562)0311(大代表) FAX03(3562)0300
支店営業所 大阪,名古屋,北海道,東北,北関東,東関東,神奈川,浜松,神戸,四国,中国,九州,沖縄



確かな歩み未来まで……



総合設備の設計施工 電気・情報通信・計装・空調・給排水・水道施設

株式会社 中電工

本店/広島市中区小網町6番12号 TEL (082) 291-7411
支店/広島・岡山・山口・島根・鳥取・東京・大阪

最先端のハーモニー。

さまざまな先端技術が調和して、「快適」という名のハーモニーを奏でる。トーエネックのエンジニアリングは、まさにそんなイメージです。電気設備をはじめ、情報通信・冷暖房・空調・防災設備など……。システム設計から施工・保守まで、高度で総合的な技術力を活かし、全国主要都市を拠点に幅広いネットワークでみなさまにお応えしています。オフィスビルやマンション、ホテル、工場、さらにはコミュニティ施設。あらゆるスペースを、心地よい技術のハーモニーで包み込みたい。インテリジェント&ヒューマン。私たちは、トーエネックです。



いろんな技術を結んで、トータルに考える。

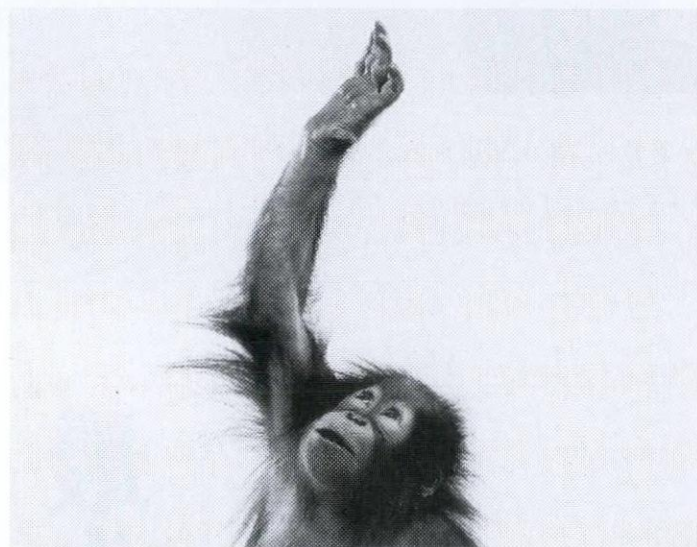
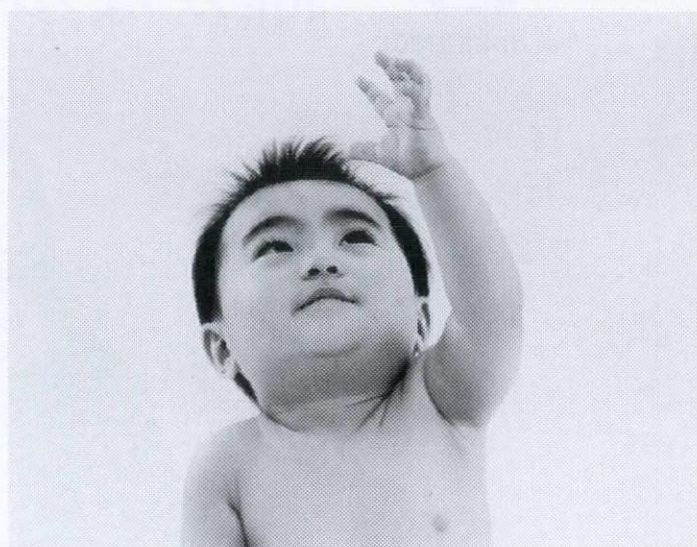
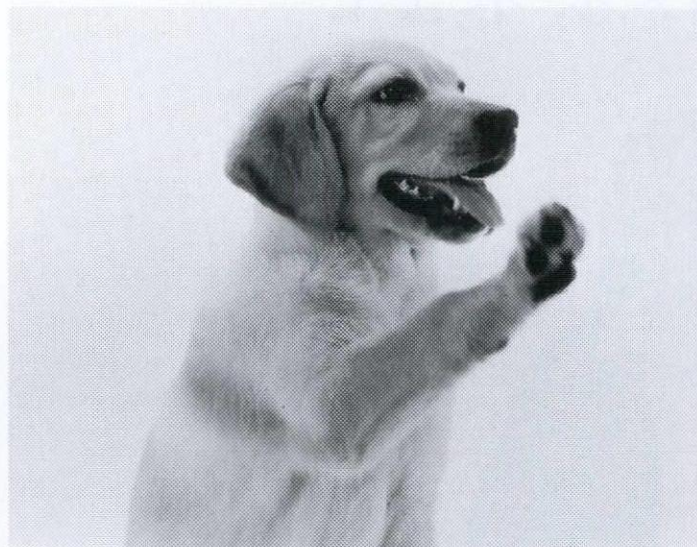
トーエネック エンジニアリング

先端技術で、システムする。

TOENEC

株式会社 トーエネック

本店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460-0008 ☎(052) 221-1111
東京本店/東京都豊島区東横1-3-11 〒170-0002 ☎(03) 5395-7111
大阪本店/大阪市淀川区新北野3-8-2 〒532-0025 ☎(06) 6305-2181



大切なのは、 何かをつかもうとする心。

電気は光・熱・情報・音響などに姿を変え、私たちの暮らしを支えています。関電工はこうした電気を、住宅で、オフィスで、劇場で、工場で、環境への配慮と安全性を第一に具体的なシステムや設備のカタチでお届けしています。そしてつねに、さらなる可能性を広げようと、新たな夢を描き、日夜さまざまな研究を続けています。今までも、これからも、関電工の技術はいつもあなたの近くにいます。

いつも、人に優しい技術で未来へ。

関電工

本社：〒108-8533 東京都港区芝浦4丁目8番33号
☎：NTT 03(5476)2111 TNet 03(4431)2111

鹿島出版会

東京都港区赤坂6-5-13

電話：03-5561-2550

振替：00160-2-180883

Home Page Address:

http://www.kajima-publishing.co.jp/group/publish/index.htm

年間定期購読料

26,000円（特別定価号+消費税、送料込み）

SD
Space Design

SDバックナンバー常備店

東京

八重洲ブックセンター 03-8231-8203

三省堂書店（神田）03-3233-3314

書泉ブックマート 03-3294-0011

紀伊国屋本店 03-3354-0131

大盛堂書店 03-3463-0511

大阪

旭屋書店本店 99-999-9999

柳々堂 06-443-0167

札幌/旭屋書店 011-241-3007

横浜/有隣堂本店 045-261-1231

京都/大福堂書店 075-231-3036

大学生協内書店

東北工業大学 東京工業大学

法政大学工学部 早稲田大学理工学部

関東学院大学

9709 駅空間の新曲面 2000円

コミュニティ性を重視した駅を紹介。JR矢吹駅、JR大曲駅、他。国際コンペとして衆目を集めたJR京都駅も併せて紹介する。文＝宮林敬幸、梶庭孝男、他。対談＝横尾忠則×原広司 写真＝大野繁

9710 ガラス建築 3000円

光学的、構造的特性など、ガラスの性質を幅広く採り入れた作品を紹介し、ガラス建築の現在と今後の可能性を探る。ガラス建築23作品、他。座談会＝伊東豊雄×難波和彦×今川憲英、他

9711 隈研吾 2800円

ポストモダン以降の建築における言説を続ける隈研吾。今年建築学会賞、ヴェネディクタス賞を受賞した近作を紹介する。慰霊公園、他。文＝飯島洋一、グレッグ・リン、対談＝横文彦×隈研吾

9712 SDレビュー1997 2000円

第16回SDレビュー誌上発表。建築研究室高安重一事務所+佐久間達也+橋爪宏直+重富博之、川人洋志、藤本社介、松澤輝、他。[光と色が彩る空間——チェコのガラスアーティストたち] 写真＝鈴木豊

9801 SDレビューの15年 2800円

これまでのSDレビューを一挙に振り返る。出版作、建築界での意義などを再確認し、今後の方向性を探る。文＝横文彦、原広司、飯島洋一、中筋修、他。座談会＝元倉真琴×鈴木了二+栗生明+小嶋一浩

9802 都市へ向かう透明性： 2200円

スイス・ドイツ語圏の建築
スイス建築の背景、建築の生まれる文脈を捉えながらその魅力を探る。文＝貝島桃代、ハンス・フライ、他。往復書簡＝鎌原一男×ヘルツォーク&ド・ムロン

9803 表層革命再考：チェコ・キュビズム建築 2000円

現存するプラハのキュビズム建築を掘り下げる写真により紹介する。撮影＝鈴木豊。[香山壽夫のドローイングと空間] 文＝香山壽夫、八木幸二、鈴木梅、青木淳

9804 次世代のマルチ・アーキテクトたち 2000円

30歳代の若手建築家たちの作品と創作活動を紹介し、時代性を浮かび上がらせる。インテンショナルリーズ、みかんぐみ、他。[デスクトップ・コミュニティ]

9805 空間演出の最前線 2000円

建築家とデザイナー、アーティストとのコラボレーションの具体例を紹介。藤江和子、中村純平、新宮晋、他。[カーロとリベラの家] ファン・オゴルマンの建築とメキシカン・モダン

9806 風景創出の現在： 3000円

ランドスケープ・アーキテクトの挑戦
風景創出の現在：ランドスケープ・アーキテクトの挑戦
「公共的な価値」によって自然の風景と区別され、積極的な社会性が意図されている事例を紹介。佐々木繁二、ブレイスメディア、三谷 徹、登坂 誠、他。

9807 シーラカンス 2600円

彼等の12年間の建築活動の軌跡を、作品紹介を中心に振り返る。作品＝吉備高原小学校、大阪市水上消防署、(仮称)外ヶ岡交流拠点施設、他。論文＝原広司、土居義岳、インタビュー＝山本理顕



9808 光のデザイン・ヴォキャブラリー： 2500円

LPAの仕事1990-1998
LPAのデザイン言語を40に厳選して紹介する本書は、光が生み出す空間を全般的に考察する本格的な照明バイブルである。文＝磯崎新、面出 薫

9809 ディテールが創る風景： 2300円

細部に宿る美と技巧
建築作品のディテールを写真と図面で紹介する。宮崎浩/Plants Associates、渡辺明設計事務所、竹中工務店、谷口建築研究所、KAJIMA DESIGN、他。

9810 オフィス環境の近未来 2000円

最新のオフィス環境を、事例を中心に紹介する。作品＝電通インフラティブ・ソリューション・センター、他。文＝仲階隆介、他。
[京町屋再生の手法——時を超えて生きる空間を求めて]

9811 「白」と「透明」の詩： 3000円

モダンデザインの秀作135
白い陶磁器と透明ガラスで出来た日常生活の中の小モノたち135点を紹介する。カシミール・マレービッチ、ゲートルード・ヴェースガルト、柳宗理、他。

9812 SDレビュー1998 2000円

第17回SDレビュー誌上発表
小特集4題：[シャルロット・ベリアン] [「ハブニング」展] [アルトの空間構成] [メタルシート・ストラクチャによる遠藤秀平の近作]

9901 環境共生の現在 2700円

プロジェクトを紹介しながら近年の動向を俯瞰し、次世代のヴィジョンを示唆する。
エムシャープーク、東京ガス(アースポート)、世田谷区環境共生住宅、2005年国際博覧会構想案、他。

9902 ダッチ・モデル： 2000円

建築・都市・ランドスケープ
オランダの都市・社会のシステムを5つのキーワードによって探る。OMA、MVRDV、West8、クーン・ファン・フェルゼン、メカノ、ケース・クリスティアーンズ、他。

9903 木の空間 2000円

木素材による快適建築
次世代スタンダードを示唆する木の使われ方を紹介する。趙海光、インテンショナルリーズ、河西立雄、葛西潔、みかんぐみ、H DESIGN、他。

9904 ガウディの愛弟子ジュジョールの夢 2000円

ジュジョールの遺した作品を、写真とオリジナル・ドローイングで紹介する。撮影＝鈴木久雄、文＝丹下敏明、他。[ドナルド・ジャッド：空間と認識のコンシステンシー]

9905 換発するマテリアリティ： 2500円

素材の進化とデザインの可能性
国内外における素材と技術のデザイン事例を取り上げながら、そのデザインに隠された素材の応用の「手法」、「技術」を分析する。
素材史年表、素材地図1999、他。

9906 小川晋一 2000円

Transbody / Super traffic
小川晋一の13年間の仕事を、実作、計画案、展覧会への出品作品を通して紹介する。作品＝キュビストの家、ミニマリストの家、他。文＝鶴沢隆、岡河貢、小川晋一、他。

9907 学校建築： 2500円

個性を育む環境創出へ向けて
学校建築設計の手引きとして、今後の学校建築に求められる事項を解説し、実例を現地リポートを交えて紹介する。文＝上野淳、他。座談会＝瑞昭代+佐藤学+船越勘十+小嶋一浩+上野淳。



アルヴァ・アアルト

巨匠A.アアルトの全主要作品を掲載した総特集。A.アアルトのデザイン・ヴォキャブラリー：武蔵 章、アアルトの年表1899-1976、アアルト建築所を一覧。

3090円



高松 伸

88年度建築学会賞受賞作のキリンプラザ大阪を中心とし、1988年までの全主要作品を一挙掲載。精緻なる細部と大胆な素材の扱い、独特な造形により、磁き澄まされた独自の作品を創り続ける高松伸の世界を紹介する。縄陣 I、III、他。

3800円



横事務所のディテール/TEPIA

機械産業情報会館 (TEPIA) というハイテクの殿堂にふさわしいデザインを支える、精密かつダイナミックなディテールの仕組みを写真とドローイングの構成で解剖する。横文彦のディテールとしては初の作品集。

6800円



菊竹清訓

メタボリスト菊竹清訓の初期から1980年までの作品集。第三世代の建築/とりかえ論1950-1960年/方法論の時代1960年-1970年/私の中の菊竹清訓の作品：内井昭蔵、他/作品データ・主要作品分布図。年表、他。

3090円



早川邦彦

プロジェクト、商業施設、都市型複合建築、集合住宅、住宅、コンペ案まで、初期の作品から1988年までの全主要作品を一挙に紹介した早川邦彦の初作品集。SKY VILLAGE、ラビリンズ、成城交差点の家、アトリウム、他。

4300円



磯崎新③ 1985-1991 part 1

キーワードを軸に自らの作品をいくつかの流れに分けて、つくばセンタービル以来、1985-1991年の作品群を紹介。水戸芸術館、サンジョルディパレス、お茶の水スクエア、他。

4800円



白井晟一

孤高の建築家・白井晟一の珠玉の作品集。懐賢館、ノアビル、聖アキラ館、昨宵軒、夙別山寮、虚白庵、他。論文=磯崎新、針生一郎、浅野敏一郎、白井昱磨。座談=大江宏+藤井正一郎+宮内嘉久。作品文獻年表1935-1975年。

3605円



ドイツ表現主義の建築

1920年代のドイツを席捲した表現主義の風。そこにはレンガとガラスを素材とした自由奔放な造形と多様な表情をもった建築が生まれた。近代建築誕生の母体となり、現代にも影響を与える表現主義建築の全容を紹介。B.タウト、他。

3300円



磯崎新④ 1985-1991 part 2

part 1同様、自らの「自註」と共に作品を紹介してゆく。チームデイズニービルディング、北九州国際会議場、シュトゥットガルト現代美術館、パライアム、[蝶々夫人]舞台美術、他。

4500円



象設計集団

独自の造形理念により常に新鮮な作品を生み出し続ける象設計集団の初めての作品集。そのユニークな建築群の生々しい姿を捉える。安佐町農協町民センター、名護市庁舎、宮代町立笠原小学校、進修館、他。論文=荒保宏、宇佐美圭司、他。

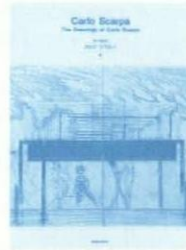
4000円



続・木造建築の現在

海外61作品、国内13作品の木造建築を紹介。豊かで暖か味のある空間を生み、またあらゆる空間構造に対応できる木構造を再評価する。インタビュー：坪井善勝、杉山英男、内田祥哉。対談：今川憲英 X 安村基。

3708円



カルロ・スカルパ図面集

プリオン家墓地を軸とする主要作品のドローイング約150点を収める。プリオン・ヴェガ墓地、フェルトレの遺跡博物館、ヴェネツィア大学文学・哲学部校舎増改築、他。文：豊田博之、カルロ・スカルパ、他。

3500円



横 文彦②

横文彦の80年代の活動を知る第2作品集。そこには増々精緻さと多彩さを加えた作品群が見て取れる。スパイラル、藤沢市秋葉台文化体育館、前沢ガーデンハウス、慶應義塾日吉図書館、電通大阪支社、京都国立近代美術館、他全21作品。

4326円



ブルーノ・タウト

1933-36年滞日期間の活動を中心に、没後40年を記念した特集。作品=熱海の家、ボスボラス海峡に臨む自邸、ヴァイネルト通りの集合住宅、グレル通りの集合住宅、他。タウトの工芸品と著書、他。

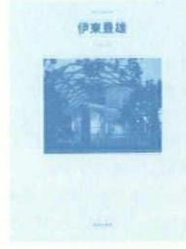
2575円



安藤忠雄③アンビルト・プロジェクト

70年代からの見逃せないアンビルト作品29点を紹介。JR京都駅改築設計競技案、岡本ハウジング、I計画、伊豆プロジェクト、水の劇場、中之島プロジェクトII、Iギャラリー、大淀の茶室、他。

3800円



伊東豊雄

風のように、光のように変化する建築。独自の感性で貫かれた作品群、その初期から1986年までの軌跡。中野本町の家、シルバー・ハット、レストラン・ノマド、馬込沢の家、風の塔、東京遊牧少女の家具、ホンダクリオショールーム他。

3914円



ボザール：その栄光と歴史

ボザールの全貌を紹介。アカデミーの功罪：高階秀爾、ボザールーその歴史と思想：三宅理一編、ボザールの成立とネオ・グレコの形成、折衷主義の世界、近代の憂鬱、戦後のボザール、パリ・オペラ座の図面と写真、他。

2575円



都市デザイン | 横浜

横浜市の20年にわたる都市デザイン活動の足跡を辿り、これからのアーバンデザインの課題と展望を探る。座談会：都市づくりの新局面へ向けて、横文彦 X 豊原敬 X 小澤恵一、他。

5000円

005

特集

階段 Beyond Function

006

起伏

[新津市美術館] 横山 正十アルセッド建築研究所
[天竜市立秋野不矩美術館] 藤森照信十内田祥士(習作舎)
[岐阜県営住宅ハイタウン北方南ブロック妹島棟]
妹島和世建築設計事務所十山清設計
[岐阜の住宅 ホワイトステージ] 宇野 享/C+A
[細見美術館] 大江 匡/プランテック
[小坂山の懐] 徳井正樹建築研究室
[東京海上東日本研修センター] KAJIMA DESIGN
[木村邸] 大堀 伸/インテンショナルリーズ

026

移ろい

[F5] 石田敏明建築設計事務所
[東京自転車保険組合会館] 竹中工務店東京本店設計部
[FOX] 前田紀貞アトリエ
[PNSビル] 宮崎 浩/プランツアソシエイツ
[White Echoes] 米田 明/アーキテクトン

040

軽み

[中野邸] 動物愛護病院ココロ/味岡伸太郎十住工房・鈴木達雄
[小田急サザンタワー] 小田急Gビル設計室
[水ノガラス] 隈 研吾 建築都市設計事務所
[中郷の家] 枘田秀彦建築設計事務所

054

天空

[清涼山霊源皇寺透静庵] 山口 隆 建築研究所
[GOO FIELD] 鈴木克彦建築研究所
[北橋の家] 坂本 昭・設計工房CASA
[梅ヶ丘の住宅] 佐藤光彦建築設計事務所

069

シネマの中の階段 ドラマの喚起装置
渡辺武信

076

階段をめぐる、カメラ・アイ
下村純一

089

連載：エントロピーの森 都市のインフラストラクチャー 8
写真＝ハイナール・シリグ 文＝山形浩生

094

連載 カルチャー・カフェ：今月の音楽「アイリーン・アイバース」
ピーター・バラカン

096

連載 カルチャー・カフェ：今月の映画「奇蹟の輝き」
鶴沢 隆

098

展覧会レポート：「安藤忠雄建築展——20のプロセス」
笠原一人

100

展覧会レポート：「横文彦近作展」および特別記念講演会
香川 浩

102

展覧会レポート：銘傳大学「End of Year Exhibition」
ジン・ヨハネス

104

書評

106

新刊紹介

108

お知らせ

印刷・製本：凸版印刷株式会社

174-0056 東京都板橋区志村1丁目11番1号

電話：03-3968-5111 案内

取次店：トーハン・日販・大阪屋・大洋社・栗田出版販売・
誠光堂・鈴木書店・西村書店・中央社

定価：2,000円 [本体1,905円]

年間直接購読料：26,000円

特別定価号+送料込み

表紙：[White Echoes] 米田 明/アーキテクトン

デザイン：山口デザイン事務所/山口信博+齋藤亜季子

005

Special Feature:

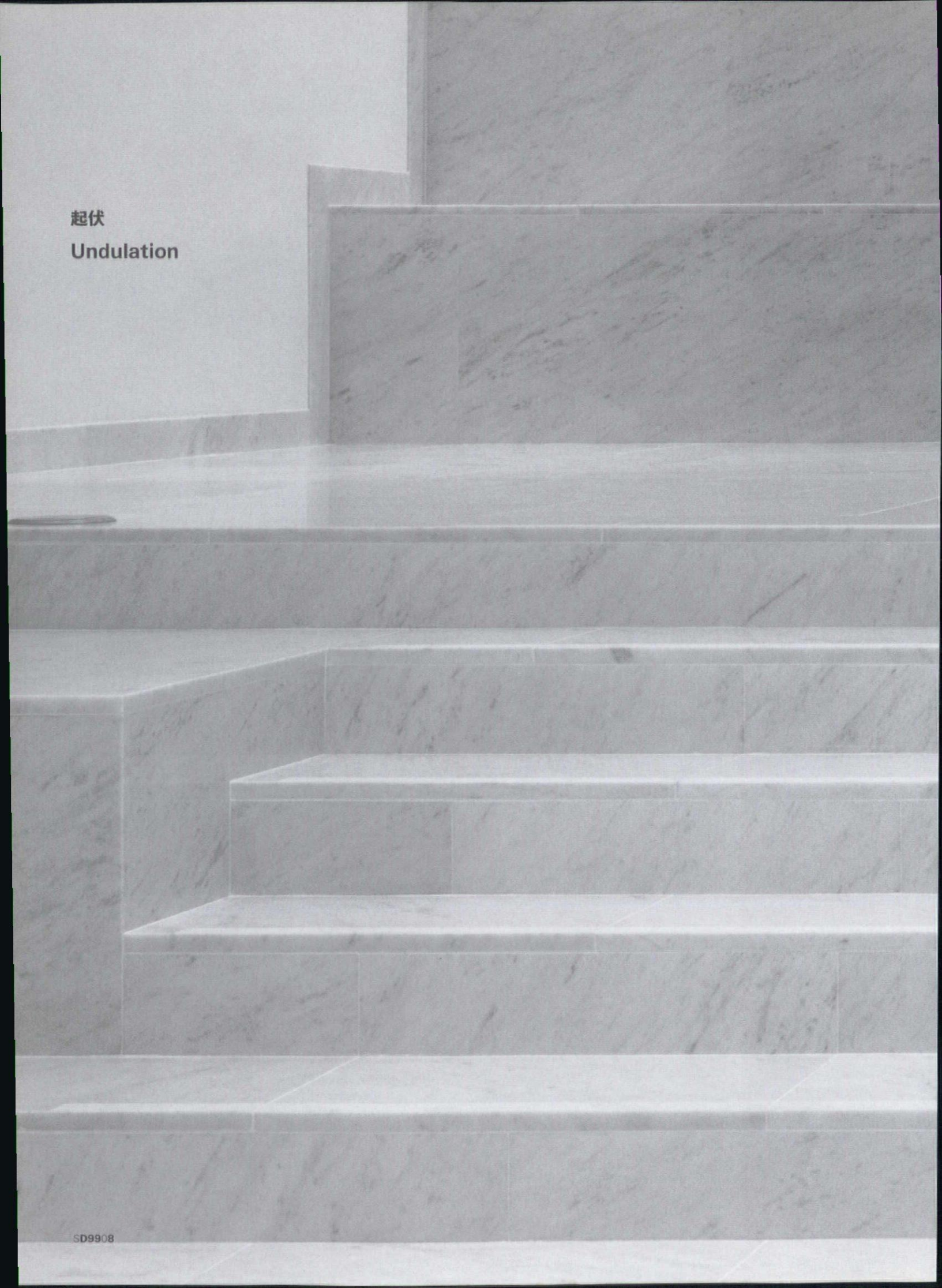
Stairs: Beyond Function

006	[Niitsu Art Forum] Tadashi Yokoyama + ALSED [Akino Fuku Museum] Terunobu Fujimori and Yoshio Uchida (Shusakusha) [Gifu Kitagata Apartment Sejima Wing] Kazuyo Sejima & Associates and Yamasei Sekkei [House in Gifu "WHITESTAGE"] Susumu Uno / C+A [Hosomi Museum] Tadasu Ohe / PLANTEC [Bosom of Mt. Kosaka] Masaki Tokui [Tokyo Marine Oyama Training Center] KAJIMA DESIGN [Kimura House] Shin Ohori / INTENTIONALLIES
026	[F5] Toshiaki Ishida [Tokyo Bicycle Health Insurance Association Hall] Takenaka Corporation, Tokyo Main Office [FOX] Norisada Maeda [PNS Building] Hiroshi Miyazaki / Plants Associates [White Echoes] Akira Yoneda / ARCITECTON
042	[Nakano House] Animal Hospital Kokoro / Shintaro Ajioka and Tatsuo Suzuki [Odakyu Southern Tower] Odakyu G Building Design Team [Water] Glass / Kengo Kuma & Associates [House in Nakagou] Hidehiko Masuda
054	[Toseian, Reigenkou-ji Temple] Takashi Yamaguchi [GOO FIELD] Katsuhiko Suzuki [House in Kitakusu] Akira Sakamoto Architect & Associates [House in Umegakou] Mitsuhiro Sato
069	Stairs in the Movies: Drama's Evocative Devices Takenobu Watanabe
075	Stairs in the Camera's Eye Junichi Shimomura
089	The Entropic Forest: Urban Infrastructure 8 Photo: Heiner Schilling Text: Hiroo Yamagata
094	Culture Cafe: This Month: Music, "Eileen Ivers" Peter Barakan
096	Culture Cafe: This Month: Film, "What Dreams may Come" Takashi Uzawa
098	Exhibition Report: "Tadao Ando: process of creation in 20 architecture" Kazuto Kasahara
100	Exhibition Report: Works of Fumihiko Maki and Special Commemorative Lecture Hiroshi Kagawa
102	Exhibition Report: Ming Chuan University "End of Year Exhibition" Gin Johannes
104	Book Review
106	Book Information
108	Announcement
Published by Kajima Institute Publishing Co., Ltd.	
6-5-13 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-8345, Japan TEL: 03-5561-2551 [Management], 03-5561-2555 [Editing] FAX: 03-5561-2561 [Management], 03-5561-2565 [Editing] TELEX: 02422467 KAJIMA J URL: http://www.kajima-publishing.co.jp	
Printed in Japan	
This Copy: ¥ 2,000 ¥ 30,000 a year ¥ 50,000 two years	
Order Form: Page 116	
Cover: [White Echoes] Akira Yoneda / ARCITECTON Photo: Koji Okumura Design: Nobuhiro Yamaguchi / Yamaguchi Design Office	

階段には、上下の階を繋ぐという機能を越えた、何か詩的な雰囲気漂っている。
そこには、明快な役割を担っているからこそ、逆に人々の心を惹きつけるたくさんの余白が存在しているのではないだろうか。

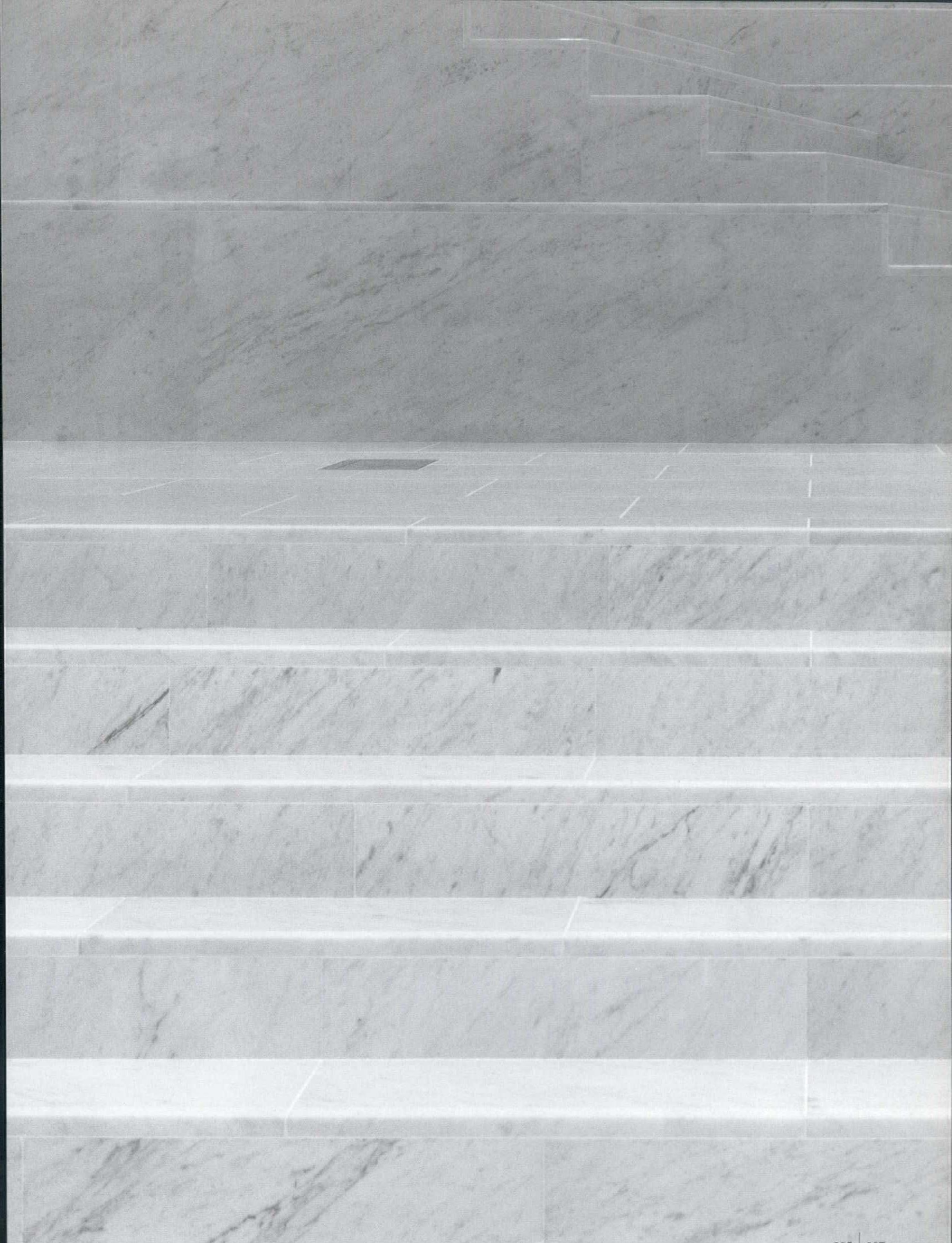
この特集は、
そうした階段で綴られたいわば詩集のようなものだ。
それは4つのキーワードで緩やかに分節されている。
「起伏」
「移ろい」
「軽み」
「天空」

建築家はその空気を感じとり、
そこに込めた寡黙な美に思いを馳せながら、
しばらくの間、階段とそれをめぐる
空間の生み出す耽美的な世界に身を委ねてみよう。



起伏

Undulation



新津市美術館

横山 正+アルセッド建築研究所

1997年

新潟県新津市

美術館

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 300

蹴上 : 150

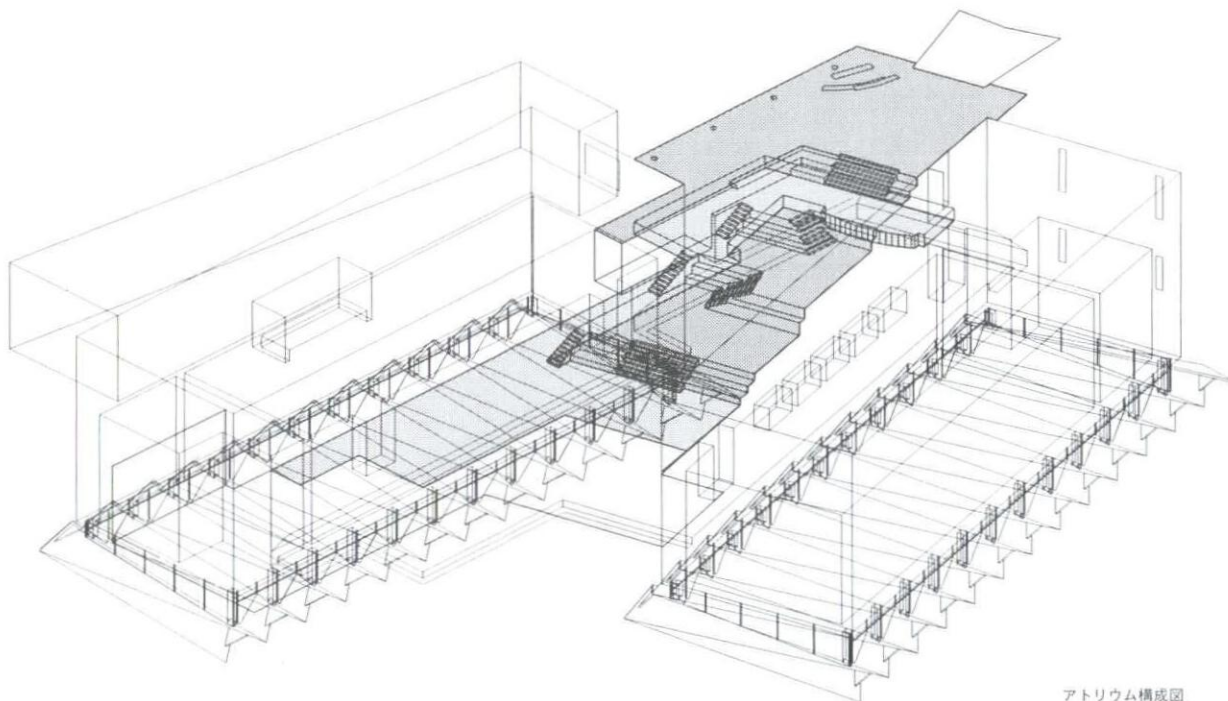
有効幅 : 900~4800

素材

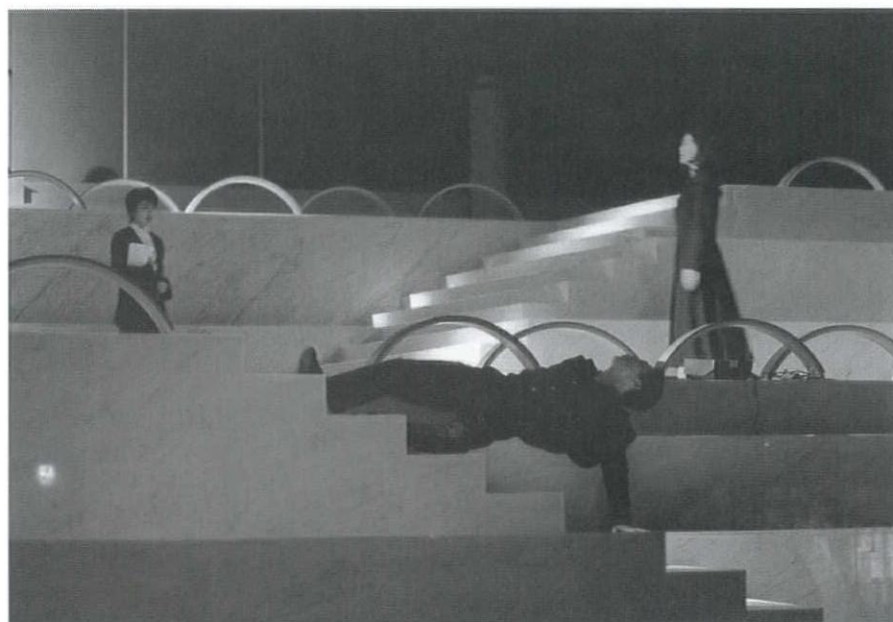
踏面・蹴上 : 大理石水磨

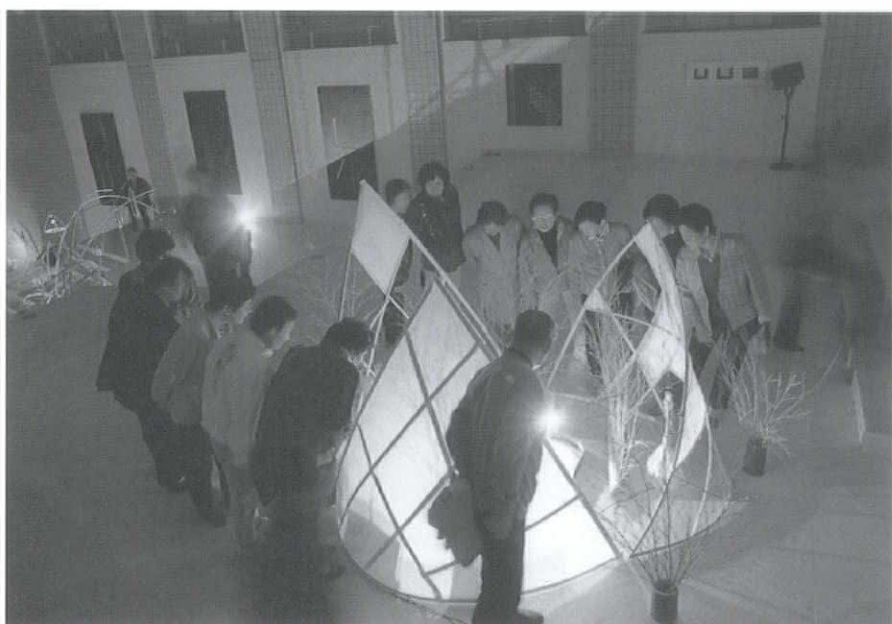
ローマのスペイン階段の、あの観客席にして同時に舞台でもある空間のことを考えていました。大理石を選んだのは軽やかさゆえです。花崗岩ではこの明るさと軽やかさは得られなかったでしょう。既存の美術館を訪れて感じる重たさ、あれを空間の造りでも材質感においても避けたかったのです。ここではアトリウムの空間が全体の要になっており、いっさいの部分がそれを中心に組み立てられ、回遊式の庭のような循環する経路が考えられています。主たる展示室ふたつは階段を上り切ったところにあり、それゆえアトリウムの空間はその導入路であり休みどころであり展示スペースであって、パフォーマンスやコンサートの時はまさに舞台にも観客席にもなります。この階段を上から下までフルに用いての上演も幾度も試みましたが、空間の流れが人の動きを誘発する面白さを味わいました。階段の最上段はさらに緑の丘陵へと繋がり、またそこで見返すと、はるかな緑の森の連なりがアトリウムの空間をそっと限ってくれるのです。

(横山 正)



アトリウム構成図





天竜市立秋野不矩美術館

藤森照信+内田祥士（習作舎）

1997年

静岡県天竜市

美術館

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 300

蹴上 : 159

有効幅 : 1510

素材

踏面 : 着色剤入白セメントモルタル

蹴上 : 着色剤入白セメントモルタル

壁 : RC打放し

手摺 : 半丸ステンレス鋼

手摺子 : ステンレス丸鋼

第2ホールに設けられた2階に上る階段である。

美術館の階高は、展示室の必要天井高の問題から、通常よりかなり高くなる。その結果、こうした形式の吹抜け階段は、どうしても縦に深い吹抜けとなる。そこで、それを逆手にとって積極的に深い吹抜けをと考えた。ただそのままでは少し窮屈なので、収蔵庫の壁を少しだけ傾け、さらに鉄砲階段がつくり出すスリット空間と2階の廊下を組み合わせることでバランスをとった。

仕上げは、左官の床にRC打放しの壁、それに木の天井という単純な構成である。

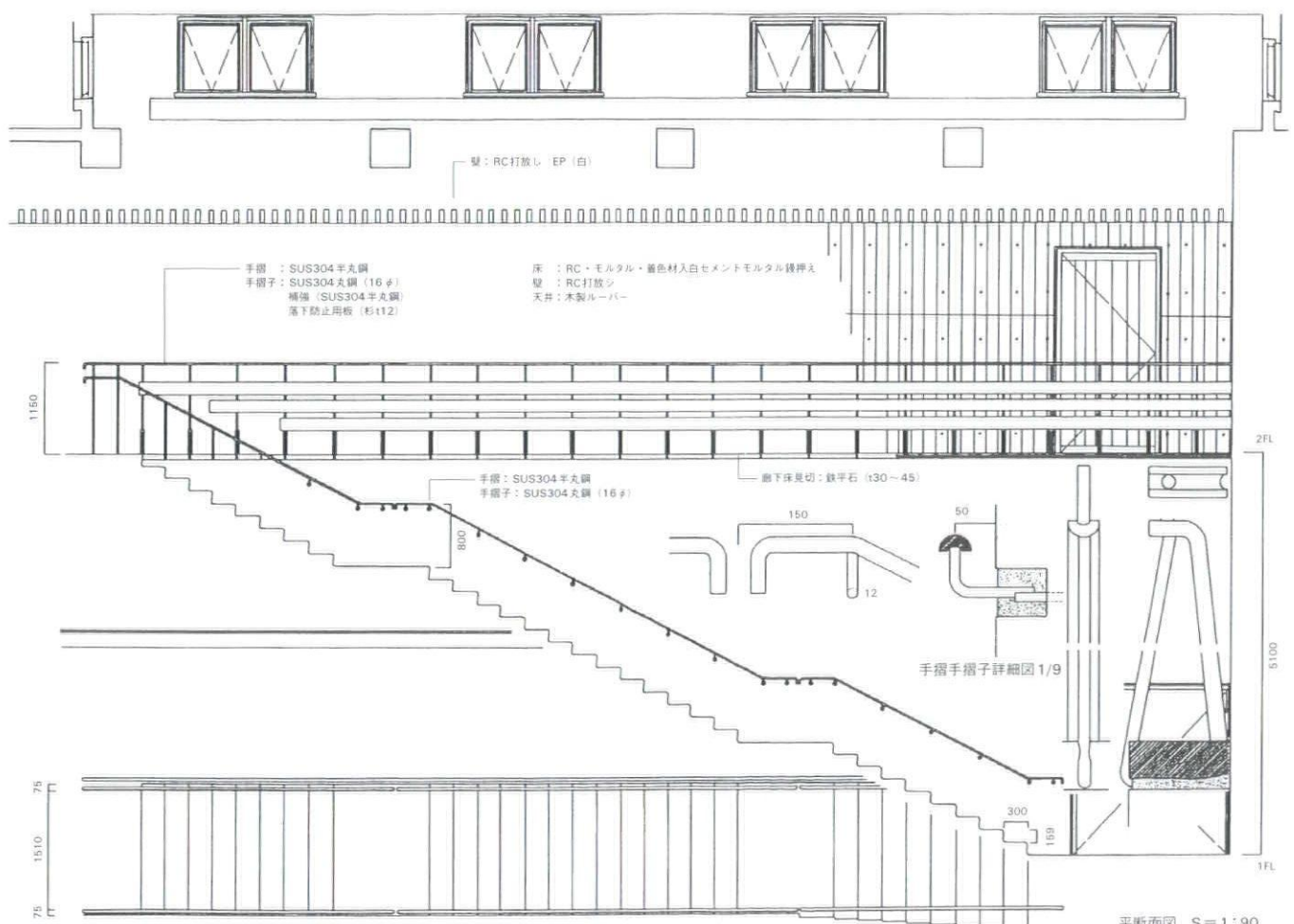
床の左官は着色材入白セメントモルタルを鏝で押えたもの。

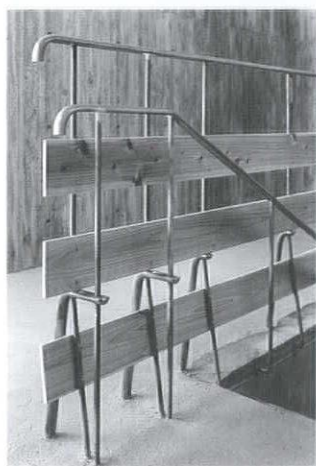
壁のRC打放しは、使用済合板型枠の表面に杉板を打ち付けて補強した型枠による打放し。

木製天井は、第2ホール部分が長崎のグラバー邸等の天井に用いられた菱組、廊下部分はルーバーで、いずれも地場の杉材である。

手摺部分は、手摺を半丸ステンレス鋼、手摺子をステンレス丸鋼とした。

半丸鋼は船舶用の鋼材で、今は廃番になっているとのことである。（内田祥士）





岐阜県営住宅ハイタウン北方南ブロック妹島棟

妹島和世建築設計事務所・山清設計

1998年

岐阜県北方町

共同住宅

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 240

蹴上 : 184.33

有効幅 : 910

素材

ささら : スチール PL-12 溶融亜鉛メッキ

踏板・蹴込板 : 鋼板 $t=4.5$ 溶融亜鉛メッキ

手摺 : スチール 24.4 $\phi \times 2.0$ 溶融亜鉛メッキ

手摺子 : スチール RB-13 ϕ 溶融亜鉛メッキ

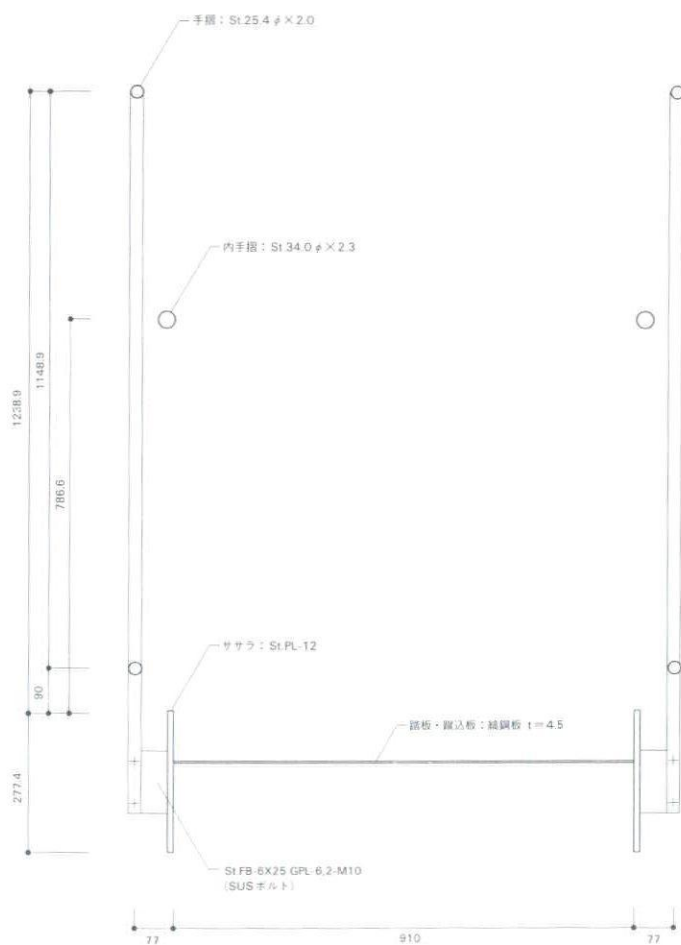
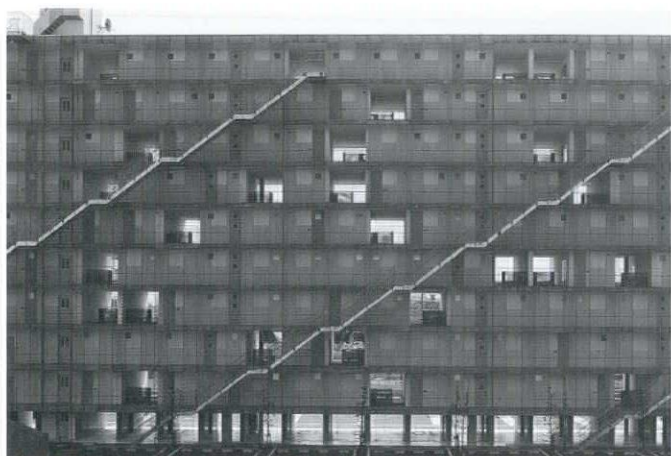
この階段は、躯体から鉄骨部材を片持ちで跳ね出し、各階の踊り場でササラとボルト取りされた鉄骨階段で、すべての部材が溶融亜鉛メッキ仕上げとなっている。

建物ができる限り奥行きを抑えて敷地の形に沿って細長く建っているのに合わせ、1階から10階まで折り返しのない直通階段になっている。踊り場の位置が階によって異なり、住人は各階においているような所からこの階段を利用できる。

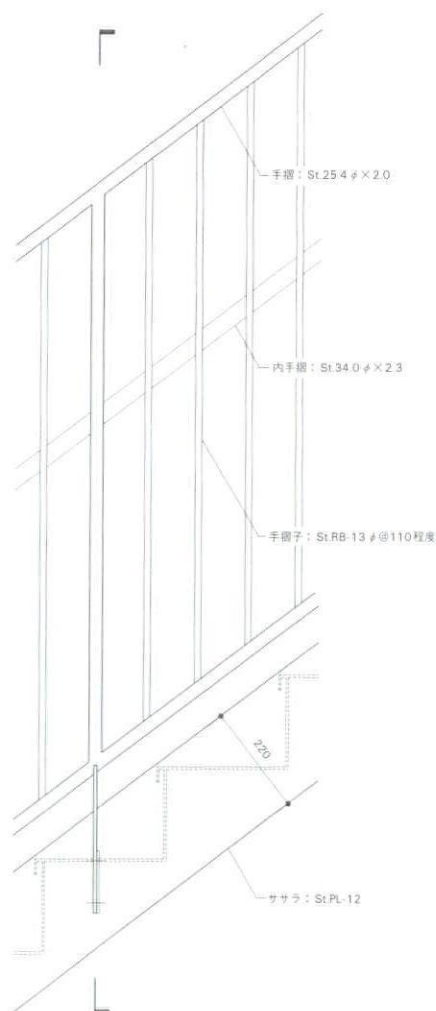
この階段は避難階段にもなっており、避難距離の制限を満たすためほぼ同じ間隔で配置されている。通常、暗く退屈になりがちな集合住宅の北側立面において、この階段はランダムに空けられている各住戸のテラスと相まってリズムを作り出し、生活する人々の行動する様を映し出している。

(時森康一郎／妹島和世建築設計事務所)





詳細図 S=1:15



岐阜の住宅 ホワイトステージ

宇野 亨／C+A

1998年

岐阜県岐阜市

住宅

この建築は、庭と繋がる大きいヴォイドボリュームと、その左右の細長いマスボリュームで構成されている。マスボリュームのひとつに掘り込まれた開口からは、階段が顔を覗かせている。階段及びその始点と終点がどの空間に属し、どのような関係となるかに興味がある。ここでは、始点の段床を伴う小さな空間が、ヴォイドボリュームに対して何らかの行為の手掛りになるように配慮した。掘り込まれた場所が暗くならないように、奥まった壁にはフロストガラスのスリットから自然光を取り入れた。蹴上げ、踏み面の仕上げは、この空間がマスボリュームともヴォイドボリュームとも異なる性格であることを示すために素材を変えている。また、階段がマスボリュームから割り抜かれた空間であることを強調するため、手摺を無くした。この階段は、1階と2階のヴォイドボリュームが切断されているのを接続する、小さいが重要な3つ目のボリュームである。(宇野 亨)

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 225

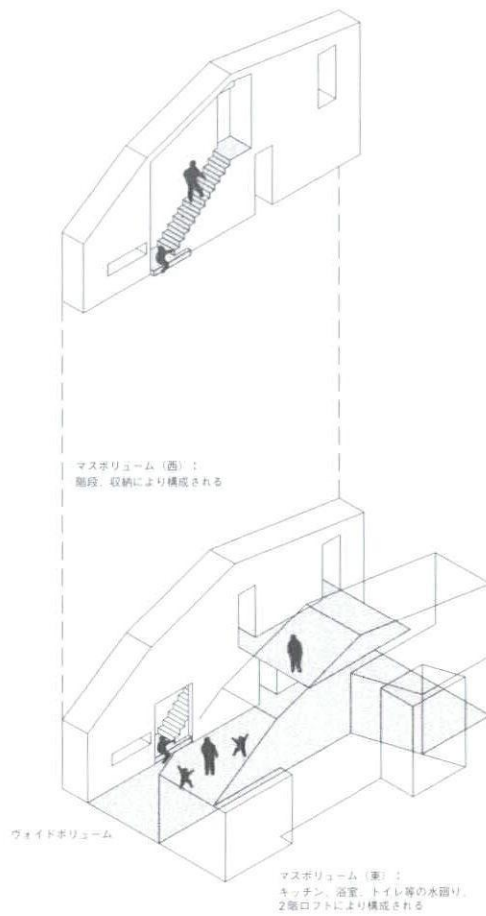
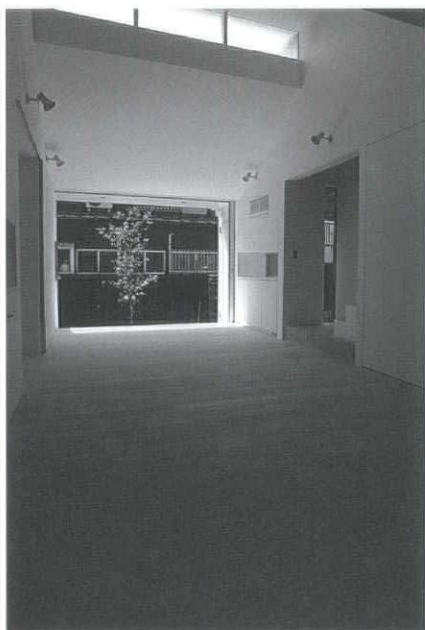
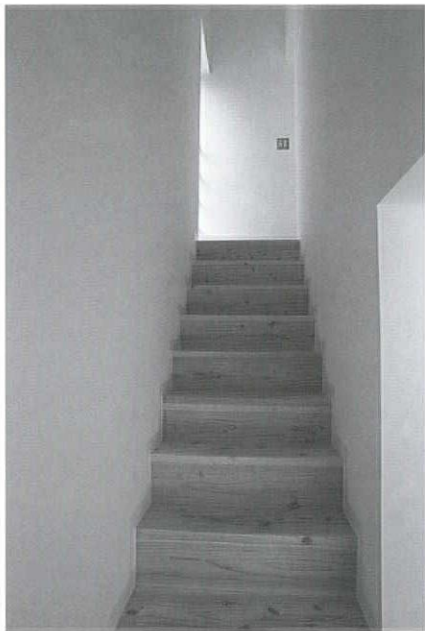
蹴上 : 200

有効幅 : 755

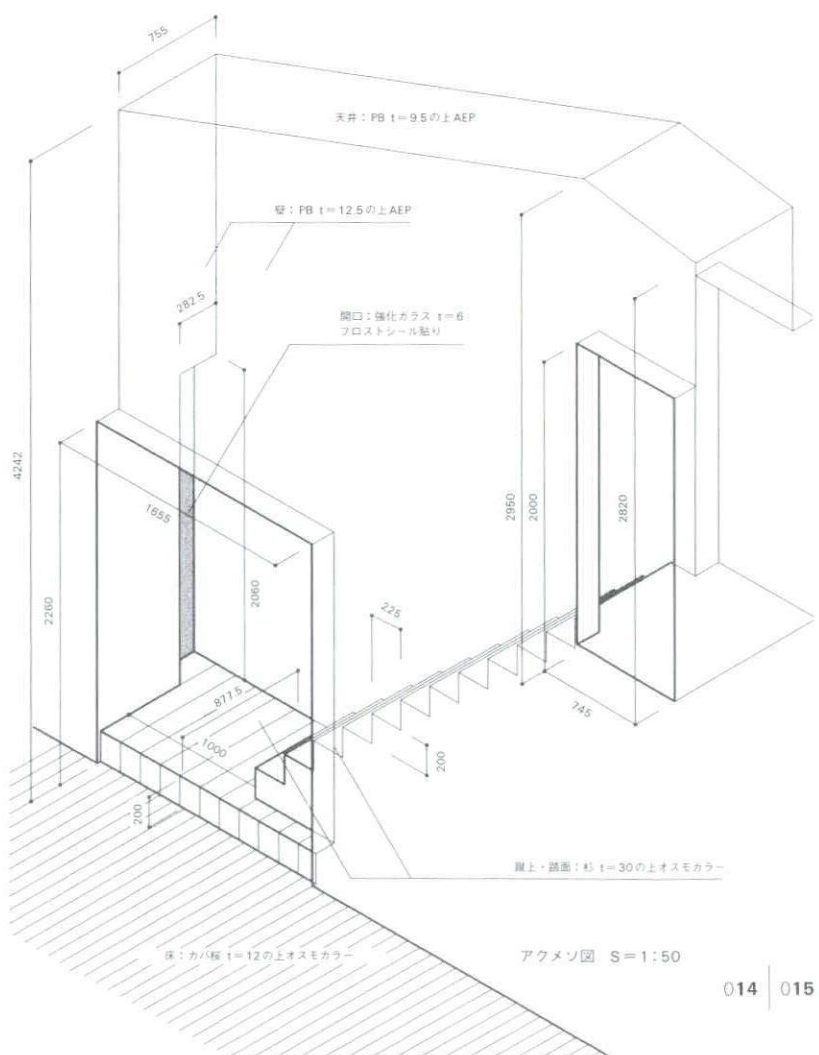
素材

踏面・蹴上 : 杉 $t=30$ の上オスモカラー





建築構成図



細見美術館

大江 匡／プランテック

1997年

京都市左京区

美術館



踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 300

蹴上 : 185～190

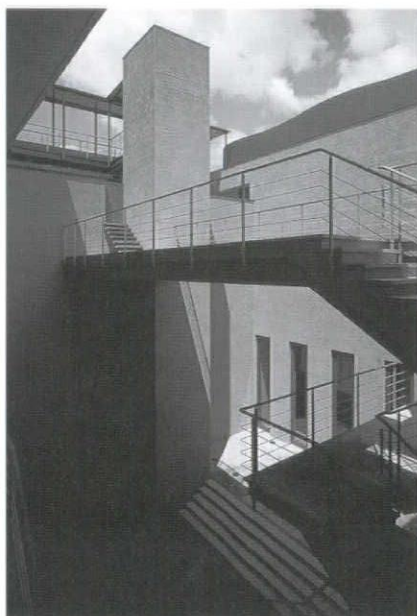
有効幅 : 1200～1700

素材

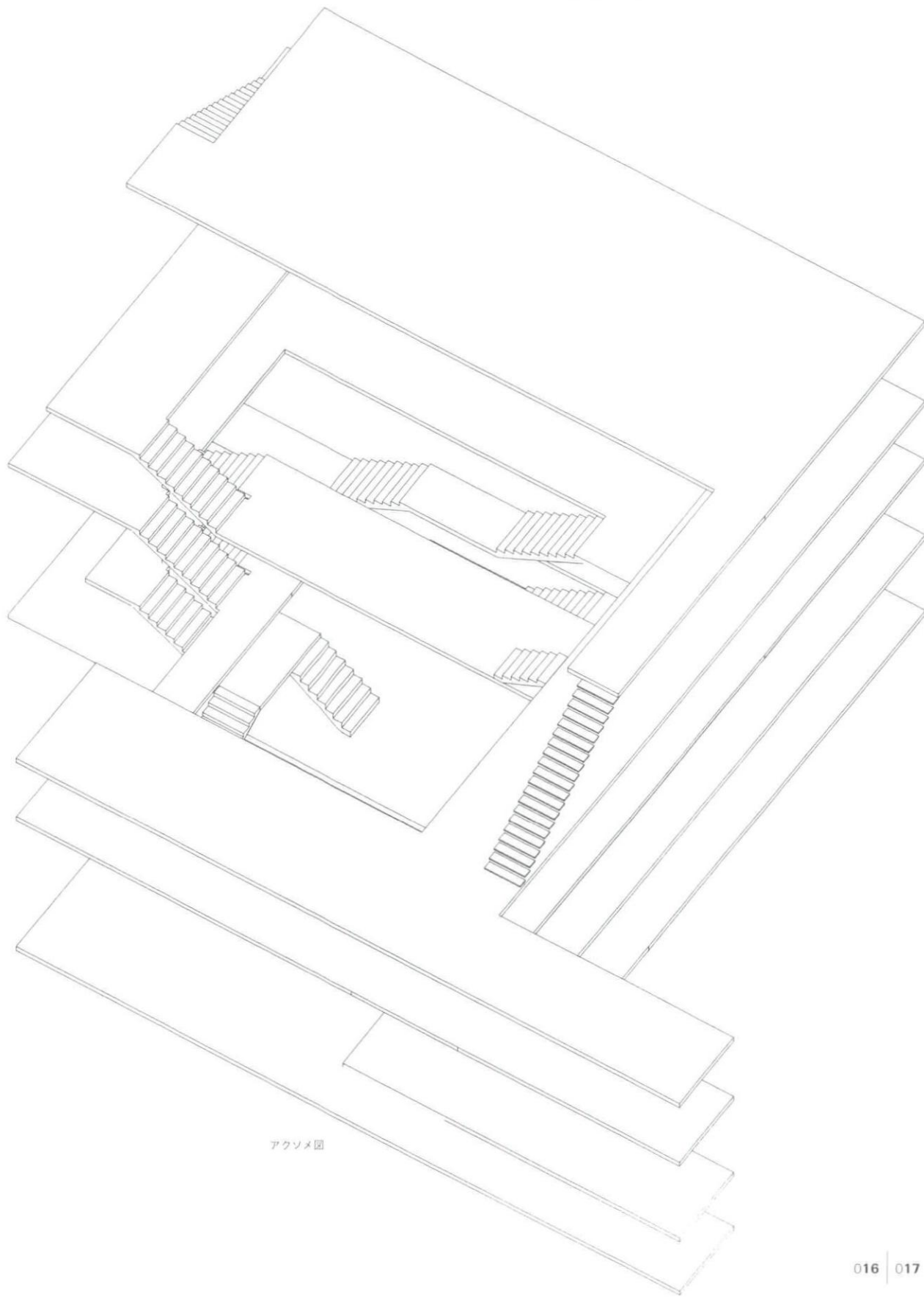
ささら：フッコーマジックコート櫛目横引き仕上げ

踏面 : チーク材

手摺 : チーク材



路地や庭を挟んで見え隠れする内部空間や外部空間、建物や部屋同士を結ぶ空間構成、そしてその動線で感じる不思議な感覚。「京都らしい空間構成とは」、これがこの問いに対するひとつの回答です。法的規制もあり必要容積を地下へ掘り下げざるを得ない計画の中で、地下2階まで続く大きなサンクンガーデンを創り、それを取り囲むように展示空間や必要諸室を配置しました。1階を第1展示室とし、地下2階までの上下に連続する展示空間をこのサンクンガーデンに面する階段で上下します。つまり展示室間を移動するのに必ずサンクンガーデンに出て階段を利用するのです。また3階には遠く東山を望め展示室としても機能する茶室を設けました。ここへも外部へ設置した階段で上ります。様々な時代の仏教美術を展示する個人美術館。それら美術品が持つ時間的、空間的奥行きを、地下に掘り下げるという行為、つまり地質学的な時間の層と建築空間を絡め表現しました。階段を上下する際に見える様々なシーンが、どこか「京都らしさ」を感じさせることができればと考えます。(泉 俊哉/プランテック)



アクソメ図

小坂山の懐

徳井正樹建築研究室

1996年

群馬県高崎市

専用住宅

ただ2階に上がる最小限の仕掛けとして、何気無いものにしたかった。

私を含めとかく階段に対する建築家の思いはとても大きく、空間を離れて単体として成立するモニュメンタリーなものなども多く見かけるが、ここではそれとは対照的に、壁から引き出されてきた板が段状に続いているといった単純な構成である。

だから素材は壁と踏み板の2点だけ、漆喰をベースに6mm径の白竜を角鋸で水平に引っ掻いた壁から、丸太から挽いたままのカツラとケヤキの板が生えてきたように突き出ているだけだ。ディテールもいたってシンプル。ただこの建物のテーマ、「山の懐、家族の巣」からして、2つの主材同士が直接ぶつかる部分や段板の木端は、より懐や巣らしく直線的なラインを排し両者がねっとりと絡み合っている様に心掛けた。最も設計者を必要としない階段の一例である。(徳井正樹)

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 210~230

蹴上 : 190

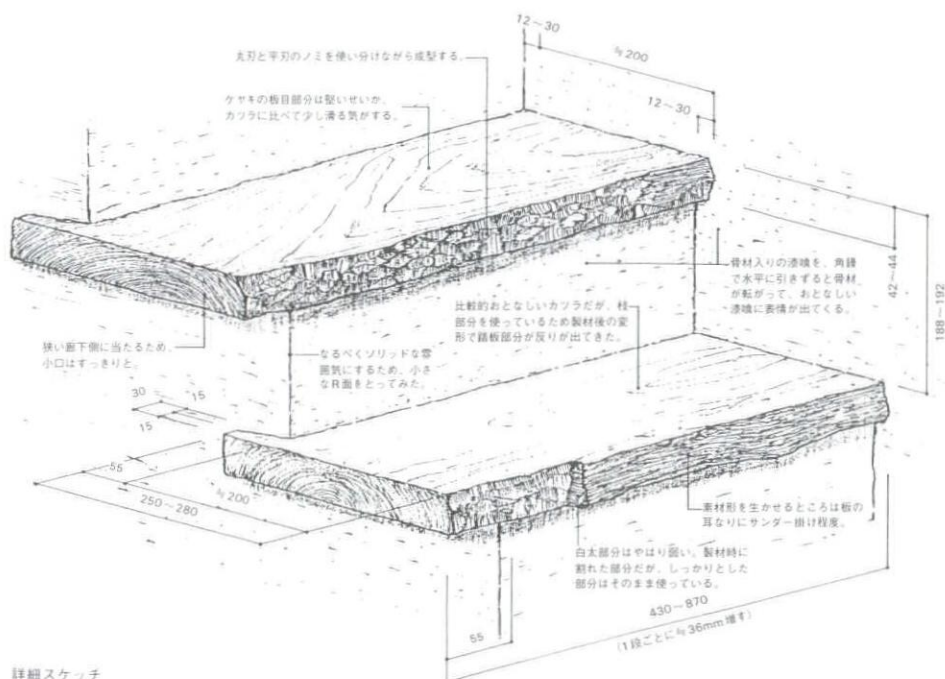
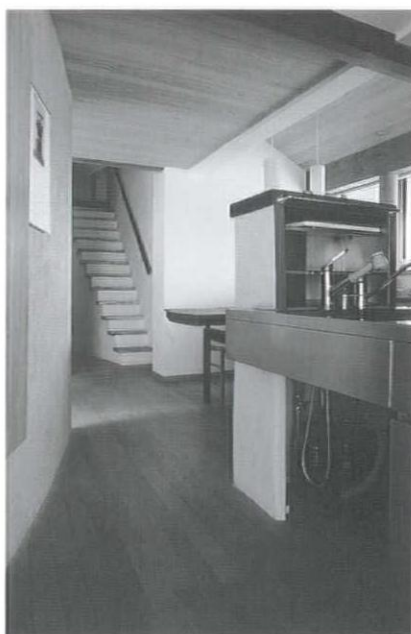
有効幅 : 430~870

素材

踏面 : カツラ、ケヤキ $t=42\sim45$ 、無塗装
(木端はノミ刃削り表し)

手摺 : チーク、セブラ、トチ

壁 : 漆喰角縁引っ掻き仕上げ



詳細スケッチ



東京海上東日本研修センター

KAJIMA DESIGN 担当：押野見邦英

1994年

栃木県河内郡南河内町

研修所

この階段のあるホールは、スカイライトが射すラフなテラコッタ・タイルの床と鉄錆色の塗り壁の空間で、2階のバルコニーからは農耕風景のランドスケープが望める。階段はシェーカー教徒の使う道具のような繊細さと素直さを備えたものであって、どこか土の匂いを漂わすものであって欲しいと願った。黒皮仕上げの厚板鉄板で全体を構成し、段板をはねだして鉄の厚みと質感を見せて農具のような素朴さを表わすと共に、段裏の折り返しをリチャード・セラのアートワークのように美しく見せることを意図した。そのために歪みが出ないよう溶接には注意が払われ、すべて開先処理のうえ溶接されグラインダー仕上げが施された。手摺は同じ黒皮付きのフラットバーであるが、中柵は軽快さを強調するためステンレスワイヤーを張ったが、シンプルな取り合いとするため、フラットバーに斜めの穴あけを施したり、引張り金物を工夫した。

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 300

蹴上 : 154

有効幅 : 1300

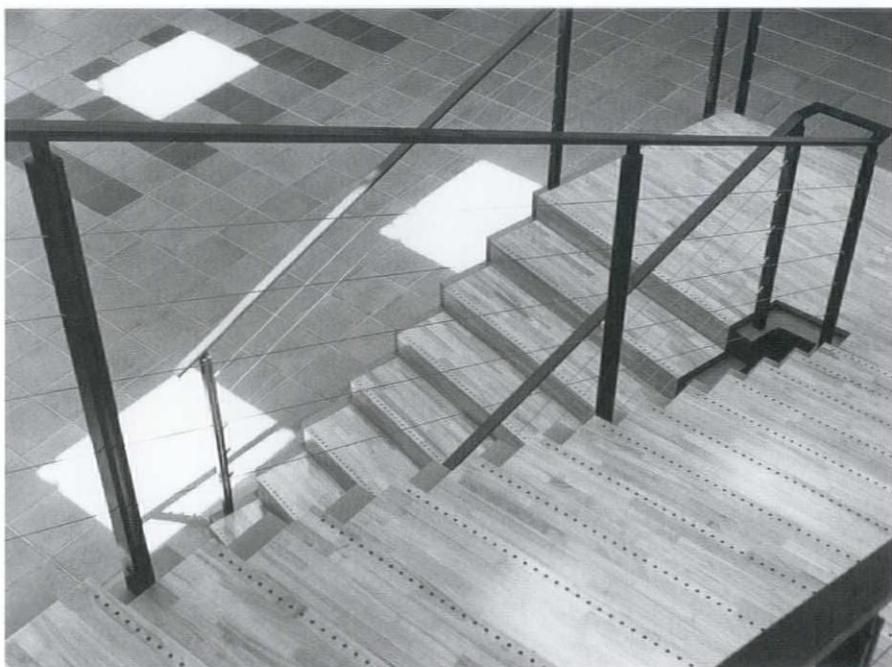
素材

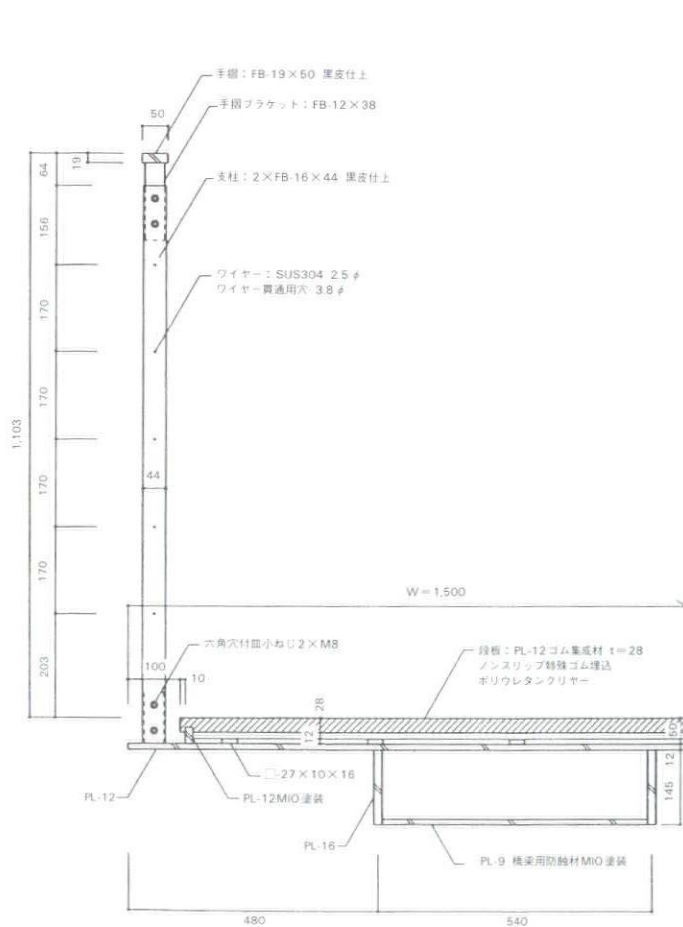
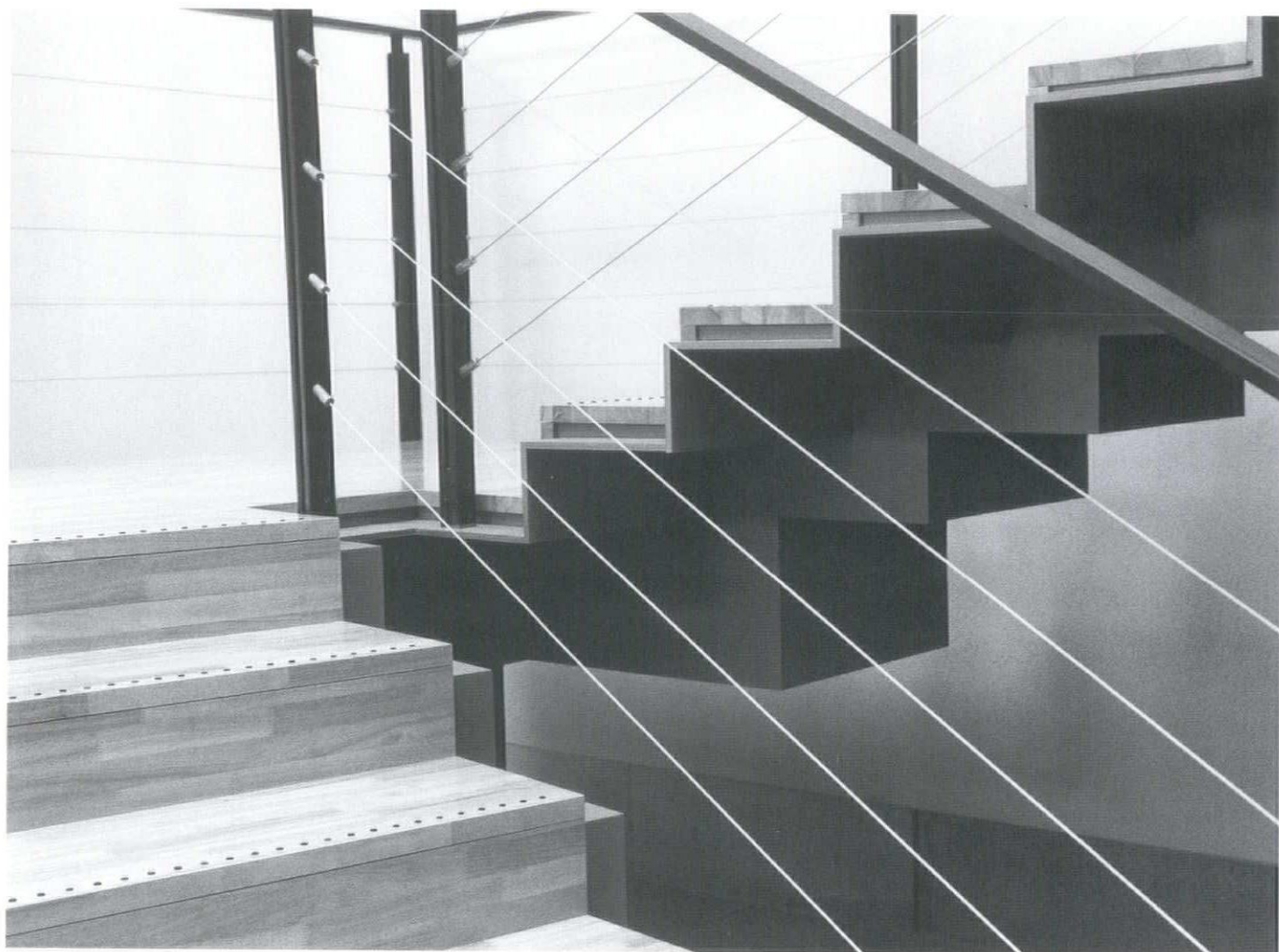
段板 : PL-12 ゴム集成材 t=28 ノンスリップ特殊ゴム埋込み ポリウレタンクリヤー

手摺 : FB-19×50 黒皮仕上げ

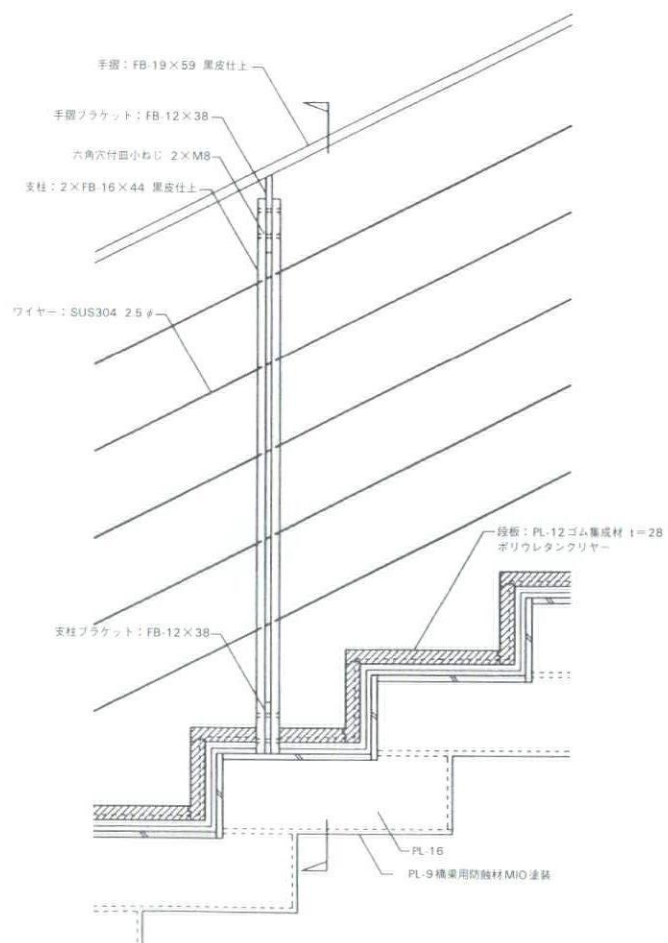
手摺支柱 : 2×FB-16×44 黒皮仕上げ

ワイヤー : SUS304 2.5φ (ワイヤー貫通穴 3.8φ)

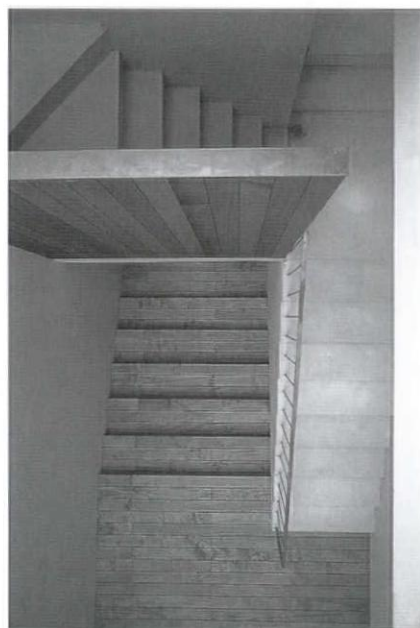




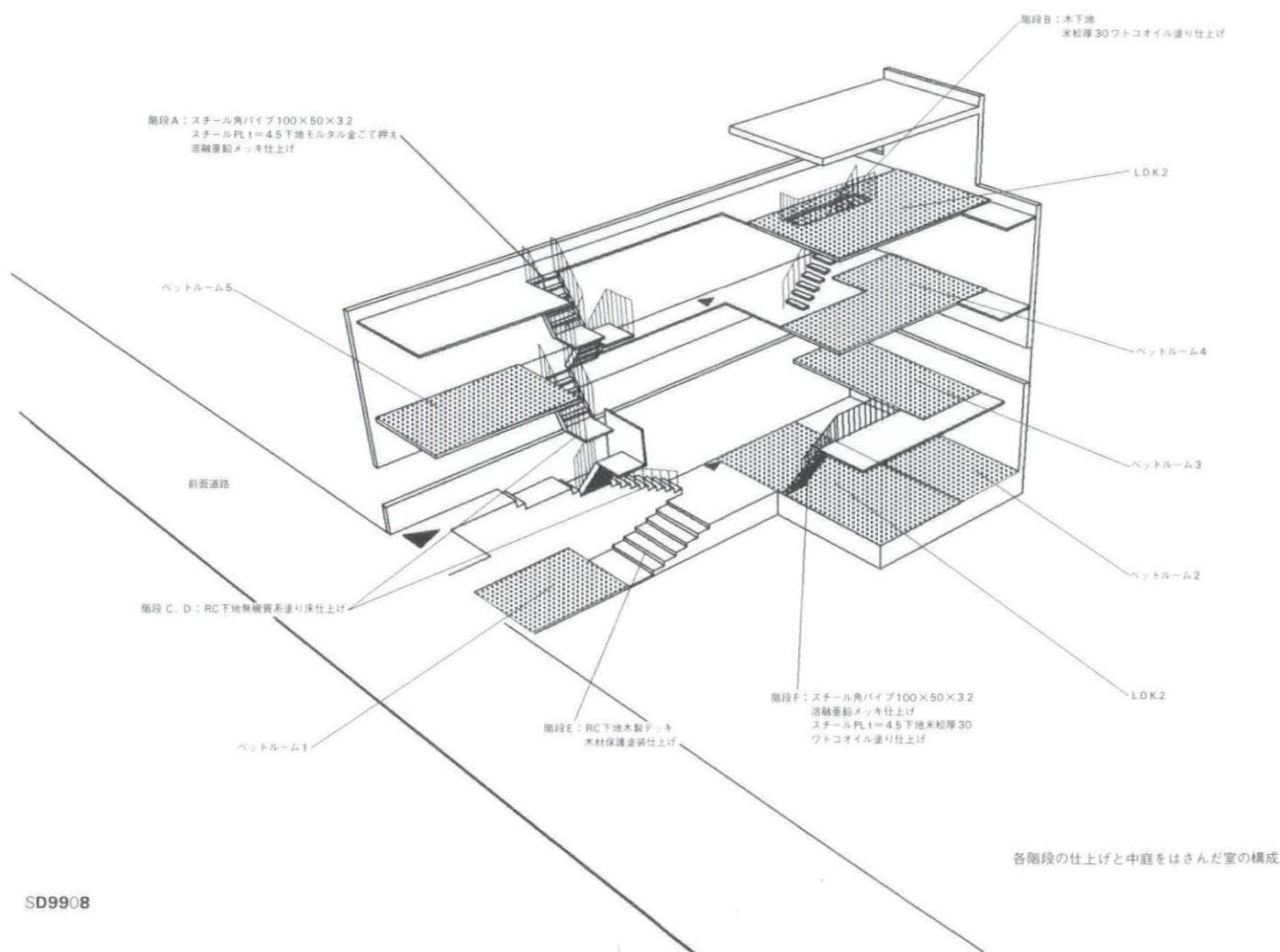
詳細図 S=1:15



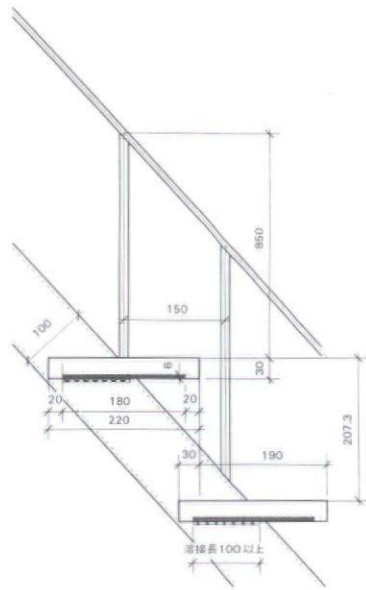
住宅



住人たちは中庭越しに見える階段を行き来する家族の様子を眺めながら、それぞれの生活を楽しむみたい
な感じの毎日のようです。(大堀 伸 / 現在ジェネラルデザイン主室)

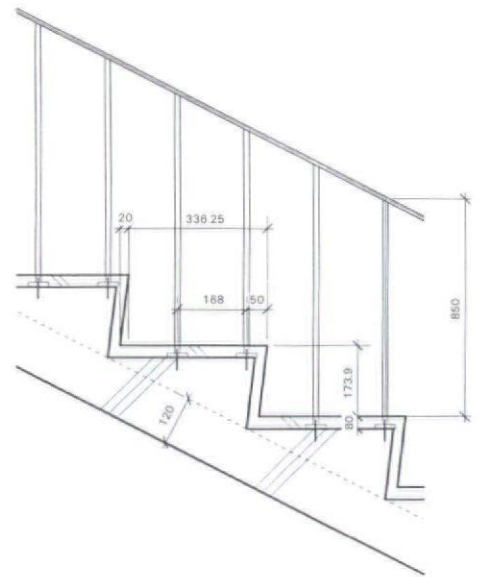






手摺 : スチールFB9×32
 手摺子 : 丸鋼13φ
 ササ材 : スチール角パイプ100×50×3.2
 段板 : スチールPL-6×180×650下地
 米粒厚30フコオイル塗り仕上
 *スチール部分は溶融亜鉛メッキ仕上

階段A詳細図 S=1:30

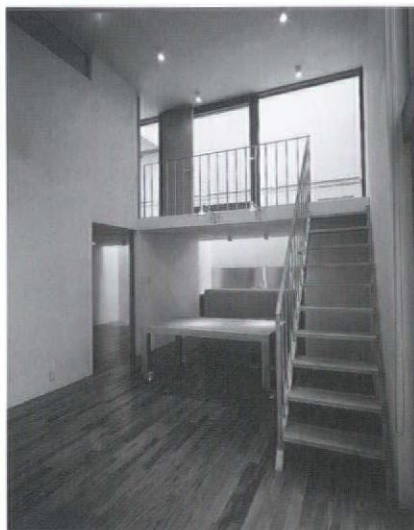


手摺 : スチールFB9×32
 手摺子 : 丸鋼13φ
 踏面部分 : RC下地無機質系塗床仕上
 *スチール部分は溶融亜鉛メッキ仕上

外部階段A詳細図 S=1:30

素材

手摺 : スチールFB-9×32、13φ@150
 溶融亜鉛メッキ仕上
 (階段A～F共通)





移ろい

Transition

F5

石田敏明建築設計事務所

プロデュース：建築プロデュース研究所

1998年

東京都中野区

歯科医院・住宅

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 225

蹴上 : 198 (1階～2階)、208 (2階～3階)

有効幅 : 750

素材

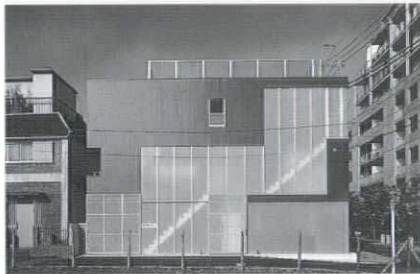
踏面：木製フローリング

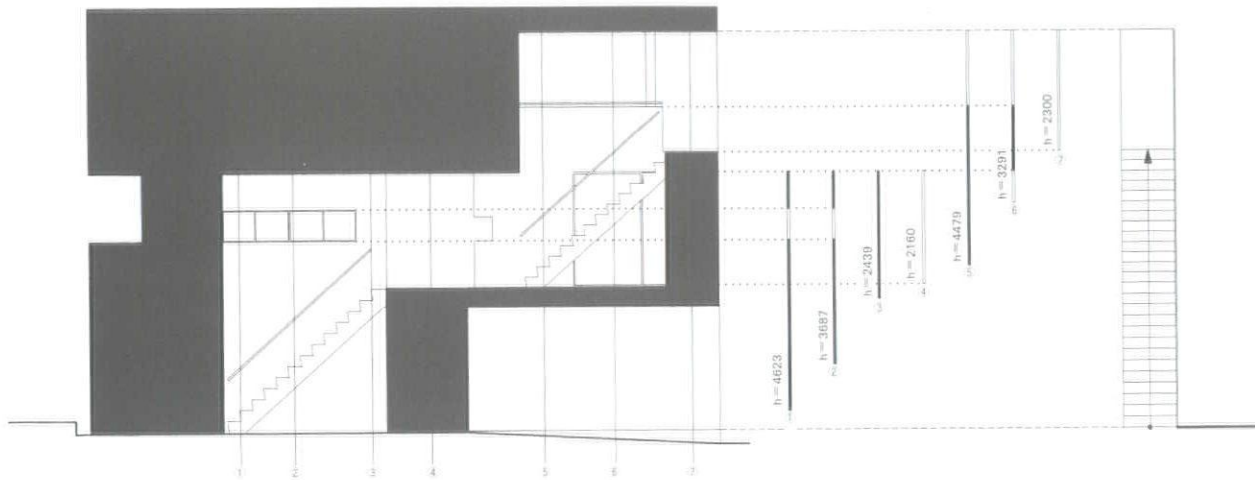
蹴上：ハードメイプル突板

手摺：スチール 34 φ

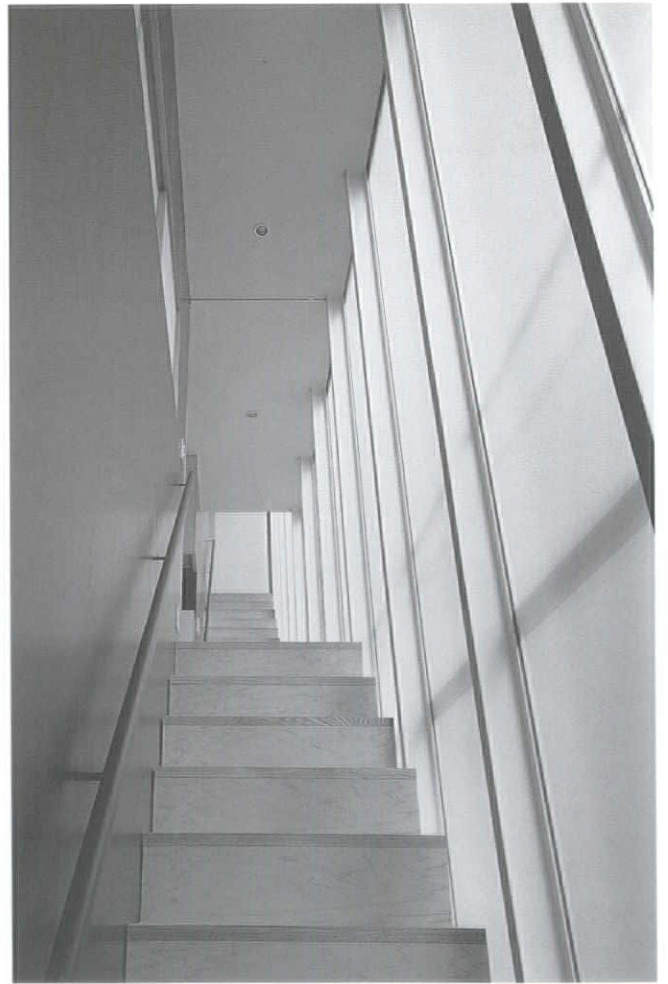
建物は歯科医院と住まいが一体になった併用住宅であり、新宿の超高層群を近くに望む再開発地区と、2階建ての建物が密集した古い住宅地区との境界付近に位置している。その外皮はダークブラウンに着色されたガルバリウム・スパンデルと半透明フィルム貼りのガラスカーテンウォールで構成され、異なるふたつの用途を分けることなくひとつに統合している。

建物の1階から3階をつないでいる直階段は、空間的には外部の騒音や内部のプライバシーのバッファゾーンとなり、外皮の半透明スクリーンを通して生活のアクティビティが曖昧なシルエットとなって街路に映し出される。内部には、階段を挟んでダークグレイに着色された内壁があり、紙障子やフラッシュの引戸など、室内の開口が階段室に向けて設けられている。これらの開口を通して光や風を間接的に柔らかに各室に導くことができる。このように、皮膜を重ねることで内部と外部を媒介する場をつくり、都市の一部のような開放的な場を建物の中につくろうとするひとつの試みである。





断面构成图 S=1:150



東京自転車健康保険組合会館

竹中工務店東京本店設計部 担当：赤坂喜顕、廣島正明、喜多淳子

1995年

東京都台東区

事務所

中庭に面し、自然光を効果的に導入した小さなコアスペースに、視覚的な広がりを意図したシンプルな段板のみで構成された内部階段である。段板は、既製品の薄いスチールL形鋼の組み合わせにより成り、さらにプレートの片側をコンクリート壁に打ち込み、壁からのキャンティレバーとしている。蹴込みは、段板の重ね寸法を十分にとることで自然光と視線の透過をバランスさせながら、わずかにアングルのアール部分を見せることで、シャープな鋭さの中に、柔らかな表情を創り出している。

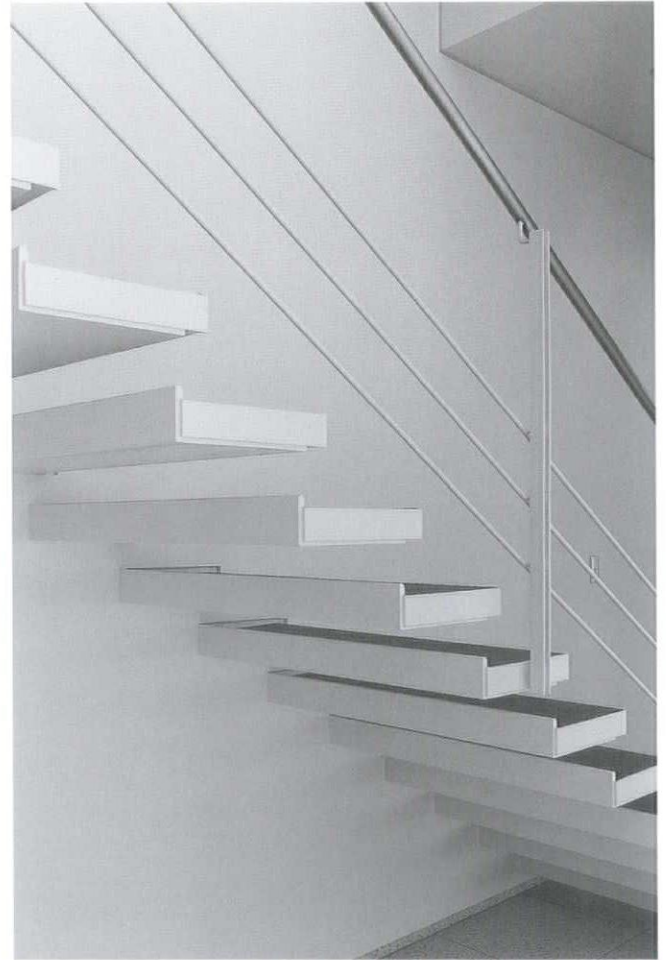
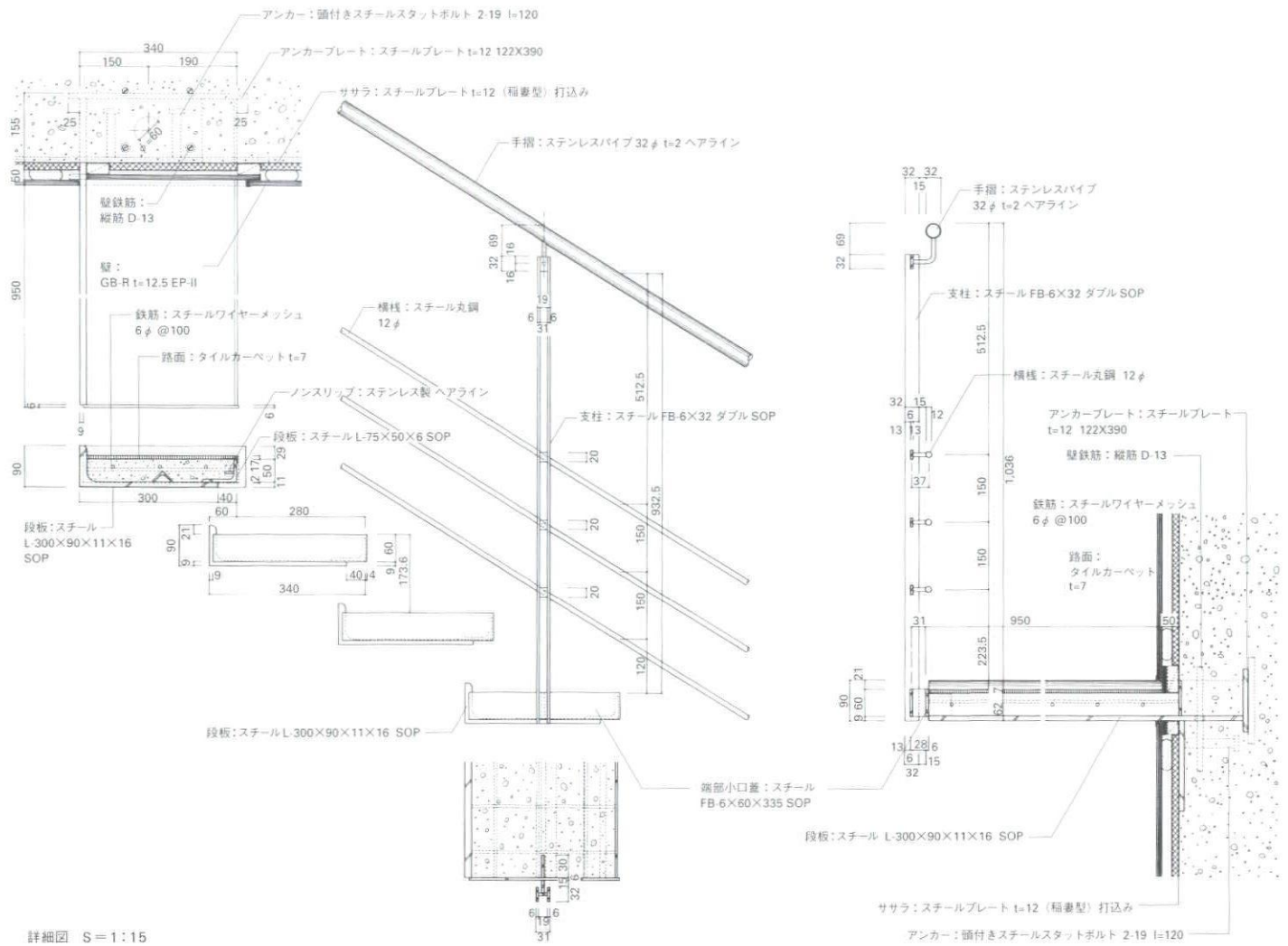
踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 280
蹴上 : 173.6
有効幅 : 950

素材

段板 : スチールL-300×90×11×16 SOP
端部小口蓋 : スチールFB-6×60×335 SOP
踏面 : タイルカーペット t=7
手摺 : ステンレスパイプ32φ t=2 ヘアライン
手摺子 : スチール FB-6×32ダブル SOP





FOX

前田紀貞アトリエ

1996年

神奈川県

専用住宅

この建物の基本的な考え方は、それ自体「空っぽの箱」を造ることで、それに対する豊かな応答を環境から導き出すことにあった。そこでの階段の役割は、上部トップライトからの光を2階を經由して1階の各部屋まで導くことにあり、それはこの階段と反対側の領域が眺望（海を見渡せる）を介して応答を期待しているのとは対比的な配慮による。

このため、段板の素材には半透明のポリカーボネート板が使われ、ささらや手摺、支持部材、配色等は可能な限り簡素なもので考えられている。外部からの応答を得ることを最も大切にする事で、ディテールやデザインにはあまり主張をさせず、光の効果のみを最大限生かすよう配慮がなされている。技術的にはポリカーボネート板の熱変形（トップライトからの熱が直接入り込む）、踏んだ時の音鳴り防止などの処置は適切になされなければならないであろう。

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 213

蹴上 : 200

有効幅 : 750

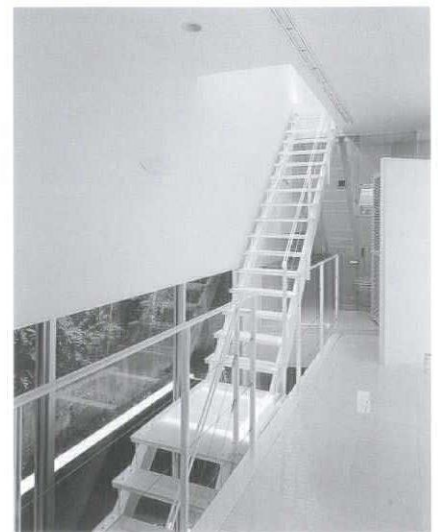
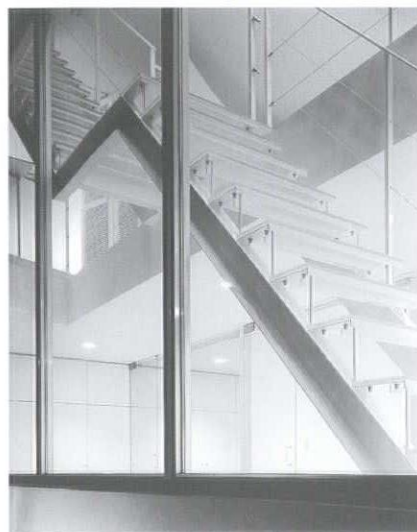
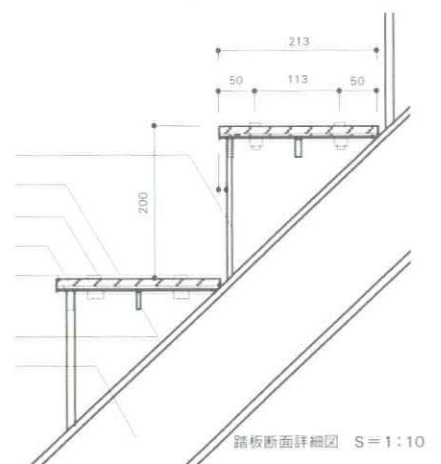
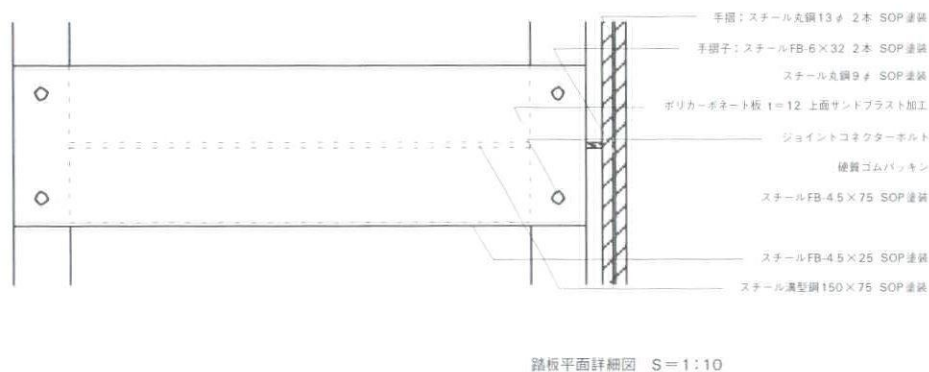
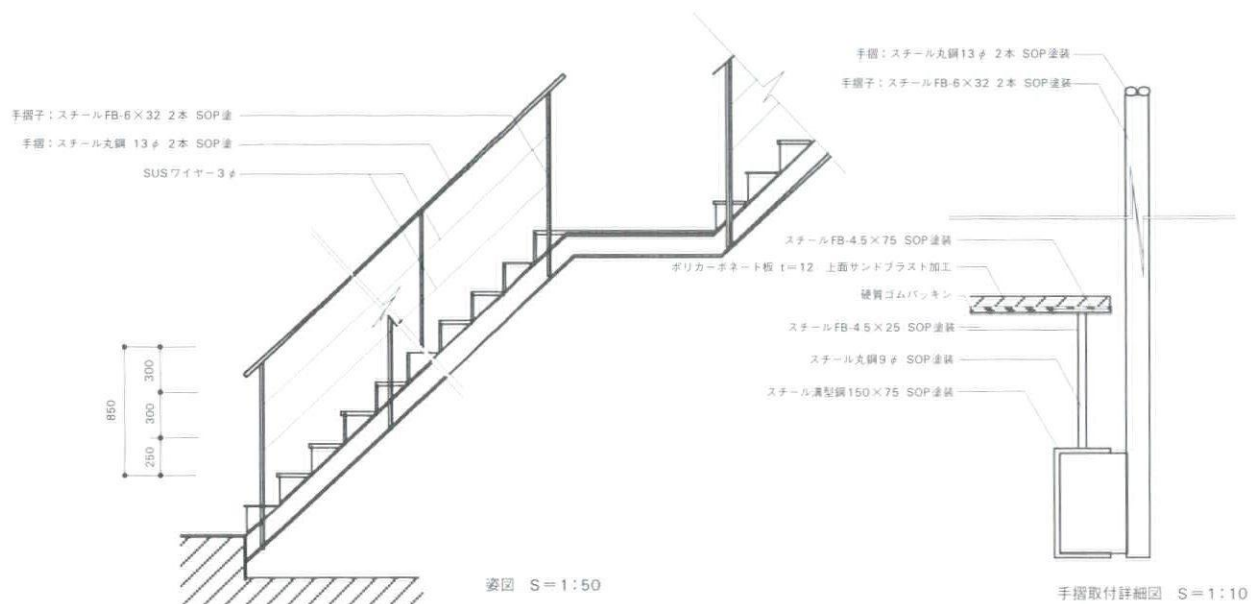
素材

ささら : スチール溝型鋼

踏面 : ポリカーボネート板

手摺 : スチール丸鋼 13φ2本





NSPビル

宮崎 浩／プランツアソシエイツ

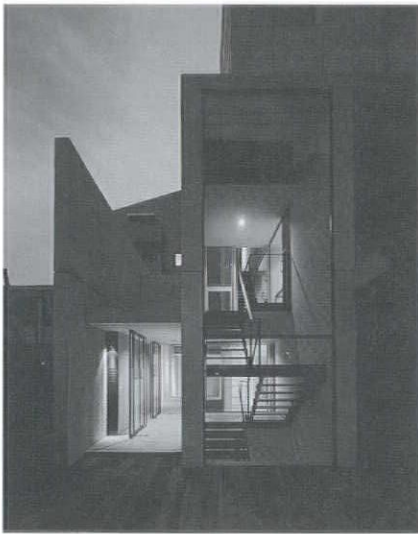
1997年

東京都中野区

事務所・住宅

建物北側のオフィス部分に配置されたこの階段は、タペストリー加工されたガラスブロックによる光の壁を背景に、シルエットとして浮かび上がることを意図してデザインされている。

NSPビルでは、存在感をもつ素材としてスチールによる開口部や金物の表現がひとつのテーマであった。ここでも、シャープでありながら力強いスチールの魅力を活かすため、可能な限りシンプルな構成とすることを目指した。稲妻型のささら桁と段板は、垂直方向に空間を連続させる部品として、壁面とわずかにクリアランスをとって配置されている。またささら桁は、22mmの厚板から切り出した上で中間部をブラケットで支持することによって、見え掛り幅を100mmとしている。踏面には、スチールに対応する存在感をもつ仕上げとしてモルタル金ゴテ押えを選択し、耐久性を考慮して表面硬化剤および撥水剤を塗布した。



踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 250

蹴上 : 175

有効幅 : 766

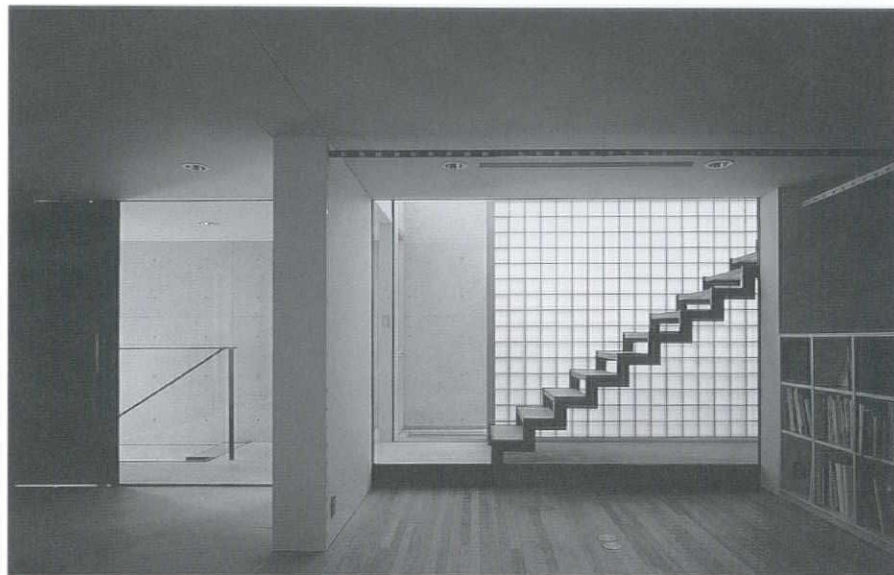
素材

ささら : スチールプレート t=22

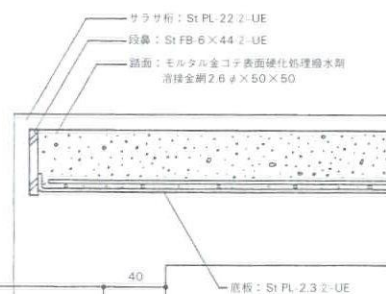
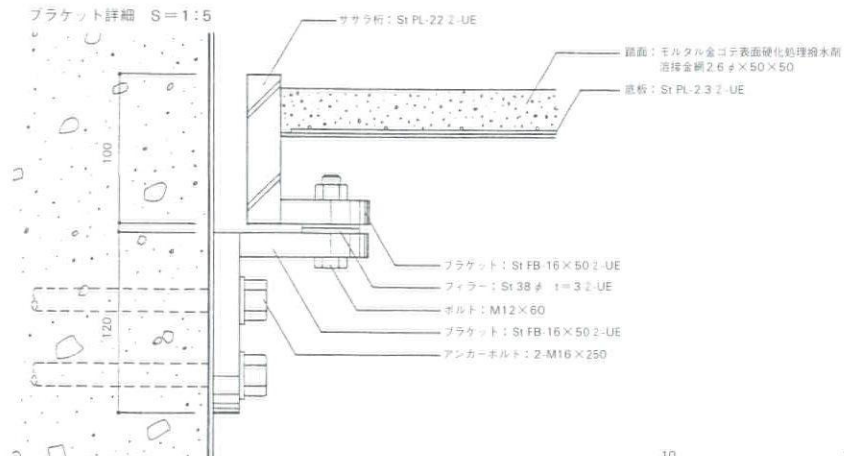
踏面 : モルタル金ゴテ押え

表面硬化剤および浸透性撥水剤塗布

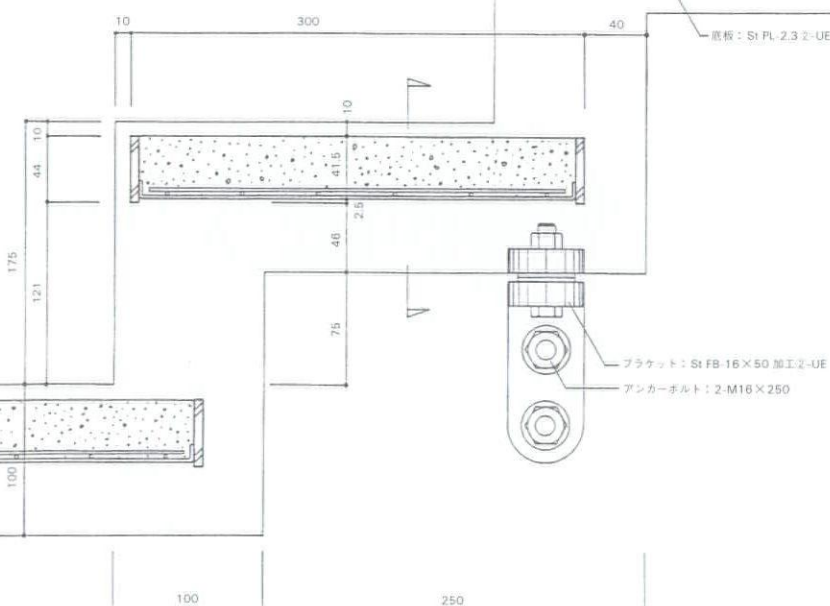
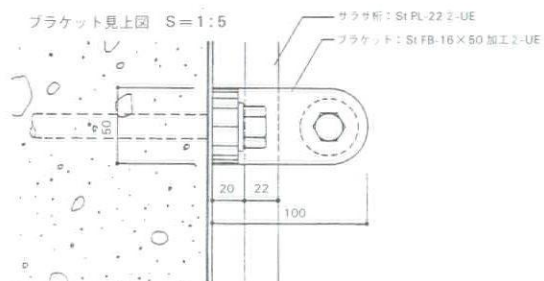




ブラケット詳細 S=1:5



ブラケット見上図 S=1:5



詳細図 S=1:5

White Echoes

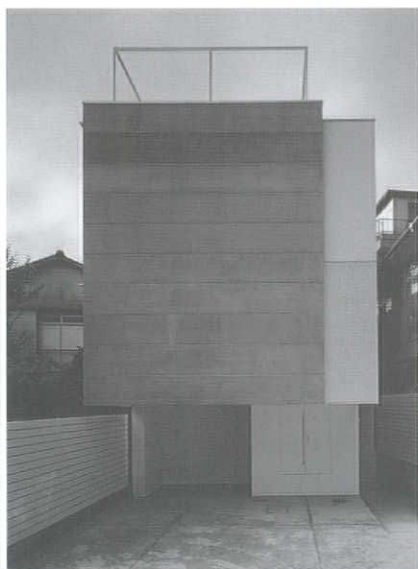
米田 明／アーキテクトン

プロデュース：建築プロデュース研究所

1998年

東京都練馬区

専用住宅



狭小地に建つ都市型住居の階段である。

敷地は近隣商業地域と第一種住居地域の境界線上にまたがっており、建物は用途地域の断層にしたがって輪郭を形成している。その結果、内部では圧縮された部分と伸長された部分、すなわち2.4mの階高（天井高2.1m）の部分と3.6mの階高（天井高3.3m）の部分が発生し、両者はずれをもって接合されることになる。一方で物理的狭さを低減するため、基本的に室内はワンルーム化を志向しており、諸室に微妙な連続性をもたせようとした。つまり、そこでは階段はゆるい分節性をもたらしと同時に、連続性を補完する役目を担うことになる。

鉄で構成された階段は、できるだけその存在感を消すために白く塗られ、また上部からの光をその最下部まで届かせるために踏み板（PL t=4.5）にはパンチング加工をしている。それと組み合わせられる隔壁には、上部へ向かう自由な浮遊感を示すように1枚130kgのアルミ板（t=25）が挿入されている。



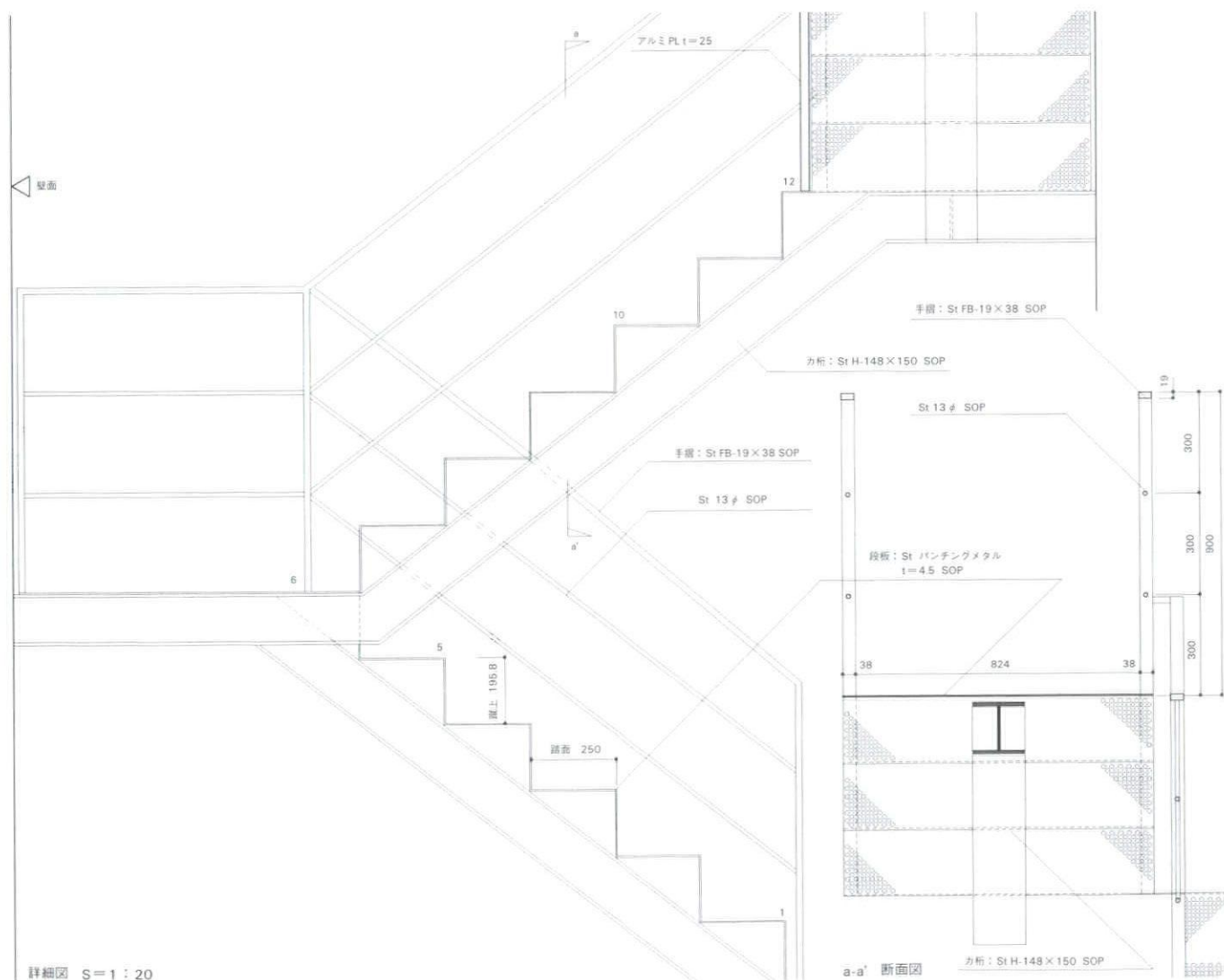


踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 250
蹴上 : 195.8
有効幅 : 824

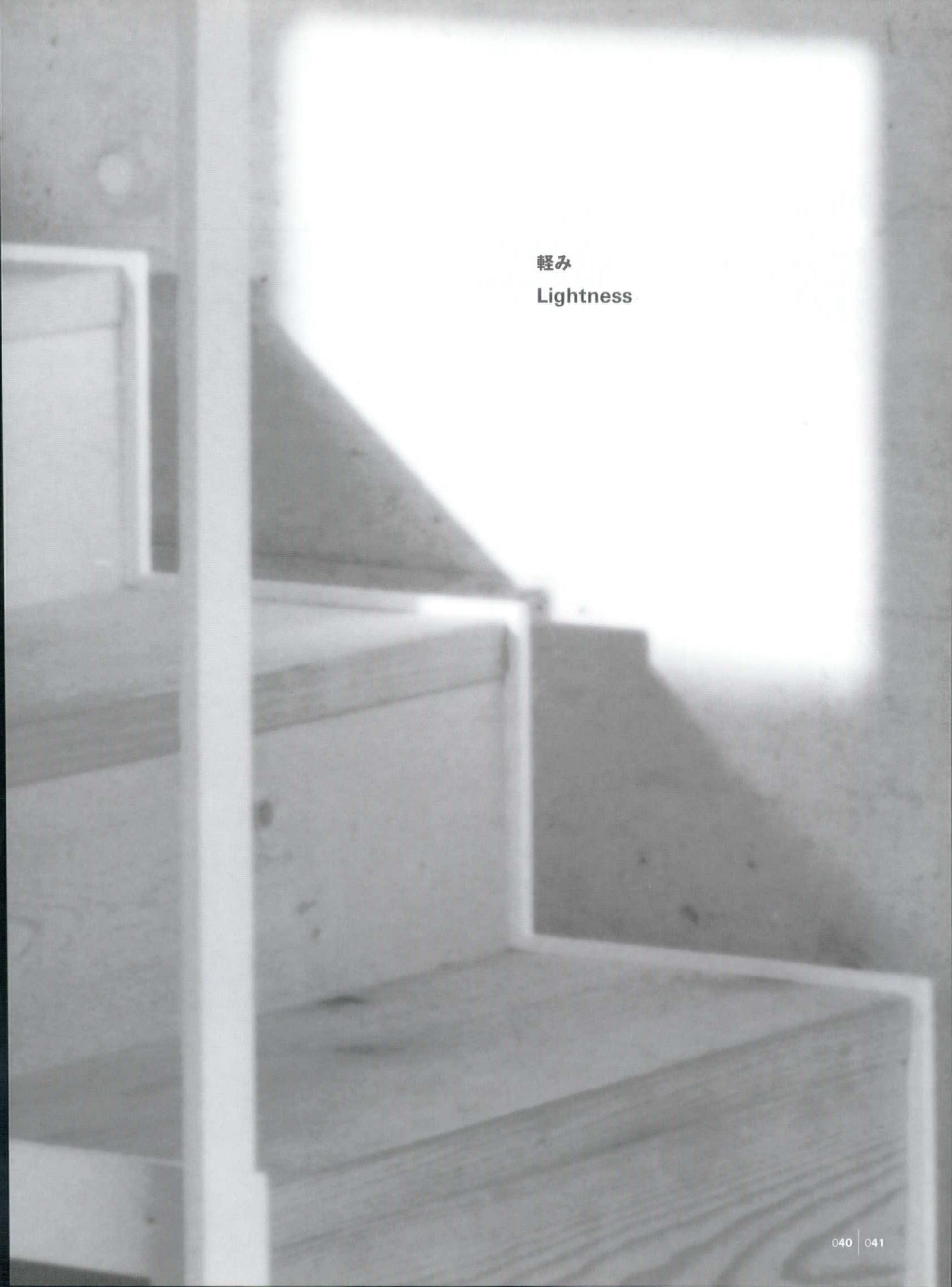
素材

ささら : スチール SOP 仕上げ
踏面 : スチール SOP 仕上げ
手摺 : スチール SOP 仕上げ









軽み

Lightness

中野邸／動物愛護病院ココロ

味岡伸太郎十住工房・鈴木達雄

1992年

愛知県蒲郡市

住宅・動物病院

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 200

蹴上 : 200

有効幅 : 750

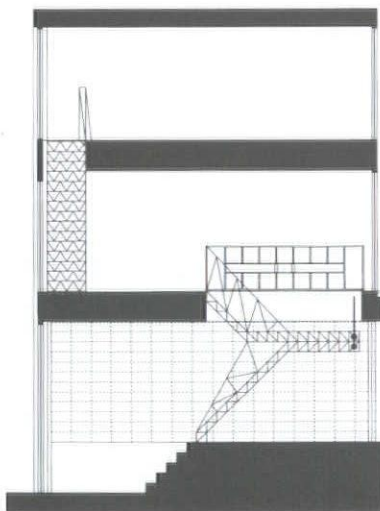
素材

踏面: チェッカープレート $t=3.2$

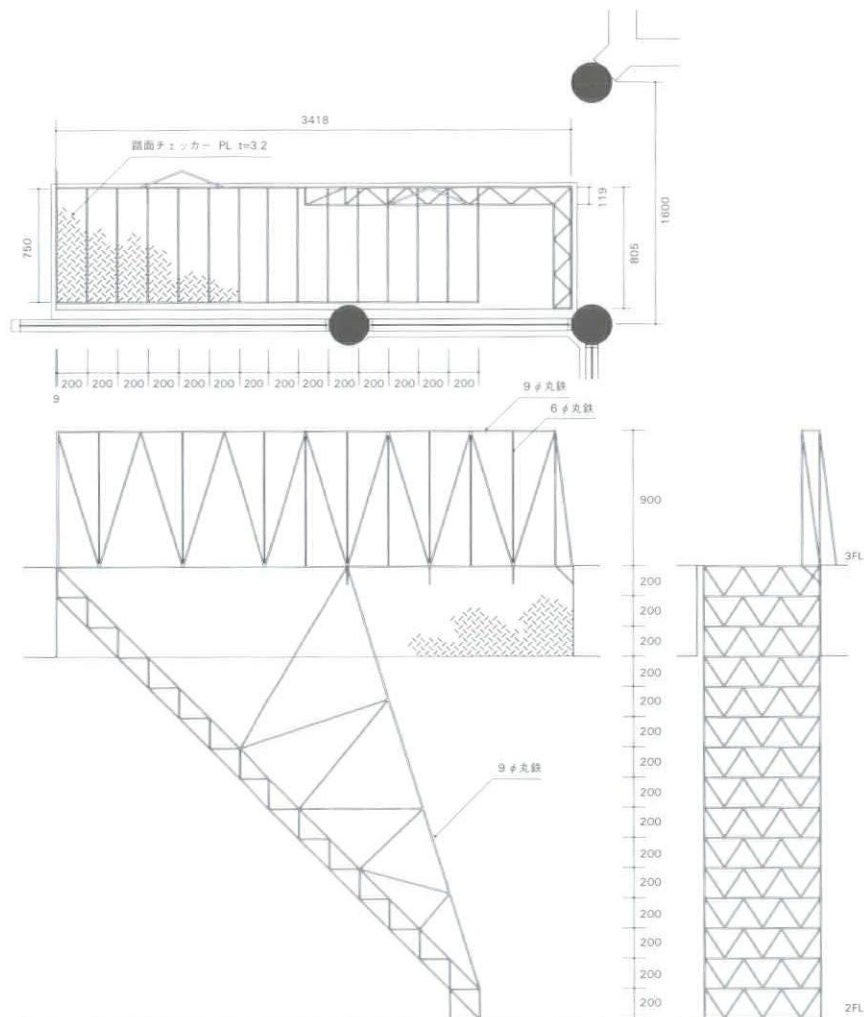
手摺: 9φ丸鉄および6φ丸鉄

階段はすこぶる機能的であり、構造的である。その存在はそのままデザイン的でもある。それ故に階段のデザインは楽しい。

そこで今回の住宅の階段だが、それは居間・食堂・台所およびトイレ・洗面・浴室が配置された生活の中心の場の2階と3階の個室を結んでいる。2階は三角形を中心にしたドーナツ型のほぼワンルームである。その部屋の対角線上に東西7本、南北4本の267.4φの鉄骨の柱が林立し、部屋の広さ、高さに比べて、存在感を主張している。階段は、その柱の対角線の交わる場所、つまり部屋の中心に配置されている。存在感を主張する柱との争いを避けるため、階段は可能な限り存在感をなくした透明感のあるものが必要であった。そこで9φの丸鉄と3.2厚のチェッカープレートで構成することにした。結果として、存在感のある柱は構造としてそこにあることが必然となり、不必要な主張をなくし、逆に存在感をなくした階段がその存在を主張することとなった。



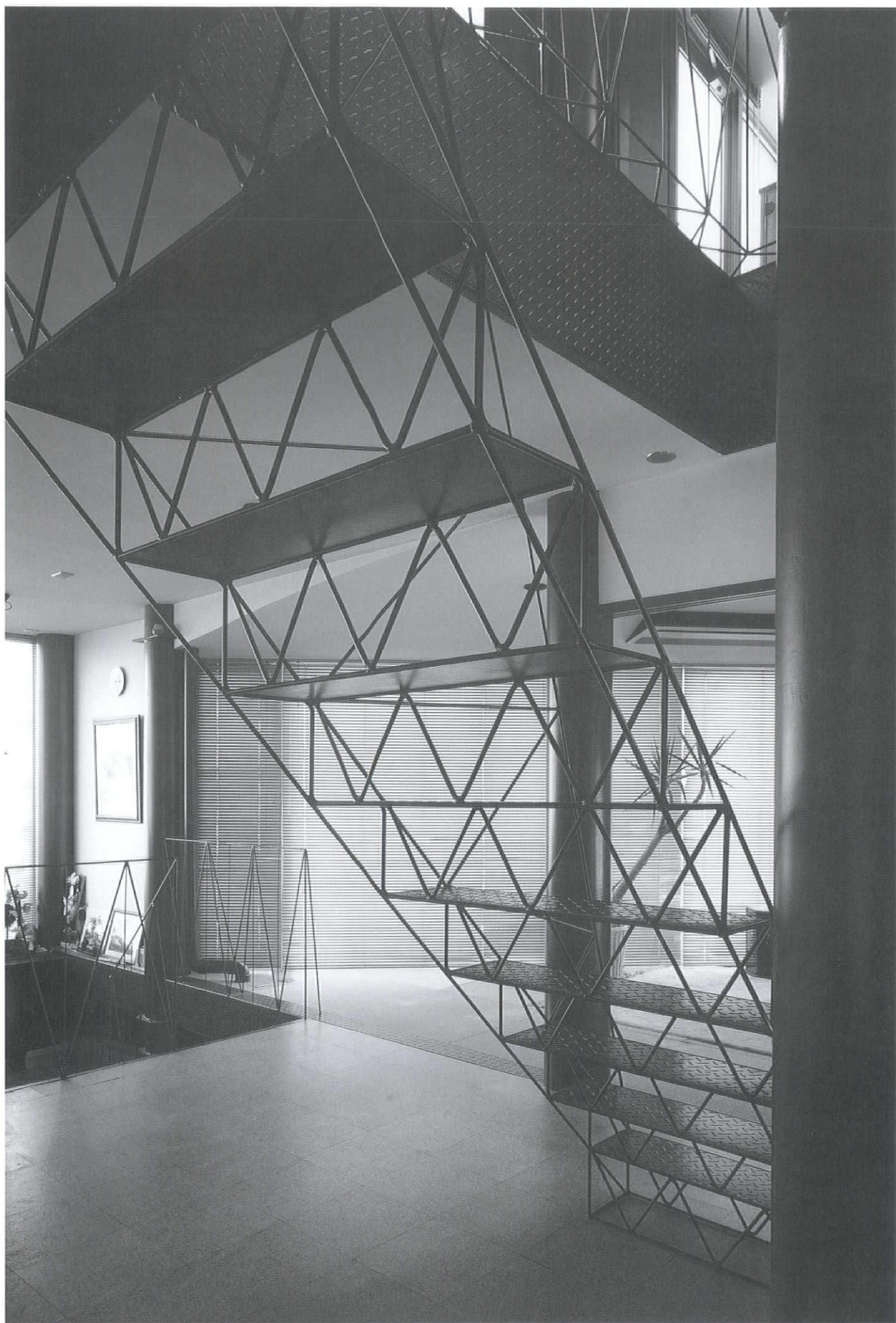
断面構成図 S=1:150



詳細図 S=1:50







小田急サザンタワー

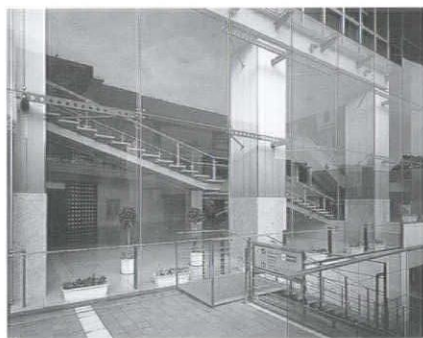
小田急Gビル設計室（坂倉建築研究所・大成建設・小田急建設）

1998年

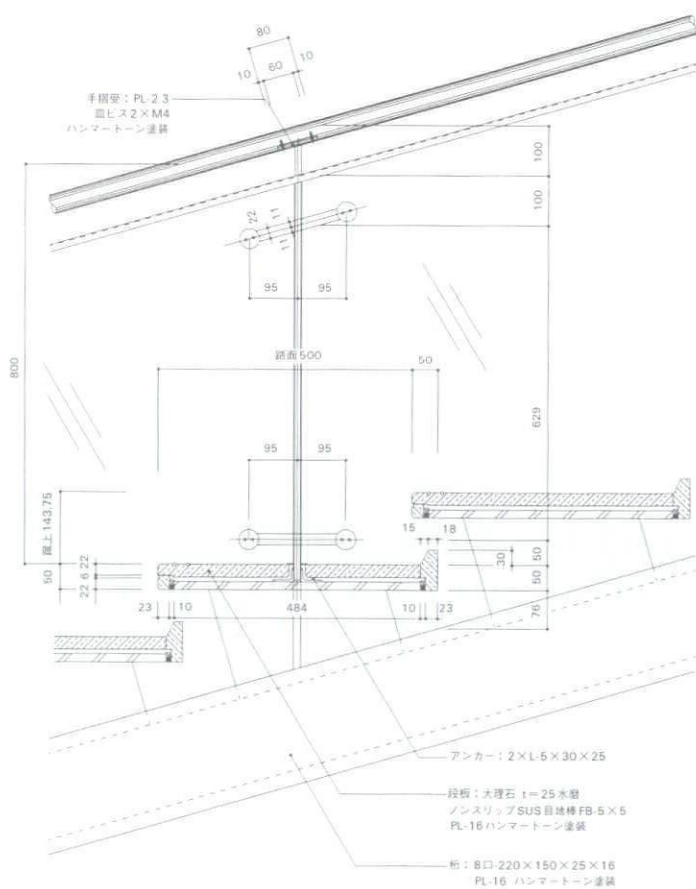
東京都渋谷区

店舗・事務所・ホテル

この階段は、ホテル、オフィス、店舗の複合施設のエントランスプラザにあり、商業空間の回遊動線の重要な一部として位置づけられる。プラザは、豊かな緑と多くの人々で賑わう店舗のある人工地盤に面し、そのファサードは透明性の高いDPG工法によるガラススクリーンで構成され、外部との一体感を図っている。そこで、店舗へのアプローチとしての視認性（見せる）と内外空間の視覚的連続のための透過性（消す）という相反する主題を意識しながら表現している。段板は、プラザの床と同じ大理石を鉄板の上に敷き、伸びやかに架け渡された桁より跳ね出し、持ち上げられ、空中に軽やかに浮かべている。また、手摺等の取り付けやディテールに配慮し、全体の構成において間を作り出している。そして階段が、外部や内部を眺めながら緩やかに上下する楽しさを演出する装置となることを期待し、同時に、階段とその隙き間に見え隠れする背景が同化し、風景に融け合っていくことを意図している。（松崎秀樹／大成建設）



手摺 : 木製集成材、強化ガラス (側板)



水／ガラス

隈 研吾 建築都市設計事務所

1995年

静岡県熱海市

ゲストハウス

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 300

蹴上 : 200

有効幅 : 1100

素材

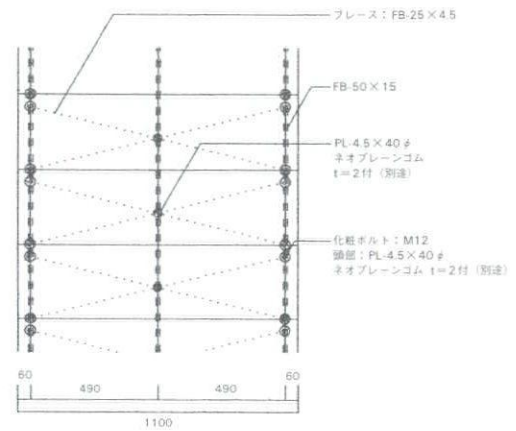
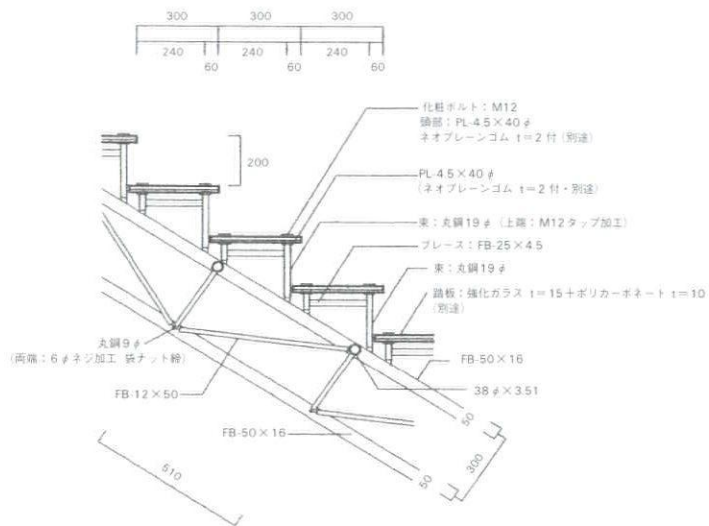
ささら : ステンレス FB-50×16

踏面 : 強化ガラス t=15 + ポリカーボネート t=10

手摺 : ステンレス FB-12×38

床がこの建築のテーマであった。床の上に身体が立ち、床を媒介にして身体と環境とが接続されるというイメージである。壁はガラスとし、天井はステンレス製のルーバーとした。床以外のエレメントはできる限り希薄なものとして、床のみで身体と意識とを規定しようという考え方である。

階段もまた、床、すなわち踏面のみがあって、蹴上も、そして構造体（ささら）も可能な限り消去したいと考えた。そのために立体トラスで構造体を作り、そこからサポートを立てて踏面を積み上げるようなディテールとした。そうすることで、踏面より上には構造体が立ち上がらないので、構造体が消えてくれるのである。左右のささらの間に踏面を架け渡す納まりの方が構造的に合理的であるが、床を優先させて、その解決は取らなかった。手摺も希薄なものとしたかったので、最上階の天井と最下階の床との間にピアノ線を張り、落下防止の機能を担わせた。



詳細図 S=1:30



中郷の家

栢田秀彦建築設計事務所

1997年

広島県広島市

専用住宅

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 250

蹴上 : 196.2

有効幅 : 750

素材

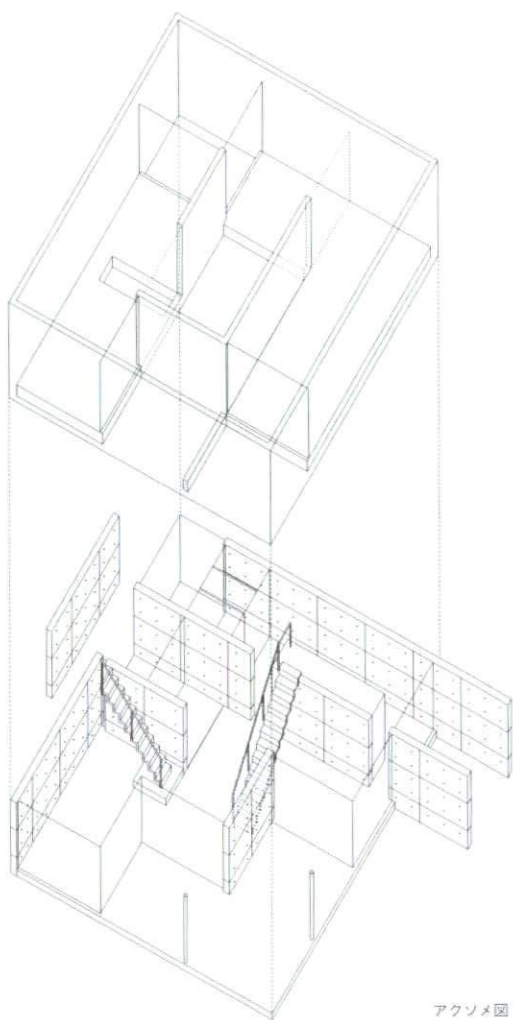
ささら : FB-12×60 SOP

手摺 : FB-12×50 SOP

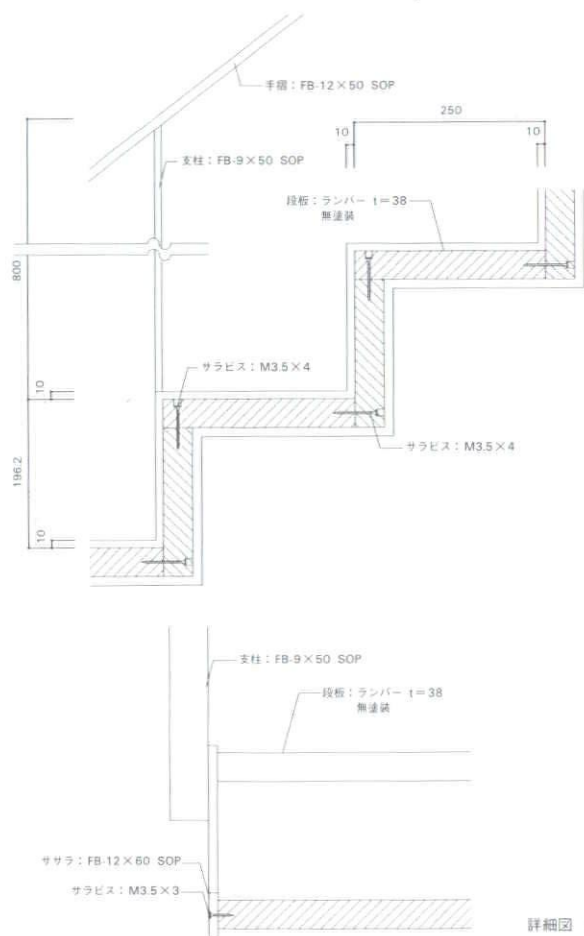


パブリックからプライベートへの緩やかな繋がりをこの家の設計をする上で主眼においた。プランニングで1階をパブリック、2階をプライベートとすることに決めたが、人の心理としては、上に乗るという行為はかなり意識を有するため、ふたつの距離を縮めることが必要となった。そのため、それらを繋ぐものとして、セミパブリックな空間と上に乗ることをあまり意識させない階段をつくることにした。セミパブリックな空間は、2階にありながら下から見える位置にし、そこへ向けて階段をつけることで心理的な距離を近くに感じれるものとした。そして階段は、主張しすぎると上乗るということを強く打ち出してしまうので、できるだけシンプルな形態にするように心掛けた。この意図はふたつの階段とも同じである。これによりこの家のどこにいても緩やかな繋がりをもつことができた。そして階段をふたつ設けることにより、個室同士の距離は保たれつつ、他の空間を感じることもできた。





アクソメ図



詳細図 S=1:10



天空
Open Above

清涼山 靈源皇寺 透靜庵

山口 隆 建築研究所

1998年

京都市北区

庫裏

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

玄関階段

踏面 : 300

蹴上 : 167.4

有効幅 : 1600

内部階段

踏面 : 265

蹴上 : 182.5

有効幅 : 900

素材

玄関階段

踏面・蹴上 : 黒御影石ジェットバーナー仕上げ

内部階段

踏面・蹴上 : 白御影石本磨き仕上げ

新しくつくられる建物はすべて地中に埋め込まれている。さらに白い箱がその中に挿入される。その間隙に回廊が形成される。地上の本堂および書院を巡る回廊が、縁側として外部水平方向に開くのに対して、ここでは垂直方向上方のみに開かれた内部回廊が生み出されている。これら回廊は、異なる空間体験を与えることで、この敷地が持つ潜在的なポテンシャルを向上させ、活性化させる。

階段は、回廊を垂直方向に繋ぐ重要なエレメントである。2枚の黒い壁が白い地平面を切開し、地中深く侵入する。人々はこの壁に挟まれながら、白く眩しい地上から暗い地下へと下りていく。天空の光が消失した瞬間、扉を開くと真っ白な内部空間が現われる。さらに地中深く下りていくと、より一層光に充ち溢れた空間が現われる。外部と内部、暗と明。こうした背反するふたつの事象が反転しながら重合し、全体は構成されている。



GOO FIELD

鈴木克彦建築研究所

1998年

東京都目黒区

住居・仕事場

踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 182

蹴上 : 222.7

有効幅 : 602.8

素材

踏面 : 縞鋼板 t=6 SOP仕上げ

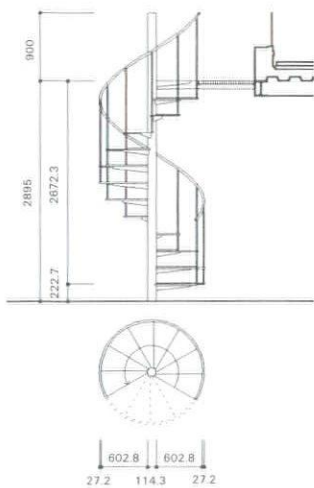
手摺 : スチールパイプ 27.2φ SOP仕上げ

手摺子 : スチール 16φ SOP仕上げ

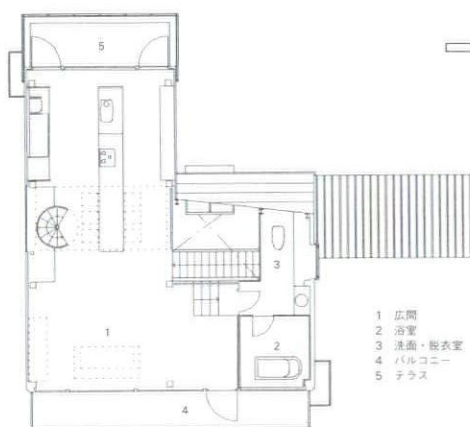
支柱 : スチールパイプ 114.3φ SOP仕上げ

この住宅には3つの階段がある。ひとつは2階玄関に至る外部階段。もうひとつは、玄関ホールから3階広間に至る階段。そして広間から屋上に上る階段である。他のふたつは直階段である。3つの階段はリニアな関係にあり、進行方向に上昇していく。光に溢れた吹き抜けを空に昇っていくという感覚である。広間を規定するものは、この螺旋階段と長さ5.4mのステンレスのキッチンテーブルである。階段は縞鋼板にシルバーペイント仕上げ、広間の素材は床がアルミの縞板と亜鉛メッキグレーチング、壁や収納はセメント系パネルとアルミおよび半透明のポリカーボネート板、天井が亜鉛メッキデッキプレートである。開口部以外はグレーかシルバーである。背景を白い光のパネルにすることにより、空間の中に、階段がシルエットとして浮かび上がる。空に繋がる吹き抜けと階段が生活の情景の一部としていつもある。2階への直階段の背景も半透明のポリカーボネート板間仕切りである。

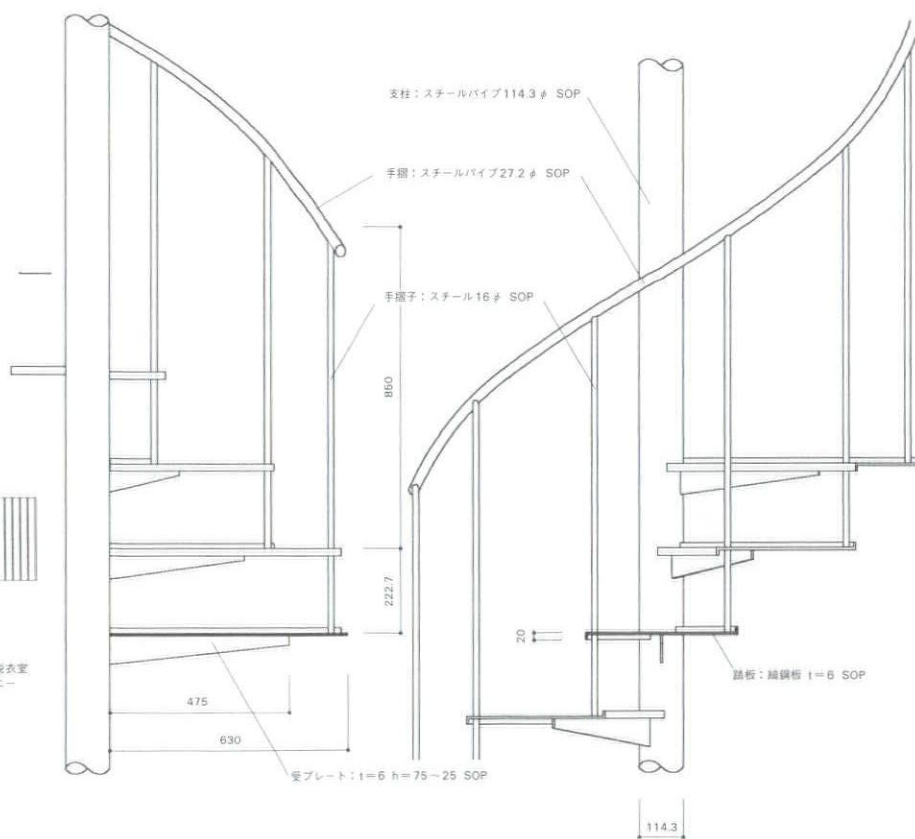




姿図・平面図 S=1:100



3F 平面図 S=1:250



詳細図 S=1:20



北橋の家

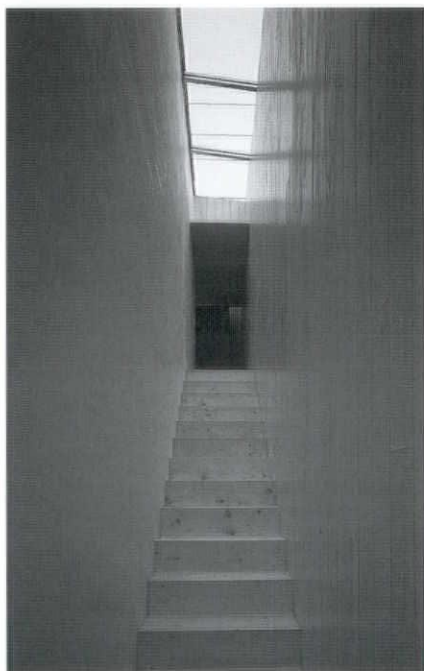
坂本 昭・設計工房CASA

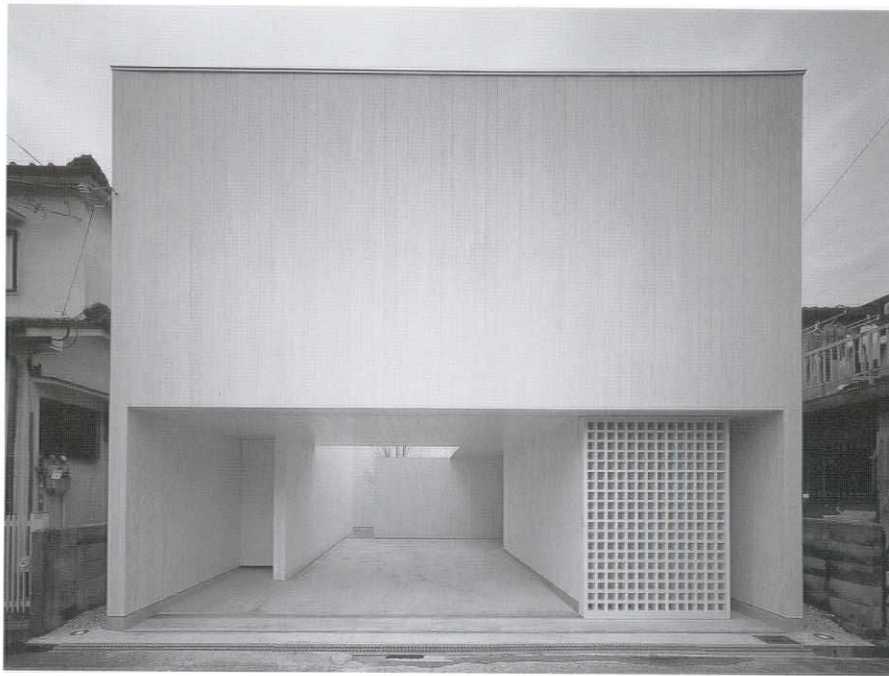
1997年

大阪府大東市

専用住宅

この住宅における中庭は、雑然とした周辺環境に対して純粋な自然を獲得する手段である。住宅は中庭を中心とした空間構成を持つ。中庭は壁によって切り取られた空と1本の木から成り、空を流れる雲や風の音、白い壁に映る太陽と木がつくり出す光と陰の戯れ、木の葉にみる四季のうつろいなど自然の表情や時間の流れを楽しむことが出来る。中庭には自分達だけの自然がある。諸空間は中庭を囲む形で配置され、各々の部屋からは中庭の様々な姿を楽しみ、自然の気配を常に感じる事が出来る。中庭を折り返した所に2階の玄関へとつながる階段を設けており、住宅内へ向かう人は必ず中庭を体験することになる。2枚の壁に挟まれた階段は空へと向かう。空を切り取り、光に満たされた階段は、中庭が持つ自然の魅力を保持したまま、来訪者を住宅内部へと導く。また、白く塗った板という柔らかな素材が、自然と住宅を穏やかに心地よく結びつける。中庭において獲得された自然の表情は、白の板壁に優しく映し出され、壁を通して住宅の内部へゆっくりと浸透していく。





踏面寸法・蹴上寸法・有効幅

踏面 : 250

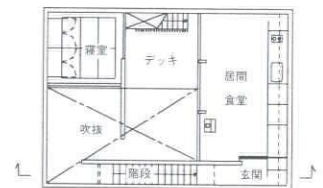
蹴上 : 182

有効幅 : 750

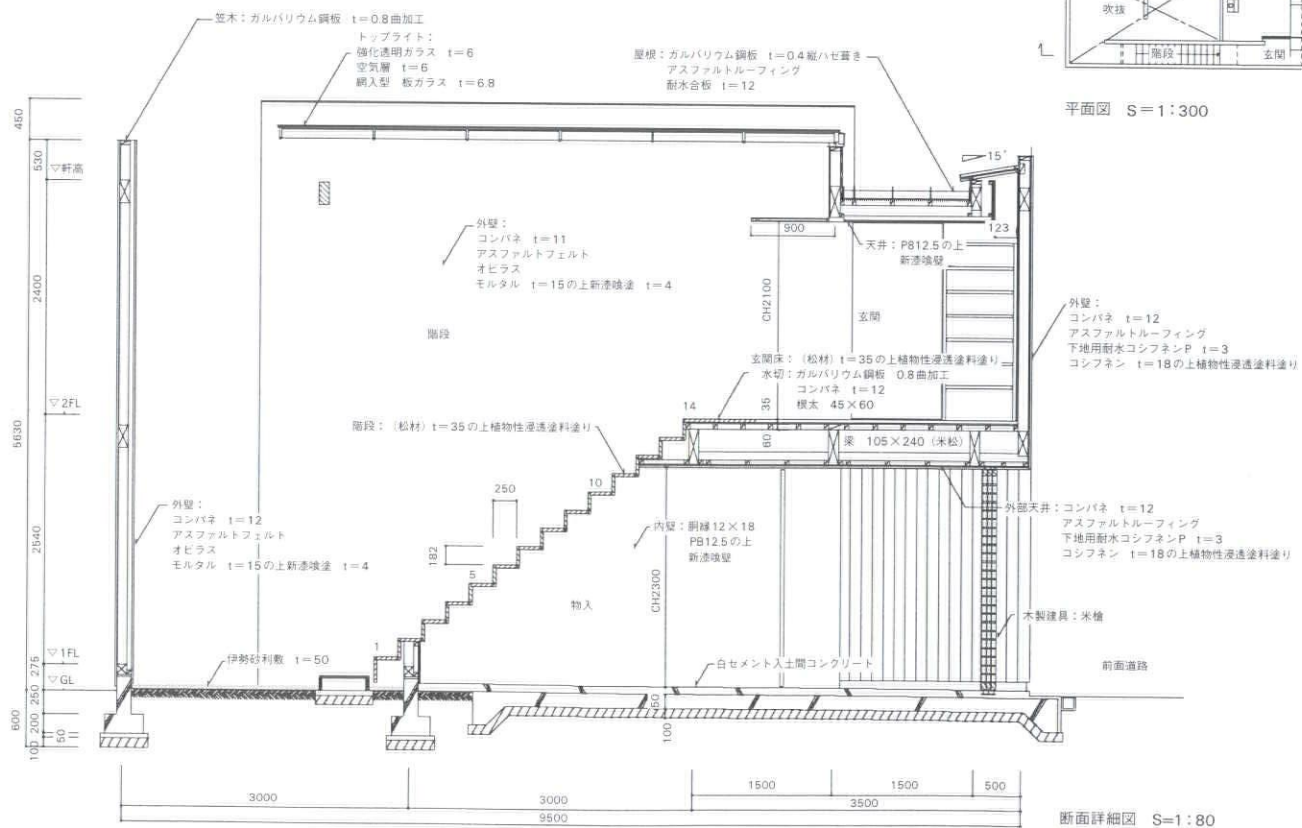
素材

踏面 : マツ材の上植物性浸透塗料拭き取り

蹴上 : マツ材の上植物性浸透塗料拭き取り



平面図 S=1:300



断面詳細図 S=1:80

SD9908

梅ヶ丘の住宅

佐藤光彦建築設計事務所

プロデュース：建築プロデュース研究所

1998年

東京都世田谷区

住宅

路面寸法・蹴上寸法・有効幅

路面 : 160

蹴上 : 200

有効幅 : 750

素材

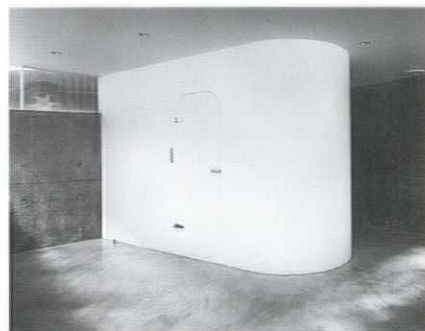
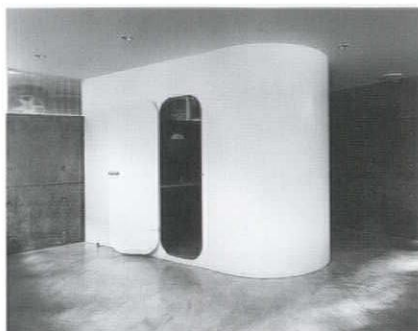
路面：スチール エキスパンドメタル

蹴上：スチール エキスパンドメタル

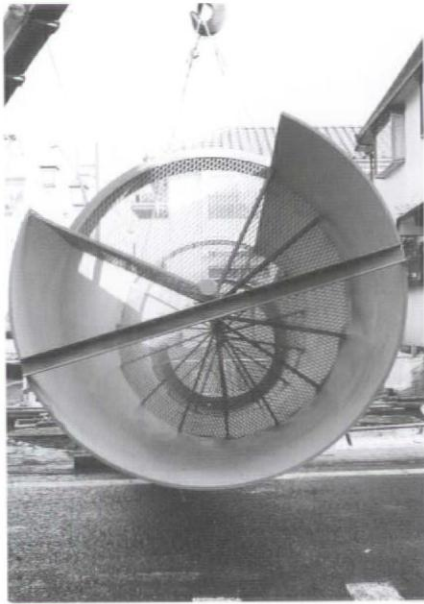
この住宅は、LDK、寝室、スタディールームの3つのフロアから構成されており、階段はこれらのフロアを等価に接続するための縦動線として計画されている。また、階段周囲の壁は厚さ16mmの鋼管杭で、この建物にかかるすべての地震力を負担する直径1625φの柱となっている。

この階段には、特にディテールと呼べるようなものはない。蹴込みの部分で折り曲げたエキスパンドメタルを、ノンスリップを兼ねたアングルを介して繋いだだけの単純なものである。構造的には周囲の鋼管からのキャンティレバーとなっているため、中央のパイプは柱ではなくエキスパンドメタルの端部を納めるための部材であり、床には接していない。

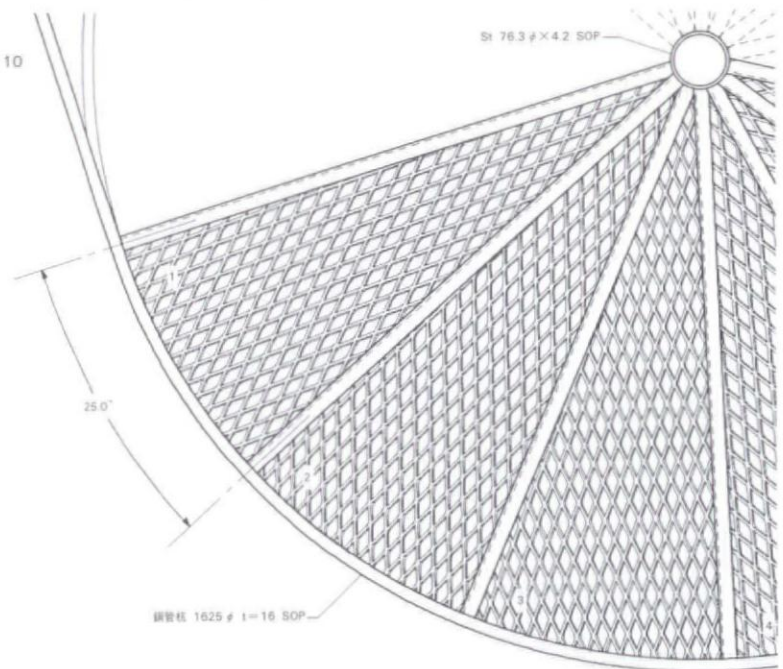








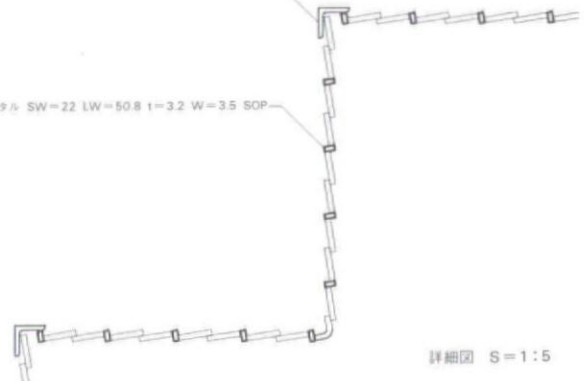
詳細図 S=1:10



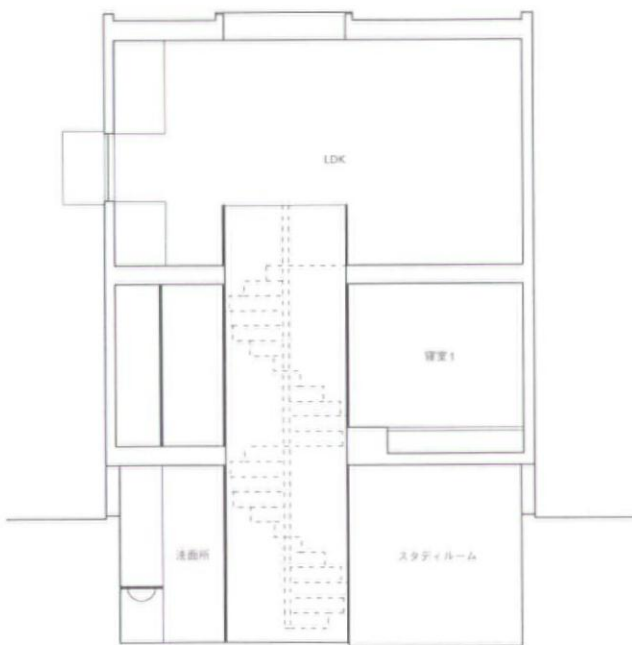
鋼管杭 1625 φ 1=16 SOP

St L-20 × 20 × 3 SOP

St エキスパンドメタル SW=22 LW=50.8 1=3.2 W=3.5 SOP



詳細図 S=1:5



断面図 S=1:100

渡辺武信

距離を視野の広がり

階段は、単に機能的に捉えるなら異なった床レベルをつなぐビルディング・エレメントに過ぎないが、しばしばそうした実用の域を超え、建築や都市を華やかに彩る空間装置となる。階段を基軸とした空間構成の事例は実在する古今の建築の中にも数多く見られるが、その効果が現実より一層明快に現れるのは映画や演劇においてである。それは、現実世界における建築や都市への視野が主体の移動によってさまざまに変化するのに対し、映画、演劇における観客の視野は演出者の意図によって限定されるからであろう。演出者は、階段が空間装置としての役割を最も効果的に発揮する視野へと観客を誘導するのである。

映画、演劇における印象的な階段はたいてい仰角で、つまり下から見上げる視点で捉えられている。これはちょっと考えてみれば当然のことで、階段を下から見ると、遠くの地点が高くなり、その結果として「距離が視野の広がりに変換する」からだ。この効果の日常的な例は、大勢の人が一緒に撮る記念写真の配置であろう。この種の撮影では、写される人々が階段状に段をつくって何列かに並ぶが、そのことによって、遠くの人物が手前の人物の陰に入ることなく視野の上方に位置を占めて、全員の肖像がファイナダーの中に収まるのだ。

宝塚少女歌劇はこの「階段効果」を定石として見事に使いこなし続けている。宝塚ではどんな演目でもフィナーレになると舞台の幅いっぱいの大階段が現れ、そこをラインダンスの踊り子や端役を務

める新入生から始まり、幹部級へとだんだんにランクを上げながら全員が順々に降りてくる。最後にその組のトップが、それ以前に出そろっている役者たちを階段に居並ばせ、それを自分の裾飾りのようにして華麗な登場をする。その頃には舞台は、少女歌劇独特の派手な衣装の役者たちに埋め尽くされていて、ひたすら豪華なので、肝心の演目の出来がいまひとつの場合でも、この大階段のシーンだけで入場料の元をとった気分にするほどである。大階段は宝塚で『ウエストサイド物語』や『グランド・ホテル』のようなブロードウェイ・ミュージカルを演じる場合にも登場する。もちろんオリジナルの舞台には大階段のフィナーレはないのだが、これがないと観客が承知しないのであろう。輸入演目はしばしば、オリジナルの舞台の演出家を招聘して行われるが、彼らも大階段の伝統には従う。中には『フォア・ミー・アンド・マイ・ギャル』の演出で来日したトミー・チューンのように、「階段効果」を新鮮に感じて感動し、積極的に取り入れた例さえあるのだ。

スペクタクル

ブロードウェイにも、かつては階段を使いこなし演出家がいた。それはフローレンツ・ジグフェルド (Florenz Ziegfeld 1867-1932年) である。彼が演出した舞台そのものの記録はないが、いくつもの彼の伝記映画からその様子をうかがい知ることができる。そのうち最も有名なのは『巨星ジグフェルド』であろう。

ジグフェルドは歌と漫才的な時事風刺が中心であったレビューの世界にスペクタクル的要素を大々的に持ち込んで成功した人物で、その主要演目は大勢の美女をずらりと並べたコーラス (合唱という意味ではなく、多人数の歌と踊りを担当する役者の群を指す) を最大の見せ場とする『ジグフェルド・フォリーズ』 (Ziegfeld Follies) であった。「フォリーズ」 (follies) の単数形follyは「愚行」、「金ばかりかかる事業」などを意味し、それから転じて、「馬鹿馬鹿しいほど飾り立てた建築」という意味にもなるが、複数形は原義の「豪華」というニュアンスを残しつつ、劇場のショーを指す。

『巨星ジグフェルド』の中で再現されるレビューの中でも特にすごいのは、『美女は歌のごとく』 (“Pretty Girls Are Like a Melody”) の階段だ。歌手が歌うテーマ曲が盛り上がると、背後の幕がするすると開いて美女の群れが登場する。この舞台装置は、円錐状の巨大な階段をなしてゆっくり回転している。その回転につれて周囲を囲んでいた幕が次第に引き上げられていく。その頂点に美女がいて、円錐全体が彼女のスカートの裾の広がりによって擬せられている。この場面は15分以上続くが、これこそ「馬鹿馬鹿しいほど豪華」なご馳走という意味でのfolliesである。

ジグフェルドは舞台の階段を意識的に使い、生涯を通じてそれにこだわり続けた。『巨星ジグフェルド』では、死の床に横たわるジグフェルドが自分の過去を回想しつつ、「もっと階段を！」 (I need more steps, I've got it higher!)

1	2	2
2	1	1
2		1
2		
1	1	1



と呟き、それを臨終の言葉として世を去る場面が終わる。

垂直舞台

欧米映画には、半円弧の軌跡を優雅に描いた階段が玄関ホールの吹き抜けを貫いている豪邸がよく出てくる。中でも『サンセット大通り』は、階段がラストシーンの背景としてドラマティックに生かされていた例として印象深い。

ノーマ（グロリア・スワンソン）はサイレント時代の大スターで、大衆からはとくに忘れられているのに、昔の栄光にしがみつき続け、また撮影所から出演依頼が来ると信じながら、豪邸で執事のマックス（エーリッヒ・フォン・シュトロハイム）だけを相手に暮らしている。マックスはノーマを育てた監督で、一時は夫でもあったが、彼女に捨てられた後も、ただ身近にいたいために執事を務めているのである。

この屋敷のネオ・ゴシック風インテリアは悪趣味な装飾過剰だが、それが過去の栄華を媚媚と奏でる感じであるのが見どころで、アカデミー美術賞、装置賞を獲得したセットは実に見事だ。

ノーマはB級映画の脚本家、ジョー（ウィリアム・ホールデン）を強引に愛人にして同棲しているが、最後に、若い恋人との仲を嫉妬して彼を射殺する。すぐに警察と記者の群が駆けつけてくるが、完全に狂ってしまったノーマには自分のやったことの自覚がなく、人の言葉も聞こえぬ様子で2階の寝室に閉じ込められ、化粧に余念がない。刑事も困り果てていると、執事のマックスが、「私にお任せ



を」と申し出る。そこからが問題のラストシーンだ。

マックスがニュース映画のカメラの脇に立って、昔のように監督の役を務め、「ノーマ、用意はいいか？」と声をかけると、階段の上に姿を現した彼女は「これは何のシーン？」と訊ねる。マックスは「ここは『サロメ』の宮殿の場だ」と答え、「ライト！」と叫ぶと、ニュース撮影用のライトが点灯し、ノーマはサロメになりきってポーズを取る。続いて、「カメラ！アクション！」というマックスの指示が飛ぶと、ノーマは婉然と、しかし鬼気迫る感じで、笑みを浮かべ肢体をくねらせて階段を降りてくる。そこに、「必死にしがみついていた夢が、最後に彼女の身体を包んだのだった」というナレーションがかぶさってエンドマークが出る。

玄関ホールの階段が明るい場面で生かされる一例は、スイング・バンドの王者の伝記『グレン・ミラー物語』である。ミラーがバンドリーダーとして成功してからの家だから立派な邸宅で、階段は幅広く、半円弧の軌跡と吹き抜けの空間ヴォリュームとのバランスもとれていて美しい。

ミラー夫妻は結婚記念日にグレン（ジェームズ・スチュワート）の両親と一緒に芝居を見に行くことになり、夫人（ジェーン・アリソン）は2階の寝室でお化粧に時間をかけている。この日の行事は、実は観劇ではなく、階下ではサプライズ・パーティの準備が整えられている。夫が「おい、まだかー」なんて調子で催促すると、夫人がようやく階段の上に

姿を現わし、その瞬間に階下に潜んでいたミラー楽団が結婚行進曲を奏で始める。夫人は嬉しい驚きを満面の笑みで放散しつつ、踊るような足どりで階段を下りて来る。

この後、さらに結婚記念日の贈り物として、グレンが夫人に捧げた新曲「ベンシルヴァニア6-5000」が演奏される。このタイトルが、実はグレンが彼女に最初のデートを申し込んだ時にかけた実家の電話の番号、という設定は伏線が利いている巧みな構成で、これが実話かどうかは別としても、アメリカの夫は女房を喜ばせるのが上手だなあ、と思う。

この映画のように、夫妻で外出する時、2階で支度で手間取っている妻を夫が階段の下で待っている、というシチュエーションは、アメリカ映画にはよくある。『花嫁の父』では娘の結婚式の日、夫（スペンサー・トレイシー）が、やはり階段の下で支度の遅れた妻（ジョーン・ベネット）を待ちかねて、「式に遅れる」と焦っている。ところがようやく支度を終えて着飾った妻が階段の上に現れると、彼はその美しさに唖然として言葉を失う。ジョーン・ベネットもかつては主役を張った女優だから、十分に美しい人なのだが、この場面までは主役の娘を演じた絶世の美少女時代のエリザベス・テラーを引き立てつつ、地味な服装で母親役に徹していた。それがドレスアップして階段に登場すると、ほんとにきれいなね、成熟した女性の品の色香まで発散して…。これにはスペンサー・トレイシーばかりでなく、観客もびっくりする。演じているベネットも、さぞい



SD9908

タクシー会社を頼る



劇場に遅れるぞ



結婚式の妻の服は忘れた

い気分だったに違いない。

この夫はグレン・ミラーのように新曲は贈れないものの、弁護士のせい、すごい言葉の贈り物をする。降りてきた妻の肩を抱いて、彼が何と言ったと思いませんか？「これでは花嫁が気の毒だ」だってさ、よく言うよ！

このような例を見て行くと、アメリカの中流家庭の玄関ホールの階段は、宝塚の大階段にも似て、着飾った妻のための舞台装置になっているようだ。ま、私たちの家庭では、こういう状況は生じにくい。妻に待たされることはあるけれど…。

シンメトリー

もっと大きな邸宅では、階段が円弧を描くのではなく、ホールの正面の装飾的な要素として壮麗にデザインされる。『風と共に去りぬ』に出てくる南部の大農園主の屋敷もその好例で、ホールの広さによる視野の引きの長さの効果もあいまって華麗な印象を与えている。特に開幕間もなくの舞踏会の会場となるウィークス邸（Twelve Oaks＝「12本の樫」と呼ばれる）の大階段は華やかだ。ちなみに、ヒロインのスカーレット（ヴィヴィアン・リー）の屋敷もほぼ同じ形だが、正面から捕らえたショットが出て来ない。

このような階段では、正面のアイ・ストップ効果を狙っての対称形が造形のポイントになる。対称性は階段が踊り場まで直進して左右に分かれるのが形で構成されることが多く、中間の広い踊り場は、舞踏会で着飾った婦人たちが衣装を誇示するための格好の舞台になる。

『サウンド・オブ・ミュージック』で

は、踊り場が実際に舞台として使われる。この映画はヒロインのマリア（ジュリー・アンドリュース）が妻を喪ったトラップ大佐の家に、7人の子供の家庭教師として住み込むところから始まる。彼女は子供たちに歌うことを教え、それを通じて堅物で厳しい父親であった大佐（クリストファー・ブラマー）の心を捕えて結婚し、一家は歌うトラップ・ファミリーとして知られるようになる。階段が舞台となるのは結婚に至るずっと前、トラップ家で催されたパーティで、子供たちが客の前としては初めて、合唱を披露する場面である。踊り場を中央舞台とすれば、そこから左右に数段上がったレベルで吹き抜けをめぐる回廊は歌い手たちの退場の花道となり、共に効果的に使われる。

左右対称の装飾的大階段には、これらの例とは逆に、左右から上るふたつの経路が中央の踊り場へと集まって行く形もあり、『素晴らしき休日』に出てくる豪邸もその一例である。富豪の娘と婚約したジョニー（ケイリー・グラント）は彼女の屋敷を訪れた時、玄関ホールの広大さに呆れ、「駅みたい！」と呟く。「駅」というのは字幕の訳で、実際には「Grand Central Station」と言っていて、つまり彼はニューヨークの有名な中央駅のコンコースを連想しているのだ。

俯角ショットの効果

『風と共に去りぬ』のスカーレットはレット・バトラー（クラーク・ゲブル）と出会って、紆余曲折の後に結婚する。ふたりが住むバトラー邸の玄関ホールの

階段も左右対称の正面性を備えているが、踊り場なしに2階まで直行して、階上で左右に分かれている。この階段のデザインが曲線を排することによって、レット・バトラーという役の男臭さを反映しているのは映画美術の狙いだろうが、踊り場がないことは後の伏線にもなっている。スカーレットは、レットが女遊びと賭博にふけて家を空けてばかりいるため別居に踏み切る。久しぶりに帰宅したレットは、妻が次の子を身ごもっていることを知って「流産を願うんだな」と言う。憤ったスカーレットが殴りかかろうとすると、レットがヒョイと身をかわす。この争いの場は階段の上で、空振りしたスカーレットは階下へ転落する。

なお、この場面は冒頭に記した「階段は仰角で撮られる」という定石の例外で、上から下への俯角ショットになっている。これは転げ落ちるヒロインを捕えるための当然の選択ではあるが、このカメラアングルでは、階段の視野における広がりがないことがお分かりだろう。

階段からの転落をドラマの中心に据えた映画として記憶に残るのは『蒲田行進曲』である。これは映画界の内幕を描いた物語で、新撰組が勤王派の浪人たちが密談している池田屋という旅館を襲撃する、いわゆる池田屋騒動の場面の撮影がクライマックスになる。史上事実とはとにかく、新撰組ものの映画の定石では、池田屋の大階段が斬り合いの舞台となり、勤王側の浪士が斬られて階段を転落する、通称「階段落ち」が見せ場になる。ところが、撮影所の美術部が張り切って、ものすごく高く、しかも一直線の階段のセ

6	5	3	5
7	3	5	3
	3	7	3
3	5	6	3
4	3	4	4



ットを組んでしまったので、スタントマンも怖がって「落ち」をやりがらない。そこで大部屋俳優で、主演スターの銀四郎（風間杜夫）にマゾヒスティックな忠誠心を抱くヤス（平田満）がこの役を買って出る。非現実的なまでに巨大な階段を背景としたこの場面は見応えがあるが、転落しても演技を続けて這い上がろうとするヤスを俯角で捕らえた画面で階段の広がりや狭いのは、『風と共に去りぬ』の前述のショットと同じ理由による。

蔑みの幾何地形

屋外の例として面白いのは、ゴダールの『軽蔑』の中に出てくるマラバルテ邸の屋上の階段だろう。イタリア・ファシズムの代表的な建築家、アドルベルト・リベラ（Adalberto Libera, 1903-1963年）の代表作として知られるこの別荘は、階段がそのまま建築になったような形をしている。

ブリジット・バルドーの演じるカミーユは、劇作家ポール（ミシェル・ピッコリ）の妻である。ポールは撮影中の映画の脚本の直しをプロデューサーのプロコシュ（ジャック・バランス）から頼まれる。プロコシュはカミーユにひと目惚れし、盛んにモーションをかけ、カプリ島のロケに誘う。ポールは妻の浮気を懸念して同行する。そこでロケ隊が宿泊するのがプロコシュの別荘に擬せられたマラバルテ邸なのだ。

カプリ島のシークエンスでは、まず岬の突端にある建物の全貌が遠景として映し出される。次いでカミーユがプロコシ



ュとキスするのをポールが目撃する場面があり、屋上テラスへ出たカミーユをポールが追っていく。このシーンで屋上の陸屋根に手摺がまったくないことが分かる。建物が海に面する絶壁から突き出すように建てられているので、手摺がないと怖いのが、これは設計者が立面を幾何学的な形態に整えることを優先したからだろう。階段は建物の傾斜部分と一体化してこの屋上へ通じている。それは末広りのローマのスペイン階段などとは逆に、下に行くほど幅が狭い逆梯形をなして、いったん地盤面に降りた後も屈曲しつつ、海を見下ろす断崖まで続いている。夫と喧嘩をしたヒロインがこの断崖から海に飛び込む場面で、階段の全経路が読み取れる。

緊迫の装置

都市の公共空間における階段に目を転じると、真っ先に思い浮かぶのは『戦艦ボチョムキン』のオデッサの階段だろう。これは第一次ロシア革命20周年を記念した政治プロパガンダ映画だが、天才、セルゲイ・エイゼンシュタインの演出はそうした政治的意図からくる制約を超えて輝いている。

1905年、ロシア帝国の首都ペテルブルグでは民衆のデモが軍隊によって弾圧され、多くの死傷者が出る。その噂が広まると各地で民衆が蜂起し、またオデッサ港に碇泊していた艦隊の旗艦、ボチョムキン号でも水兵が叛乱を起こしてマストに赤旗が掲げられる。オデッサの街は海辺に丘陵が迫っていて、埠頭から幅の広い緩やかな階段が延々と街の中心部ま

で続いている。革命に共感するオデッサの市民は、この階段にぎっしりと並んで戦艦に手を振る。すると突然、階段の上の軍司令部から銃を構えた海兵隊が現れて、威嚇射撃で市民を追い散らす。群衆が港まで追い落とされると、そこには騎馬のコサック兵が待ち構えていて蹴散らす。母親が流れ弾にあたって崩れ折れると、彼女の赤ん坊を乗せた乳母車が階段を転落していく。転がり落ちる乳母車を階段の全景の中に捕らえたロングショットと、その中の赤ん坊の無邪気な表情や階段の上を跳ねる乳母車の車のクロースアップを交互に巧みに配した編集のリズムの緊迫感は素晴らしく、ここにエイゼンシュタインが唱えた「モンタージュ理論」の代表例が見られると言って良からう。階段のシークエンスはわずか6分ほどに過ぎないが、一度見たら忘れられない強烈な印象を残すので、映画理論家のポール・ロサが「映画史上、最も有名な6分間」と呼んだのもむべなるかな、という感じである。

これをそっくり「いただき」にして乳母車を階段から落として見せたのは、ブライアン・デ・パーマの『アンタッチャブル』である。名作というものは模倣されがちなものだが、模倣それ自体は決して非難されるべきではなく、むしろ巧みな模倣はしばしば先達への敬意の表明＝オマージュになる。デ・パーマの場合もそれに当たるケースだろう。

この映画では、禁酒法時代のシカゴ駅のコンコースの壮麗な階段で銃撃戦が展開する。「アンタッチャブル」のリーダー、エリオット・ネス（ケヴィン・コス

たちの日常的現実の中の階段も、実は常にささやかなドラマを潜在させていることに気づかざるを得ない。本稿によって読者がそうした視点を獲得し、空間装置としての階段の可能性を、暮らしにおいても設計においても、押し広げるきっかけとされれば幸いである。
(わたなべ・たけのぶ/建築家)

①『巨星ジークフェルド』

(“The Great Ziegfeld”, 1936年、ロバート・Z.レオナード監督、日本ビクター(廃盤))

②『サンセット大通り』

(“Sunset Boulevard”, 1950年、ビリー・ワイルダー監督、CIC・ビクタービデオ株式会社)

③『グレンミラー物語』

(“The Glenn Miller Story”, 1953年、アンソニー・マン監督、CICビクター/ビクターエンターテインメント)

④『花嫁の父』

(“The Father of the Bride”, 1950年、ヴィンセント・ミネリ監督、ワーナー・ホームビデオ)

⑤『サウンド・オブ・ミュージック』

(“The Sound of Music”, 1965年、ロバート・ワイズ監督、フォックス/ビクターエンターテインメント)

⑥『素晴らしき休日』

(“Holiday”, 1938年、ジョージ・キューカー監督、RCAコロニア/ボニーニオン)

⑦『風と共に去りぬ』

(“Gone With the Wind”, 1939年、ヴィクター・フレンジング監督、パイオニアLDC)

⑧『蒲田行進曲』

(1982年、深作欣二監督、松竹)

⑨『軽蔑』

(“Le Mepris”, 1963年、ジャン・リュック・ゴダール監督、カルチャー・パブリッシャーズ)

⑩『戦艦ポチョムキン』

(“Bronenosets ‘Potoyomkin’”, 1925年、セルゲイ・エイゼンシュタイン監督、アイ・ヴィー・シー)

⑪『アンタッチャブル』

(“The Untouchables”, 1987年、ブライアン・デ・パーマ監督、CICビクター/ビクターエンターテインメント)

⑫『ローマの休日』

(“Roman Holiday”, 1953年、ウィリアム・ワイラー監督、CICビクター/ビクターエンターテインメント)

⑪	⑫
⑫	⑫
⑫	⑪
⑪	

下村純一

階段は、実に興味の尽きない写真の対象だ。
インテリアを写していると、
どうしても横位置でファインダーを覗くことが多くなる。
しかし、階段スペースに限っては、
縦位置の目が基本となる。
それが、写真対象としての階段の
大きな魅力ではないだろうか。

同じアングル、
同じ高さで空間を見続けてくると、
だんだんと欲求不満に陥ってくることが、
ままあるものである。
そんな時には、
壁などを無理してでも縦長に撮ろうとする。
だが、階段は室内にあって、
唯一、
垂直に伸び広がる空間を提供してくれるので、
作画的でなく、
カメラは、ごく自然に縦位置になっている。
対象に促されてカメラ・アングルが変わるのは、
案外心地良いものである。

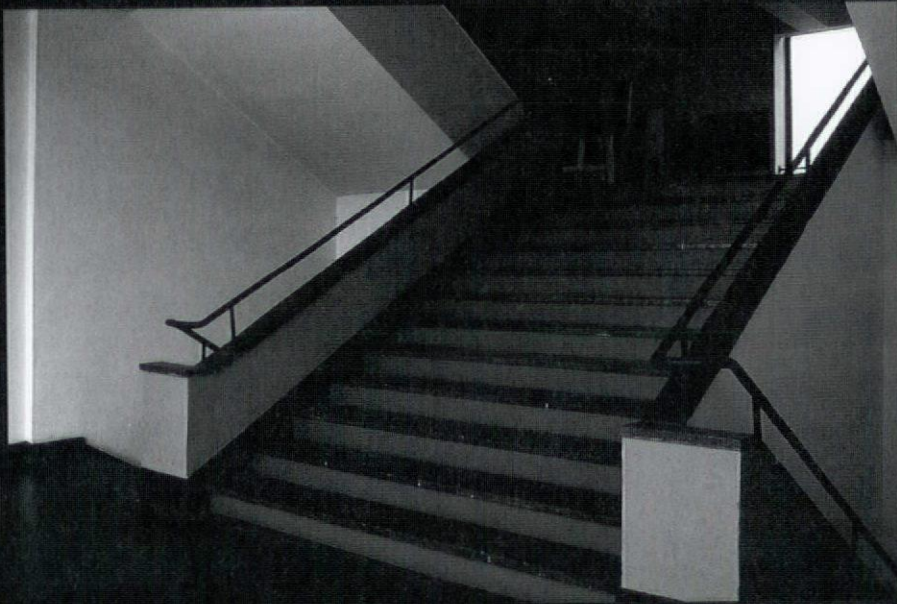
垂直に伸び上がる階段は、
また上下に振れる視線も誘発してくれる。
インテリアで、写真的な空間の奥行きを感じることは、
実はあまりない。
というのも、空間を撮ろうと臨んではみても、
たいていはファインダーのセンターに見える壁だとか
扉に焦点を合わせているからである。
たとえ広角レンズで被写界深度を大きくして、
パン・フォーカス的に写したところで、
どこかにピントを合わせなくては写真としての
強さが出ない。
何もないヴォイドを写したいのだが
結局は、正面の壁を物撮りしているに過ぎない。
そうではなく、
空間の感じを写したいのだという欲求は、
階段との出会いでようやく満たされる。

ヴォイドの垂直的な上昇に合わせて、
ステップや手摺りといった造形物も一緒に昇っていく階段。
何段目辺りにピントを持ってこようか。
絞りを開けて、
手前の手摺りだけピシッと写して奥行き感を強調しようか。
どんと見上げて、いや、ぐっと見下ろして、
スペースの流動感を伝えよう。
ひょっとして横位置の方が、
フロアーとの連続性は表現されるかもしれない。
階段に向かうと、空間が撮れるのではと思わせる、
実にたくさんの視点が出てくる。

そんな嬉しさ、楽しさから、
これまで階段は、
インテリアの中では
欠かさず写真に収めてきた。
果たして即物的な判断からくる
こうした写真上の工夫や表現が、
建築家の意図を的確に
捉えているものなのかどうかはわからない。
だが、レンズを換えよう、
ピントをはずそう、
高さを違えなくては、
そうしたさまざまな写真的な
アプローチが、階段に向かう時にだけ、
ごく自然に
どんどん沸き起こってくるのは確かだ。
それはとりもなおさず、
建築家が階段スペースをつくるのに
いかに腐心しているのが、
その証しのひとつではないかと思う。

(しもむら・じゅんいち／写真家)

バウハウス校舎
ワルター・グロピウス＝設計
1925-26年
デッサウ



まさにモダニズムの原風景を見せてくれる。

いかにも鈍重で武骨。だが、この即物的な様子こそが、

厚めの腰壁の真ん中に付けられた手摺は、

何の変哲もない、ただのコンクリートの階段だ。

そう思ってしまうことが、かえって驚異なのではあるまいか。

見慣れた、どこにでもありそうな階段、

イエーテボリ裁判所増築棟
エーリック・グンナール・アスブルンド＝設計
1934-37年
イエーテボリ



これほどまでに緩やかな勾配の階段に出会うことはめったにない。

階上からの光を受けて、手摺が見事な縦縞模様を繰り返して、上っていく。

この長い、温かな木製階段を一段一段上りながら、

人は真実や正義に改めて思いをめぐらせて欲しい、

そんな建築家の願いが読み取れまいか。

巨大な生産機械の一部のような純鋼鉄製の螺旋階段。

天井を無造作に通るパイプ、付けただけの照明。

ファン・ネレ工場

フルフト、スタム、プリנקマン

＝共同設計

1925-30年

ロッテルダム

そして外周をぞんざいに覆う銅板。

どこにも、甘美なデザインは見当たらない。



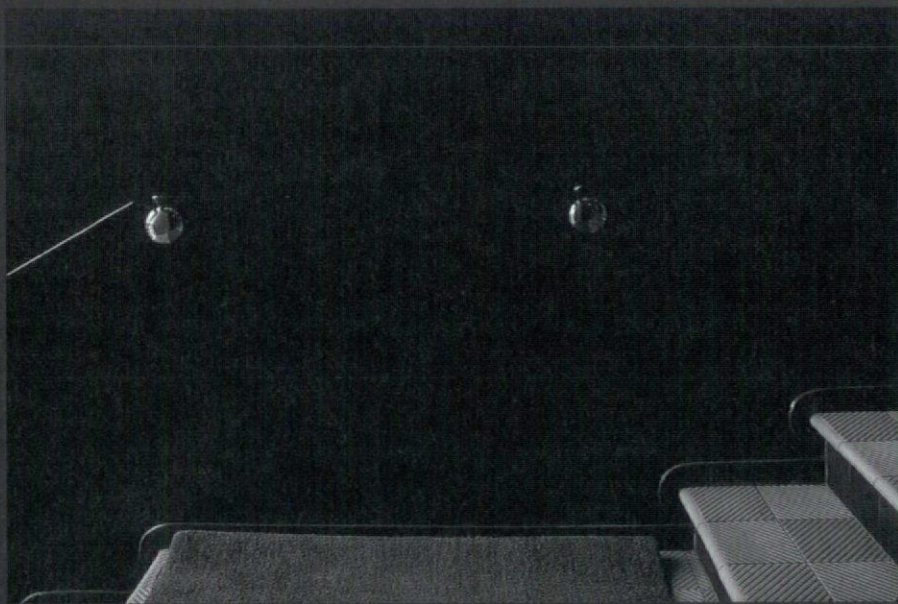
あまりにも見事な立ち姿。

割り出されたものと考えるには、

この曲率が、人の上り下りの機能面だけから

けれども曲線は、魅力的だ。

トルン・サノマ新聞社屋
アルヴァ・アアルト＝設計
1928年
トゥルク



手摺やステップ面は、階段デザインの大きなポイントだ。

構造の鉄筋を借用したような細い銅棒が、

クロムメッキの留め具に巻き付いては昇っていく。

ステップを繰取る、リノリウムの優しげな曲線。

ズドンと3階分を吹き抜ける階段スペースの

極小ディテールに登場する曲線を、

果たして人は目に留めるのだろうか。



グラスゴー美術学校
 チャールズ・レニー・マッキントッシュ＝設計
 1897-1907年
 グラスゴー

こんな鉄格子のはまった階段を見るのは、初めてだ。

安全性というよりは、

おそらくは増築部との境界を示す、

マッキントッシュ流のデザインに違いない。

それにしても、壁をわざと渋茶に塗っているのが、暗い。

この暗いトンネルを抜けると、

ガラス張りの明るい通廊が待ち受けている、

という演出も次の展開に隠されているのだが。

異なるデザインの階段が7、8ヶ所はある。

この郵便貯金局だけでも、

ワグナーは、階段の名手だ。

この役員用階段は、緩やかな勾配で、

踊り場で手摺の描くカーブは優雅この上ない。



ワグナーのデザインの真髄を見ているようだ。

いわば、男女両性を具有した、

ここではベンキの厚化粧を施されて柔和に見える。

彼のハイテク趣味を反映させた鉄の造形も、

サヴォワ邸
ル・コルビュジエ＝設計
1929-31年
ボワシー



サヴォワ邸のプランを見ると、
玄関ホールや客室の浴室の壁など、
いくつかの曲線がちょこちょこ顔を出しては活気を呼んでいる。

このサービス用の螺旋的な階段も、
腰壁を厚く高くとり、
室内にあってオブジェ的な存在感を見せる。

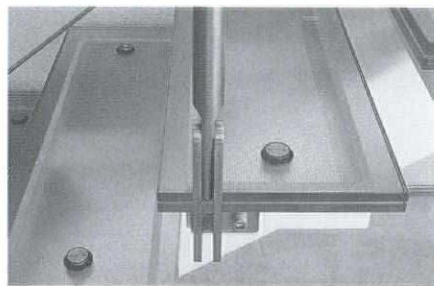
白壁を力強く縁取る、黒い手摺り。
空間というよりは、造形としての完結性がありはしまいか。

階段室外壁

〈東急南大井ビル〉(高さ約60m)

設計：(株) 坂倉建築研究所/東京事務所

透明性追求のため、「ガラス支持構造材を少なく、かつ細くする」ディテールが採用されている。ガラスの重量は吊り方式によって梁で、風荷重は、キャンティレバーの方立でそれぞれサポートしている。



踏板

©ISAO IMBE

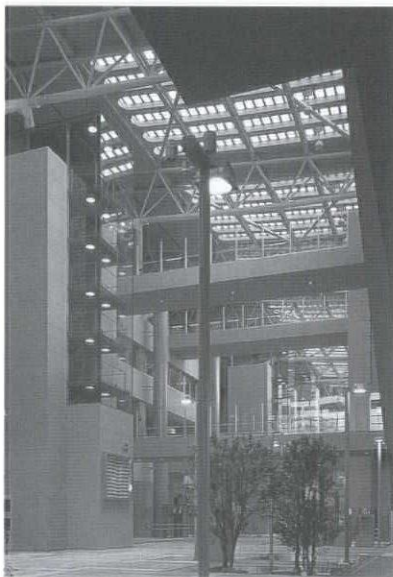
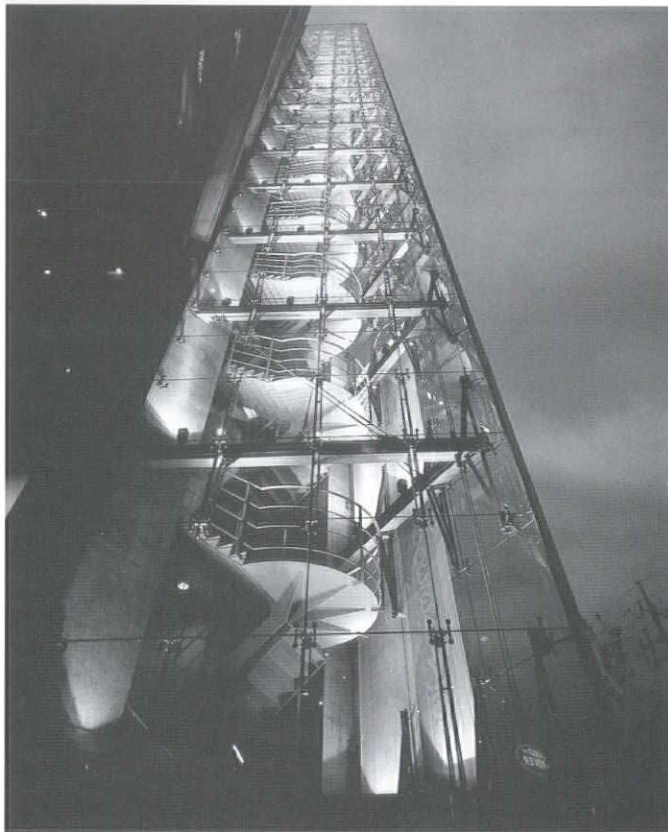
〈ムゼラデルカバリーノ〉

設計：林国美&アトリエR

万が一ガラス1枚が破損しても短期間の使用には支障のないよう、合わせガラス仕様になっている。踏面にはノンスリップ加工が施され、ガラスフリットを溶着して細かい凹凸をつけている。

限りなく透明で、開かれた空間の創造をサポートします。

ガラスを主体としたフレームレス工法を提案する旭硝子株式会社。「階段」においても、テンポイント(DPG工法：4隅を皿孔加工した強化ガラスをロチェール=特殊ヒンジ皿ボルトで固定したファサードシステム)によって、各部位の透明化を実現している。



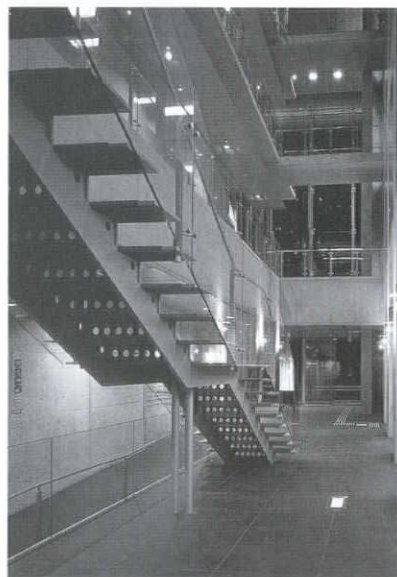
アトリウム内階段室壁

©松村芳治

〈関西国際空港旅客ターミナルビル〉

設計：レンゾ・ピアノ・ビルディング・ワークショップ
(レンゾ・ピアノ+岡部憲明)

大板ガラス(3.6m×2.4m)は踏場および手摺で支持されている。緊急避難時の人の移動による踏場の変位に追従できるよう、目地設計が施されている。



手摺

〈アミュゼ柏〉

設計：(株) 日本設計

「ガラスエッジをシャープに見せる」ため空目地になっている。万が一ガラスが破損した時の脱落等による危険防止のために合わせガラス仕様としている。

旭硝子株式会社

本社

〒100-8305 東京都千代田区丸の内2-1-2 (千代田ビル)
<http://www.agc.co.jp>

旭硝子ビル建材エンジニアリング株式会社

本社 〒110-0005 東京都台東区上野5-23-14 (御徒町MFビル1号館)

TEL 03-3836-5122 FAX 03-3836-9300

東京支店 TEL 03-3836-5122 FAX 03-3836-9300
中部支店 TEL 052-586-8715 FAX 052-561-1460
九州支店 TEL 092-441-6692 FAX 092-474-2136

関西支店 TEL 06-6304-2220 FAX 06-6304-5375
東北支店 TEL 022-215-6633 FAX 022-263-6511
中国支店 TEL 082-251-0400 FAX 082-251-0450

旭硝子北海道建材株式会社
TEL 011-241-8580 FAX 011-222-4064

階段製作会社として、 人にやさしい人間工学的な階段を作っていきたいと考えています。

日本における階段製作メーカーのパイオニアであり、業界のリーディング・カンパニーである横森製作所。溶融亜鉛メッキによる錆びにくく、歩行音の静かな屋外鉄骨階段「Z55 SFRC」は、日本における屋外階段のデファクト・スタンダードを築き上げ、今もなお多くの建物に採用され続けている。その一方、様々な建築家との協働作業により、既製品の階段を応用したデザイン階段の分野でも多くの実績を残している。また建築家、村野藤吾氏の講演会の開催や、自社製作による階段文化のバイブル的な文庫本『カイドン博物館』の出版などに代表されるように、文化事業にも力を注いでいる。今回は実務の第一線で階段製作に携わる横森製作所CADセンター、門井由典氏に、製作者の立場からみた階段のお話を伺った。設計者とは異なる視点から放たれる鋭い眼差しは、設計者が実務を行う上でも非常に興味深いものがある。

インタビューア：高森和志／KAJIMA DESIGN



〈東京都新都庁舎〉
設計：丹下健三都市・建築設計研究所

屋外階段の標準となった溶融亜鉛メッキによる鉄骨階段「Z55 SFRC」

——まず最初に横森製作所の代表作である、溶融亜鉛メッキによる鉄骨階段「Z55 SFRC」についてお聞かせ下さい。

一言で言うと、メッキをすることでメンテナンス・フリーになる、つまり錆びない階段です。鉄部分すべてに亜鉛を80ミクロンぐらい漬けてメッキします。これはJIS規格のなかでも最高の、平米あたり550gの亜鉛の量があるものです。当時、土木の分野では以前からメッキはあったのですが、建築では、メッキと言えば、電気メッキぐらいでほとんど使われていなかったんです。これを一番最初に使った1983年の江東区菊川にある、〈プラザ元加賀〉では、本格的にSFRCという踏み板とメッキのものを組み合わせた初めての作品です。「錆びない」「音がしない」といった階段を世の中に生み出した原点だと思います。今、町中の建物の屋外階段でメッキしていないものはあまりないのではないのでしょうか。

建築家とのコラボレーションから生まれる階段たち

——建築家とのコラボレーションで既製品を応用したデザイン階段を作ることもあるとお聞きしていますが、その際、どのようなことに留意されているのでしょうか。

ある事務所の方々と、受注する前に「こういった階段があるから相談に乗ってもらえないか」といった形でお話することがあります。受注した後でも、こういう階段にしたいというコンセプトを聞きながらひとつのものを作り上げていくのです。

私は、以前、都庁のメインの階段を担当しました。これに関しては、最初の段階から打ち合わせを重ねながらつくりました。実際に現場が始まってから我々が参入するケースが多いのですが、な

るべく基本設計の段階からお話に入れて頂き、設計者の方々と細部を検討していけば、より良い階段ができると思います。

既製品を応用するセミオーダー方式による、ローコスト・グッドデザイン

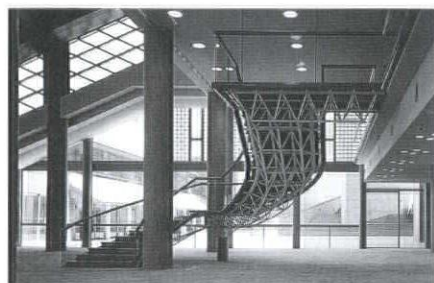
——実際に設計者と階段を作っていくときに、ひとつはフルオーダーという方法、そしてもうひとつは、横森製作所の既成のものをうまく転用して設計者の思想に合うものを作っていくセミオーダーというふたつの方法があると思います。横森製作所の方法としては、こういったスタンスで実務にあたるのですか。

まず、設計者のコンセプトを聞くというのが最初の段階として大切です。その階段は見る階段なのか、避難のための階段なのか、また階段としてどこを見せたいのかをお聞きして、きちんと把握する必要があります。建築家の方々に対しては、なるべく規格に収めるように話をもっていけないと、なかなかコストが下がりにません。コストを下げるのが、現在は一番の課題であり、ニーズなのです。

工場では、まず大きな鉄板に階段を組み立てるのに必要な穴を開けて、それから外形をプラスマ切断という方法で別のラインで切っていきます。この方法だとかなりコストの問題も解決するので。実際、これはコンピュータ上で、大板をどう切るかを決めるわけですが、現場の単位でやっていくと無駄が多いので、別々の現場の階段をいくつか組み合わせて切るように効率化を考えています。

(1999年6月17日 於：横森製作所)

〈池袋東武百貨店〉
設計：JR 東日本東京工事務所



〈国民宿舎サンライズ九十九里〉
設計：宮本忠長建築設計事務所



〈学校法人文化学園〉
設計：都市計画研究機構、三菱地所



〈エニックス本社ビル〉
設計：日建設計

階段屋
YOKOMORI

株式会社 横森製作所 本社：東京都渋谷区幡ヶ谷1-29-2 〒151-0072 / tel: 03-3460-9211, 03-3460-9211 (営業第3部)
問い合わせ先：営業第3部 e-mail: service@yokomori.co.jp http://www.yokomori.co.jp
Auto CADのDWG, DXF, DWF形式の図面がホームページよりダウンロードできる。
大阪支店 / tel: 06-6554-5578, 九州支店 / tel: 093-244-0027, 北海道営業所 / tel: 011-614-3637, 仙台営業所 / tel: 022-211-0461
横浜営業所 / tel: 045-475-3391, 名古屋営業所 / tel: 0561-63-9510, 広島出張所 / tel: 082-296-4131
建設大臣認定工場 Mグレード

清らか、
爽やか、
和やかな環境づくり。



■空調設備工事 ■給排水衛生設備工事 ■給湯設備工事 ■その他建築付帯設備工事

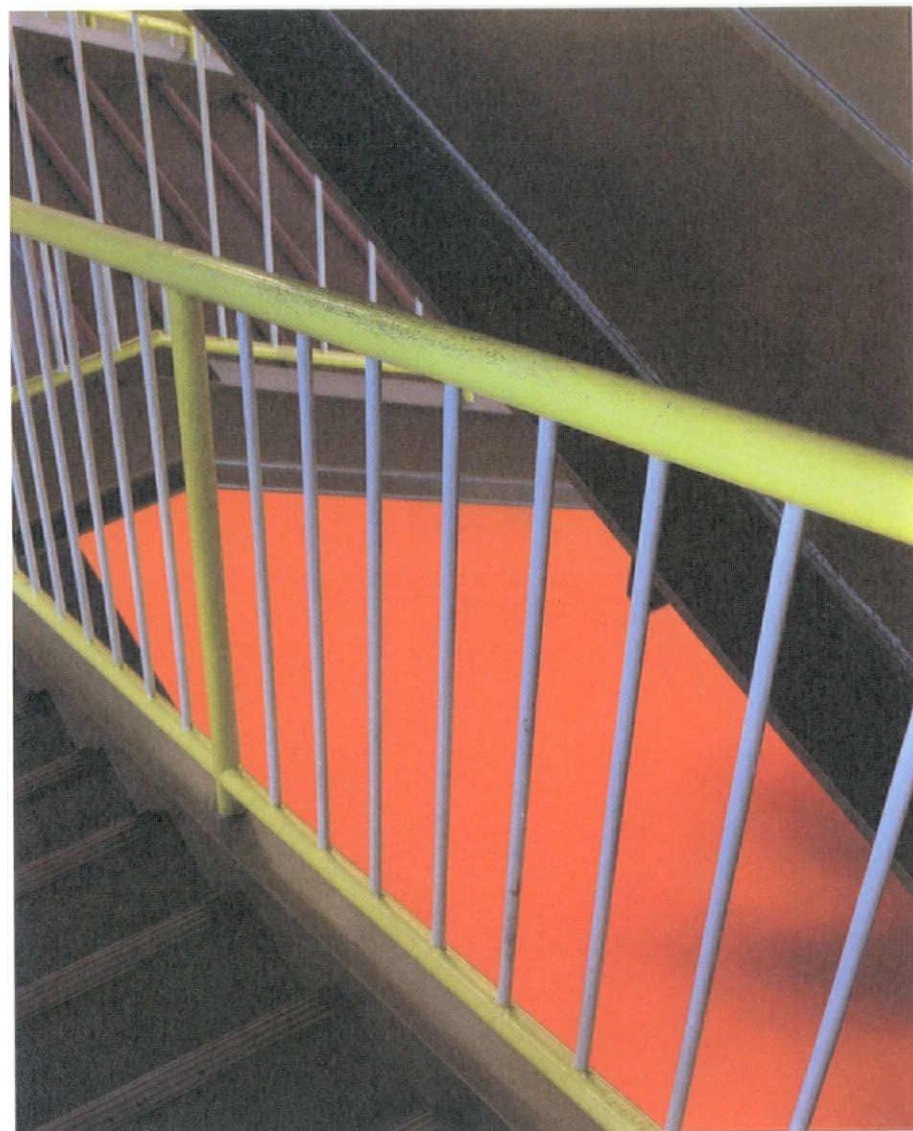
ヤナセ設備工業

good new days
人間らしい美しい未来を

ヤナセ

株式会社ヤナセ設備工業
〒105-0023 東京都港区芝浦1-11-4
電話(代表)東京(03)3455-8091





The Entropic Forest

Urban Infrastructure

photographs Heiner Schilling text Hiroo Yamagata

連載 8

エントロピーの森：都市のインフラストラクチャー

写真ハイナー・シリング 文 山形浩生

『監視。』

画面を、赤い帯が覆った。

あれは忘れもしない4年前の夏。家族を毒殺したという疑惑で、かれは日本中の関心の的となっていた。かれの一挙一動を、すでに監視カメラが追いつける状態。中央アジアと関係が深いといわれ、慎重な姿勢だった警察が、ついに逮捕へと動いたとき。容疑者が自宅間近で突然さびすきをし、駆け出した。

逃げる容疑者を、日本中が監視カメラで追っていた。テレビもその映像をそのまま映し出している。警察官が、監視カメラのデータをもとにそれを追う。そのときのできごとだった。

多くの人は、またネットワークのグリッチかと思った。あるいはモニタの接触不良か。容疑者の姿は見えなくなり、復旧したときには、もうかれの行方はわからなくなっていた。

これが容疑者グループのしわざで、それとも追跡の邪魔をさした警察が、へまをしたのかは、いまだにはっきりしない。警察だろうとは言われる。その後も、要人来日の際など、何回か同じようなことが起きたり。

Webカメラは、前世紀末のウェブ草創期からあった。コーヒーボットを監視してみたり、自動販売機を監視してみたり。だりそれか「まったくいう意味合いを持ってきたのは、日本での2023年の(予定より大幅に遅れた)第二東名高速道路開通のときだ。上下線とも500メートルおきの交通流監視用カメラが、情報公開法の拡大施行ともなつてすべてネット接続され、やがて一般道にもそれが展開。沿道の店舗やビルが宣伝用に、自店の映るカメラ位置を自発的に提供。ビルの共用部分を含む、ありとあらゆる道路、交差点が常時ネットで見られる。カメラが多すぎて、IPv6のIPアドレスが枯渇しきけり。だれもない、寂しい交差点。あるいは深夜過ぎても人のいささう裏通り。それをストリームで取り込んでないも考えず、ひたすらぼんやり眺め続けるのが暇潰しになっていた。テレビも、もう中継車の出番はほとんどない。監視カメラの映像のほうに圧倒的に早い。

しかし、この一件を期に、状況はまた変わりはじめた。監視カメラのデータを改変できるのか、だれの目にも明らかになってきたりした。この事件でふたたびプライバシー問題がクローズアップされてきて、特に民間設置のカメラを中心に、有料で画像の一部にマスクがけられる動きが出てきた。

マスクの技術もあれから急速に進歩した。画面の中の、ごく一部分だけにマスクをかける技術が数多く登場した。階段室の下など、一部マスクのかかった変な場所は、クすり取り引きや喫煙に使われているという。さらに最近ではもう、露骨なマスクは減っている。CG合成で一見、物理的な覆いしきりみせないものを映像にりぶせてあるのだ。

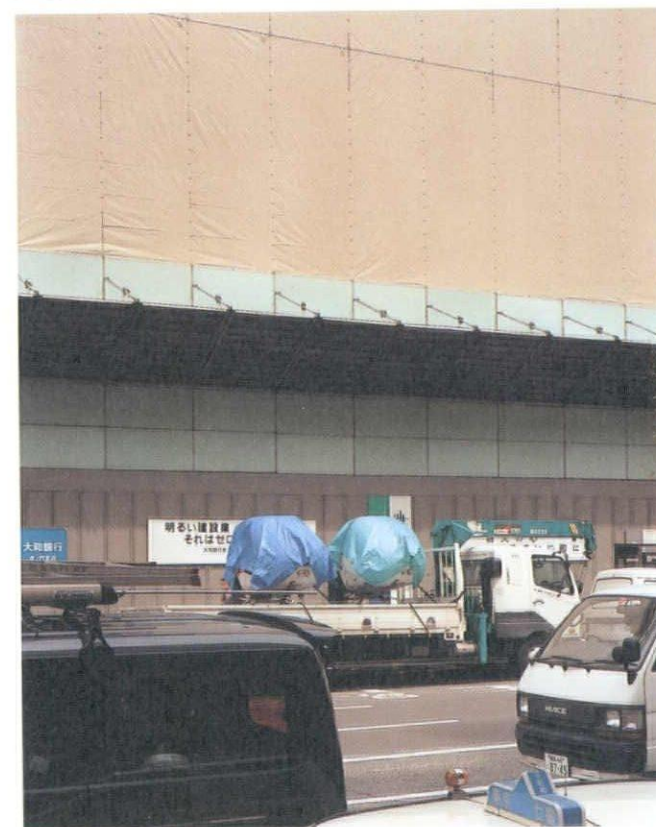
もう監視カメラ経由の風景と、現実の窓から見る風景はまったくちがう。ぼくがいるこのビルは、監視カメラ上ではもう5年も前から、ずっと改修工事が続いている。画像内壁面を広告用に貸し出す商売すら出てきている。ネットから見る現実、広告だらけの(それも動画の)建物の前を、覆いだらけの車り通過する、古典映画「ブレードランナー」まじりの風景になっている。

先日、祖父をつれて(というよりつれられて、だろ)う。もとバックパッカーの祖父とちがう、ぼくは旅行は苦手だ)ザンビアにでかけた。もう21世紀も半ばだというのに、ネットもほとんど届いていない。テレビも、日本からのチャンネルはあいいり一つ一つだけ。(しかも中身は、合併民営化前のNHK——もともとリストラされた連中、いまだに「かつてのわれこそ真の民営、あれは商業化であり、我々が同ジャーナリズムの終焉である」と公言して煙たがられているらしい——となにも変わっていない、と祖父は苦笑)。

深夜。11時頃に放送が終わると、あとは一晩中、どこかの交差点が映し出されている。なにも起こらない。ときどき車りウィンカーを出して、信号待ちをしている。そして走り去る。

まるでむりしのウェブを見ているようだ。

photograph 3



photograph 1*: 集合住宅の非常階段と、階下に見える隣接工業施設のオレンジ色の廃液
photograph 2*: コンピュータメーカーの本社ビルの前面に設置されているオブジェ
photograph 3: 工事現場の仮囲いの前を過ぎる搬送中のヘリコプター

*: エプソン・インクジェットプリンタPM-9000Cで出力した原稿をもとに製作しました。

design: Shin Akiyama / Les sœurs Papin

SD9908

「僕のうちにも、もうすぐCATV。」

■情報通信メディアの明日を創る——ここにも、きんでん。
光通信やCATV、携帯電話……これら情報通信の総合設備にも
先進の技術力が光っています。

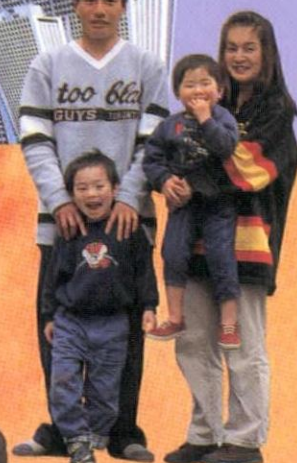
きんでんは情報・エネルギー・環境の各分野にわたって、
人と技術の調和を目指した総合設備エンジニアリング事業を展開。
社会と暮らしのさまざまな場面に、きんでんの先進技術が活かされています。

あつ、きんでんだ。

「人にも地球にも

大切なエネルギーだから。」

■安全に安定してエネルギーを供給する
設備とシステムづくり——ここにも、きんでん。
地球環境に優しく、経済的なエネルギーの開発と
有効利用の実現に向けて、日夜取り組んでいます。



「マルチメディアは簡単になるんだ。」

■情報化社会を全方位でサポートする——ここにも、きんでん。
これまで個別だった音声・データ・映像の配線を統合したり、
光ファイバ融着技術等の新工法に取り組むなど、
多面的なネットワーク環境を構築しています。

「システムインテグレーションで、人に優しい。」

■繊細に感性豊かにシステムを制御する
——ここにも、きんでん。
多様なオフィスビルや工場などの環境と生産体制に対応した、
人間中心のシステムづくりを開発、提案しています。

「良くなるね。街も人も。」

■ビルでオフィスで地域社会で、より快適な環境を創る
——ここにも、きんでん。
地域冷暖房プラントなどの環境設備。オフィス空間の機能性・快適性を提案する内装設備。
これらの多面的で総合的な設備事業を展開しています。

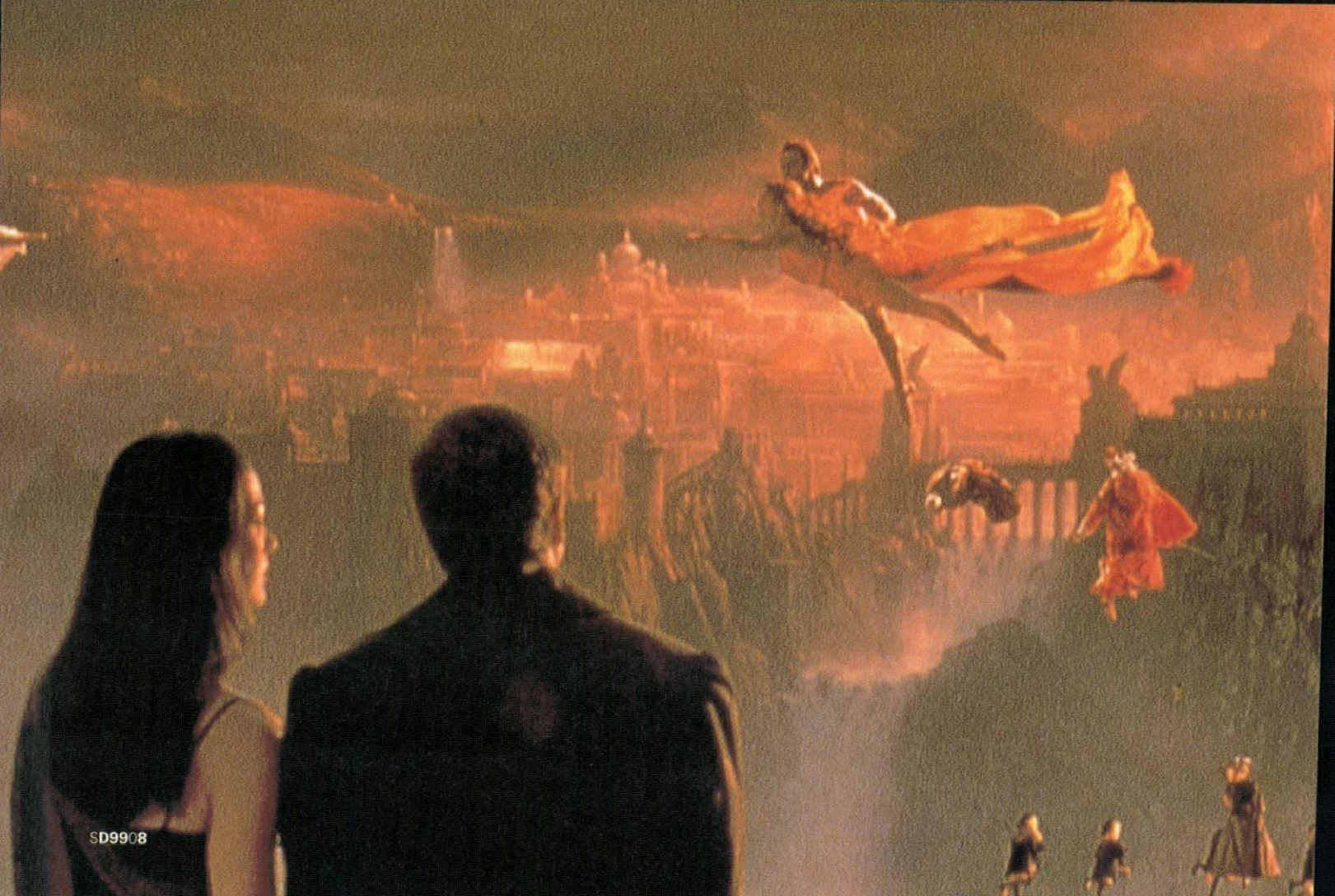
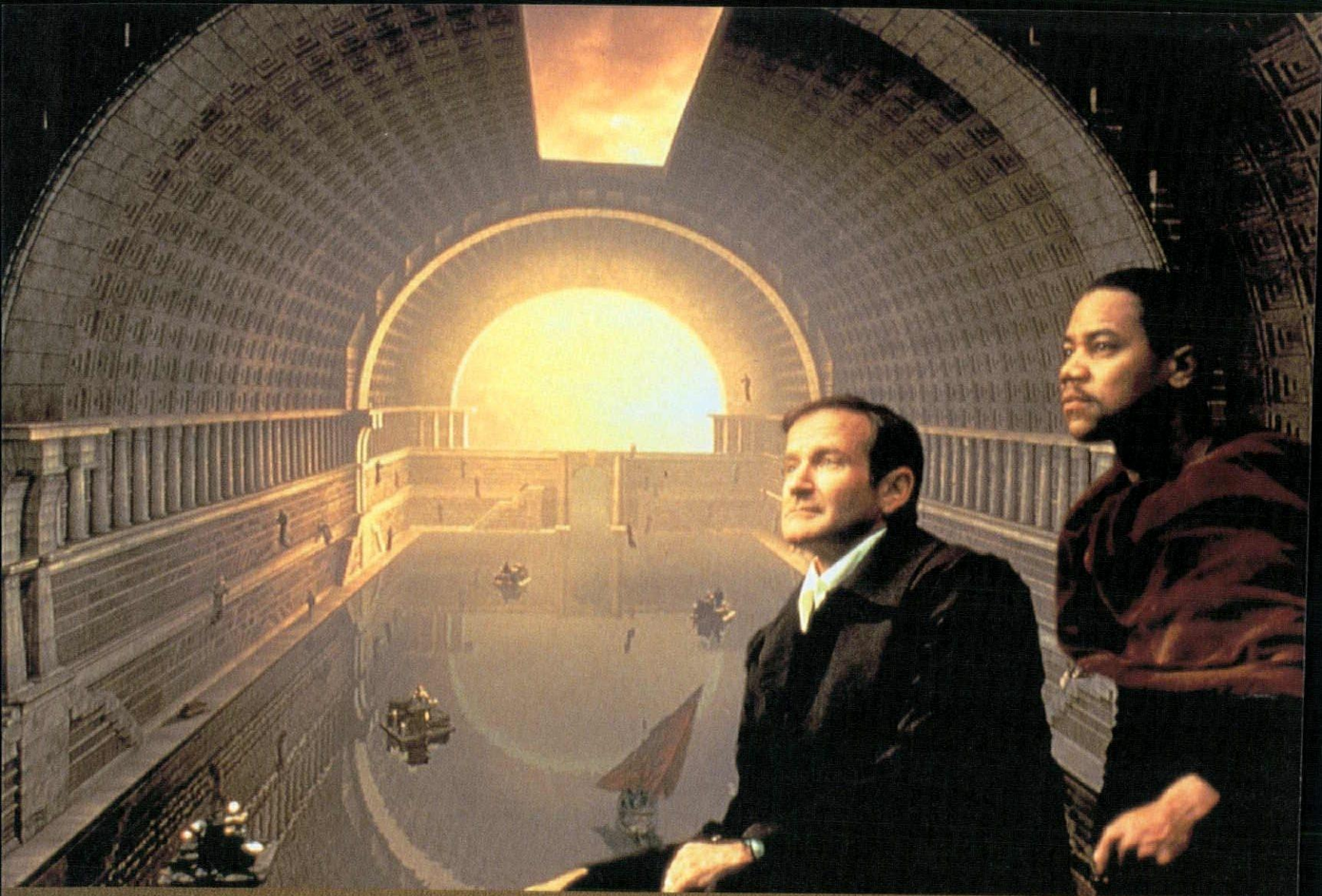
「海の向こうでも

活躍してるんだって。」

■地球上の各地域におよぶ海外工事の実績
——ここにも、きんでん。
1950年代に始まるきんでんの海外経験。
習慣や国民性の異なる世界各地でも、
きみ細かな活動を続けています。

株式会社 きんでん

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号
東京本社 東京都品川区東五反田5丁目25番12号
国内事業所185カ所／海外事務所12カ所／国内関係会社19社／
海外関係会社4社／海外合弁会社7社



19世紀的夢の残像

生者と死者の愛の交歓を描いた映画が、なぜか最近続いている。『ゴースト ニューヨークの幻』や『シティ・オブ・エンジェルズ』、そして『奇蹟の輝き』(ヴィンセント・ウォード監督、1998年)も、そうした設定による映画である。

ただし、『奇蹟の輝き』のユニークな点は、死者たちの黄泉の国(天国そして地獄)での再会を軸に物語が進行する点にある。主人公の医師クリス(ロビン・ウィリアムズ)は、幼き二人の子供を交通事故で失うが、その呆然とした日々の中で彼をもまた不慮の死が襲う。そしてひとり残された妻アニー(アナベラ・シオラ)は、癒し得ぬ失意の中で自らの命を絶つ。その物語を言葉で綴ると、救いのない暗鬱とした気分になるのだが、死後のクリスが天国で見たものは、生前に垣間見たユートピアのような世界であった(丹波哲郎の「大霊界」)。亡き肉親や知人との幸せに満ちた天国での再会を果たし得たクリスの最大の悲しみは、自殺という咎によって地獄に落とされてしまったアニーとの邂逅が果たし得ぬという黄泉の国の掟であった。そうしてクリスの天国から地獄への決死行(死者に対しては的確な表現ではない?)が始まるのだが……。

この映画最大の見所は、死後の世界の映像化である。CGやSFX、画像合成といった現代のデジタル技術の駆使によって初めて可能になった映画である(1998年度アカデミー視覚効果賞)。ただし、そうして作られた映像は、未知の視覚的体験への誘いと言うよりは、われわれの視覚的記憶を誘発するような既視感に

溢れている。「あの世」は「この世」の延長なのである。

あの世は、さながら歴史上描かれたヴァーチャルな世界の万華鏡として描かれる。時としてスーラの絵画を想わせる世界があり、ドイツ・ロマン派のフリードリッヒの風景画、そしてアメリカの画家トマス・コールやイギリスのジョゼフ・ガンディー(J.ソーンの事務所のドラフトマン)の廃墟のような都市の風景といったものが、巧みな画像処理によって空間映像として甦える。あるいは、クリスが地獄への旅の水先案内人トラッカー(マックス・フォン・シドー)によって導かれていった場所は、フランスの建築家エティエンヌ・ルイ・ブレが19世紀の直前に描いた王立図書館の巨大なヴォールト空間であり、さながら「三途の川」のごとくにそこは水で満たされている。図書館とは歴史や記憶の象徴であり、『ベルリン・天使の詩』や『シティ・オブ・エンジェルズ』では生者と死者の邂逅の場であったが、この映画では天国と地獄という死者のふたつの世界を繋ぐ記憶の収蔵庫である。

このように、この映画で描かれる死者の世界は、歴史上のさまざまな空間ソースを活用して映像化されているが、そこに通底するのは永遠性と崇高さを求めた19世紀的空間ビジョンである。フロイトの出現で象徴されるように、19世紀とは近代の理性の裏側に潜むさまざまな「夢」が開花した時代でもある。歴史主義を色濃く残し、自然の背後には崇高なる神を予感し得た19世紀的夢の世界が、生者としての現代人が帰還すべき世界であるとも読み取れる。

そのストーリーは荒唐無稽のようにも映るが、これらの死者の世界の美しい映像は、愛する人を亡くした人々にとっては、その悲しみへの幾許かの癒しにはなるであろう。

C u l t u r e a f e

CINEMA
今月の映画

『奇蹟の輝き』

監督：ヴィンセント・ウォード

脚本：ロン・バス

出演：ロビン・ウィリアムズ、キューバ・G.ジュニア、他

鶴沢 隆

うざわ・たかし／つくば大学助教授

建築家。1974年東京工業大学建築学科卒業後、大学院博士課程を経て、1980～83年フィレンツェ大学建築学部留学。主な著書には、『ジュゼッペ・テラーニ』(監修/INAX出版)、『球と迷宮』(M.タフォーリ著/共訳)などがある。作品には『ハウス117』(1995年)、CD-ROM『NOWHERE』(HartLAND刊)など。『未来都市の考古学』展(東京都現代美術館等1996年)や『ジュゼッペ・テラーニ』展(水戸芸術館1998年)を企画・監修。



写真：日本ヘラルド提供



青いフィドルが繰り出す 変幻自在の音の魅力を堪能

過去3年間、年間ベスト・コンサートを振り返るとダントツ印象に残っているのがドナル・ラニー率いるアイルランドの若手強者グループ(去年からクールフィンというグループ名が決定)だった。もう若手とは言えないドナル自身は52歳で、70年代から終始、チーフタンズに代表されるアイルランドの伝統音楽がもつ普遍的な魅力を、よりコンテンポラリーに響かせることに力を注いできたが、彼のグループがライブで発揮するマジックは並大抵のものではない。

残念ながら彼らの次の来日は発表されていないが、6月に初来日を果たしたアイリーン・アイヴァーズは基本的に志の似たミュージシャンで、実に素晴らしいライブを展開した。アイリーン・アイヴァーズという名前を知らなくても、日本でも大きな話題となった「リヴァーダンス」のビデオを観たことがある人なら、真っ青なフィドル(こういう時はバイオリンと呼んではならない)を弾きまくる彼女の姿を忘れることはできないはずだ。

ニューヨークのブロンクスに生まれ育ったアイリッシュ・アメリカンのアイリーンは、9歳のときから父親とともに人前でフィドルを演奏していたのだが、彼女の興味の対象となったのは伝統音楽だけでなく、当然ながらロックを初め、さまざまな音楽を聴いていた。そういった要素がすべて彼女の音楽のなかに共存しているのも言うまでもない。

アイリーンがまだ小学生にもならない頃に大流行したワーワ

ー・ペダルを、大分あとにあるとき楽器店でギター小僧たちが使っているのを耳にして、すっかり気に入って自分でも使うようになった。どうしてもジミー・ヘンドリックスを思い出してしまうこの音が突然飛び出すと驚かすにはいられないし、さらに驚くことにフィドルよりもギターに近い音色でエディ・ヴァン・ヘイレンを思わせるようなハードなフレーズを弾くこともあるが、さすがにそういう要素のインパクトを失うまいと(?)、やたらにロックする訳でもない。ジャズやカリブ海の音楽のニュアンスをふんだんに取り入れたりする自作曲にアイルランドのダンス・チューンをメドレーで組み合わせたり、ヴァラエティに富んだプログラムを本人の親しみやすい話でつなげて聴かせる構成もとても好感の持てるものだった。アイリーンはまったく飾らない人(これはケルト人全員に共通すること??)だが、その実力はありありと伝わってくる。

メンバーは彼女の幼なじみでもあるバグパイプのジェリー・オサリヴァンを筆頭に、アイルランド人のギタリスト、南アフリカ人のベーシスト、キーボードも兼ねるアメリカ人のドラマー、そして歌を歌うアメリカ人のもう一人のギタリスト、という顔ぶれ。

おまけに、アイリーンが3年以上出演した「リヴァーダンス」の仲間だったアフリカン・アメリカンのタップダンサー、タリク・ウィンストンがゲストで登場し、時にはアクロバティックでもさりげなくクールな踊りで場を盛り上げた。

観た人は誰でもアイリーンのファンになってしまうようなコンサートだった。観られなかった方には、取りあえず見事な内容の新作「クロッシング・ザ・ブリッジ」をお奨めしておく。

C u l t u r e C a f e

MUSIC

今月の音楽

アイリーン・アイヴァーズ

ピーター・バラカン

日時：1999年6月1日

会場：ラフォーレ原宿

1974年に来日以来、目下25年間東京在住の英国人ブロードキャスター。最近500回目の放送を記念したTBSテレビ「GBSドキュメント」の印象が強いせいか、もともと音楽畑の人間であることを知らない方が多いらしいが、ご本人は毎週土曜日の朝NHK-FMでの「ウィークエンド・サンシャイン」と日曜日の朝インターFMでの「バラカン・ビート」を是非チェックして欲しい、とのこと。



「クロッシング・ザ・ブリッジ」ソニーミュージック SRCSS8898

Exhibition Report

展覧会レポート

建築プロセスのミニアチュール

「安藤忠雄建築展——20のプロセス」

笠原一人

会期：

1999年6月15日(火)～8月15日(日)

「安藤忠雄建築展——20のプロセス」会場：

光の教会／兵庫県立こどもの館／姫路文学館／真言宗本福寺水御堂／直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム／大阪府立近つ飛鳥博物館／兵庫県の殿堂／サントリー・ミュージアム「天保山」／成羽町美術館／市立五條文化博物館／アサヒビール大山崎山荘美術館／ギャラリー小さい芽／越知町立横倉山自然の森博物館／TOTO セミナーハウス／赤い帽子織田廣喜ミュージアム／エリエールスクエア松山／西宮市貝類館／大阪府狭山池ダム資料館（仮称）淡路夢舞台「淡路島プロジェクト」（建設中）／兵庫県立新美術館「芸術の館（仮称）」神戸市水際広場



光の教会

撮影＝筆者



兵庫県立新美術館「芸術の館（仮称）」神戸市水際広場

SD9908

関西と中国、四国地方に散在する安藤忠雄設計の20の建物において「安藤忠雄建築展——20のプロセス」が開催されている。建築行為はプロセスの中にこそ存在し、建物は作ることのみならず生かすことが重要である、との視点から企画されたものである。スケッチや図面を通じたそれぞれの建物の設計プロセスの展示は、安藤の姿勢の原点を再確認させるものであり、かつ90年代に入り多くの公共施設の設計に関わってきた安藤ならではの企画であると言える。20の会場の中から〈アサヒビール大山崎山荘美術館〉、〈光の教会〉、〈兵庫県立新美術館「芸術の館（仮称）」神戸市水際広場〉の3ヶ所を選び、訪れた。

〈大山崎山荘美術館〉は、関西の実業家加賀正太郎によって大正から昭和初期にかけて建てられた擬洋風の山荘である。近年廃虚同然となっていた建物の修復・保存と、加賀と親交のあったアサヒビール初代社長山本為三郎の美術品コレクションを展示する場としての新館の設計が、安藤に依頼されたものである。

設計プロセスを示す展示品は、打ち出しコンクリートの巨大な壁に掛けられた数枚のパネルに収められている。展示の規模は小さくとも、丹念にその内容を見ると、小さいという印象は吹き飛ぶ。スケッチが約20枚、ドローイングと設計図が各2枚などの展示品である。修復前の本館の姿が写真や立面図で示され、さらに新館の設計プロセスがスケッチや図面によって示されている。新館の設計は、山荘を囲む環状のギャラリーと卵型の音楽ホールからなる第1案から、環状のギャラリーと矩形のホールを組み合わせた第2案へと進み、さらに地中の円形ギャラリーと回廊の構成からなる第3案へと移行する。スケッチは、紙ナフキンやメモ帳などに描かれ、検討すべき事項についてのメモが添えられている。場所や時間を選ばずに筆を動かす安藤の姿が思い浮かぶ。最終案の検討では、スケッチに寸法が入り、パースや立面が増え、さらに周囲の庭や池の演出方法まで書き込んだスケッチやメモが見られる。古いものと新しいものを共存させるための大胆かつ、慎重なプロセスを読み取ることができる。

〈光の教会〉は、まず既存の教会施設に礼拝堂が増築として計画され、予算上の制約が厳しい中で、信者と建設会社の熱意で1989年に完成した。その後、既存

の木造教会部分を取り壊して日曜学校と集会所に作り替えたいとの教会の意向があり、礼拝堂と相似形を成す日曜学校が今年2月に竣工したばかりのものである。

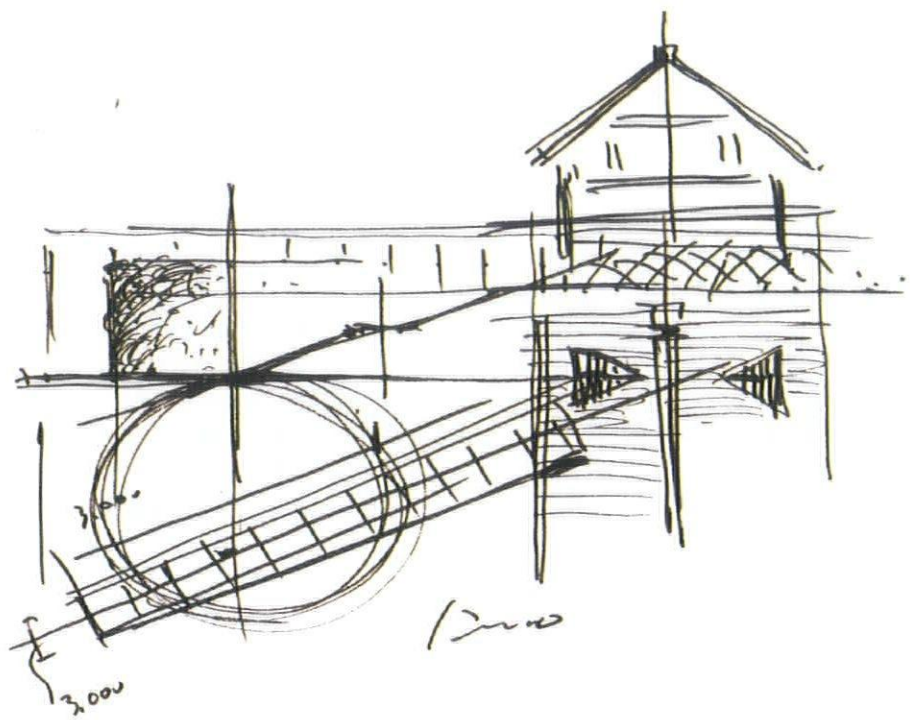
展示は日曜学校の中で行われており、計20数枚のスケッチ、12枚の写真、8枚の図面などがパネル化されている。礼拝堂部分の初期のスケッチからは、当初より内部の光の十字と箱が貫入する壁の組み合わせが決定していたことや、十字形の位置やプロポーションの寸法が幾度も詳細に検討された様子が分かる。増築された日曜学校の配置検討のスケッチには、礼拝堂との隙間部分に「ここをどう使うか」などのメモが見られるのが興味深い。時間的に長い間隔を置いて作られた作品の接続の仕方に注意が払われた様子が伝わる。

〈兵庫県立新美術館・神戸市水際広場〉の会場は、現在も建設工事が続けられている。阪神・淡路大震災後に行われた兵庫県立近代美術館の新築移転に際しての国際公募型コンペの敷地が、偶然、それ以前に神戸市から依頼を受けていた水際広場の隣に位置していたので、公園と一体化した新美術館を提案したという。

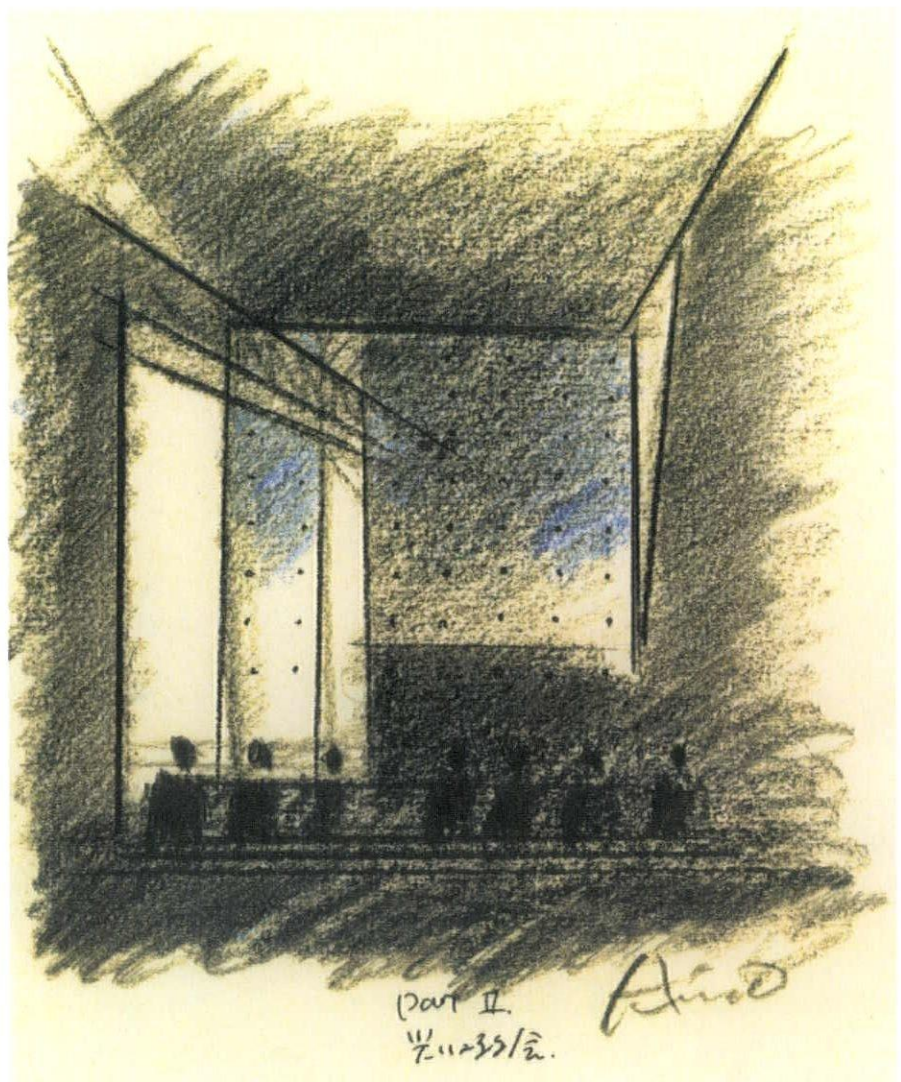
ここでは展示室が仮設の現場事務所の中に設けられているのが面白い。展示室へ至る工事現場の壁には穴が開けられていて、工事の様子を覗き見ることができる。建築が建てられる現場を重視する安藤らしい演出である。展示室には他の会場と同様にパネルにスケッチや図面が貼り込まれ、さらに、大きな模型も展示されている。建物の軒先部分の細かいスケッチが印象的である。庇のシステムのスケッチには、技術的な注意事項や「何のための庇か」「屋根か庇か」といった庇の意味を自問するメモが書き付けてある。建物の巨大さを支えるための細部へのこだわりが垣間見える。

いずれの会場においても、小さな紙に描かれたスケッチとその集積からなる展示が、実際の巨大で抽象的なコンクリートの建物との間に対比を見せていて興味深い。その展示は、さながら建築プロセスのミニアチュールのようなものである。そしてそれは、近年その作風が大きな転回を見せている安藤の、決して変化することのない建築に賭ける情熱とそのプロセスの在り方を示している。

（かさはら・かずと／京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科助手）



光の教会、日曜学校



Exhibition Report

展覧会レポート

建築家 横文彦 近作展

会期:

1999年6月23日(水)~7月18日(日)

会場:

東北芸術工科大学ギャラリー

山形市上桜田200

特別講演会:

1999年6月22日(火) 18:00~19:30

会場:

東北芸術工科大学411 講義室

香川 浩

「建築家 横文彦 近作展」および特別記念講演会
それぞれの記憶の縁にて

6月23日から7月18日まで、山形市の東北芸術工科大学ギャラリーにて「横文彦 近作展」が開催された。意外にも横文彦の作品展は東北では初めてのことであり、高松宮殿下記念世界文化賞の受賞直後ということもあって、建築関係者のみならず一般市民にも大いに注目を集める催しとなった。展示された作品は近作11点。横文彦の軌跡そのものといえる〈ヒルサイドテラス〉をはじめ、つい先頃発表された〈ヒルサイド・ウエスト〉、未だ計画段階のものや施工中の現場で急遽プリントアウトされたエスキース図面も、この展覧会のために用意され、横事務所の現在を俯瞰し得る密度を持った、充実した展覧会場となった。なかでも注目されたのは〈鳥取県立美術館〉であった。近年の横作品としては比較的シンプルな計画で、小高い丘の上の敷地は条件が良さそうに感じられたが、残念ながら計画地が変更になるようである。はからずも、宮城、福島、富山、鳥取などの、東北あるいは日本海側諸都市のプロジェクトが並んだことは、日本の建設需要の現状を示すようで興味深い。

また6月22日には展覧会に先立ち、記念講演会が同大学で行われたが、こちらは聴講希望者が予想よりも大幅に多く、予定した会場を変更せねばならないほどの盛況であった。これは少々大袈裟な物言いであるかもしれないけれど、立ち見ていっばいになった会場の熱気からは、今や押しも押されぬ巨匠への注目度の高さというよりは、ひとつの事件を共有しようとする一体感のようなものが感じられた。

たとえば東京のような街に住むアーキテクトから見れば、いかにも山形は眠ったような街であろう。しかし山形の人々にとってみれば、こうしたひとつひとつのイベントが事件なのである。さらに講演会への来場者は、山形市内のほか東北近県や関東地方からかけつけた人も多く、どこかお祭りを思わせるような、晴れやかな雰囲気があったし、講演者自身も、当日は新潟からローカル線(米坂線-米沢と新潟県坂町とを結ぶ列車は日に5本くらい)を乗り継いで山形入りしたとのこと。東北に残された豊かな自然を体感できる短い旅を、ことのほか楽しんだようだ。こうして「場所と建築」と題された講演にふさわしい空間が用意されたわけである。

小沢明デザイン工学部長の短い挨拶の

後、いよいよ横氏が登壇し、アーキテクトにとっての場所との関わり方、そしてそこからどのように発想しているかということを中心に、各プロジェクトを解説していった。場所という言葉で始まるといっても、敷地の持つポテンシャルであるとかプランニングのプロセスについては、ほとんど言及されず、やはり話題の中心は建築をすることから生まれる「風景」についての興味であった。横の言葉を借りれば「[もの]は[かたち]を持つと同時に[場所]に置かれたときに『すがた』に変わる」という、極めてポエティックな嗜好であり、多くのモダニストたちに共通して見られる、ひそかな楽しみである。ただ、横のユニークさは「雲のような全体」から始まる設計のプロセスの中で、幾度となく風景化の操作がなされることで、やはり「雲」のような、かつ弱い統合力を持った結果が導かれることだろう。これは、〈ヒルサイドテラス〉での「セルフ・リファレンスしながら」の設計プロセスに、類い稀な息の長いプロジェクトであるがゆえ、顕著に見て取れるものである。

講演の最後には、土地と関係を持たないという意味で同様の機能を持つたつの例、〈浮かぶ劇場〉が、2頭の羊のいる草原の向こうの運河を曳かれてゆく写真と、アルド・ロッシの〈テアトロ・デル・モンテ〉がヴェネチアに浮かぶ写真を並べることで、「風景を変貌させる、オリエンタルな」ものと「南ヨーロッパの背景が影のように存在する」ものを対比させ、風景化の効果について示して見せた。ちなみにこの「浮かぶ劇場」の写真はどうやらお気に入りのようで、展覧会場の入口正面に大きな垂れ幕となって、雲のように吊るされた。

大学主催の講演会ということで、学生たちへの教育効果のほどは気になるところであった。講演を聴いた学生たちの反応は様々で、ノートの切れ端にサインを貰って喜ぶ者から、難解さにショックを受ける者、設計に夢を抱く者など、何処も同じようなものだと思えた。ともかく生の情報の少ない山形にあって、その人格と直接触れ合うことは貴重な経験となったに違いない。

(かがわ・ひろし/建築家、東北芸術工科大学環境デザイン学科助手)



展示風景

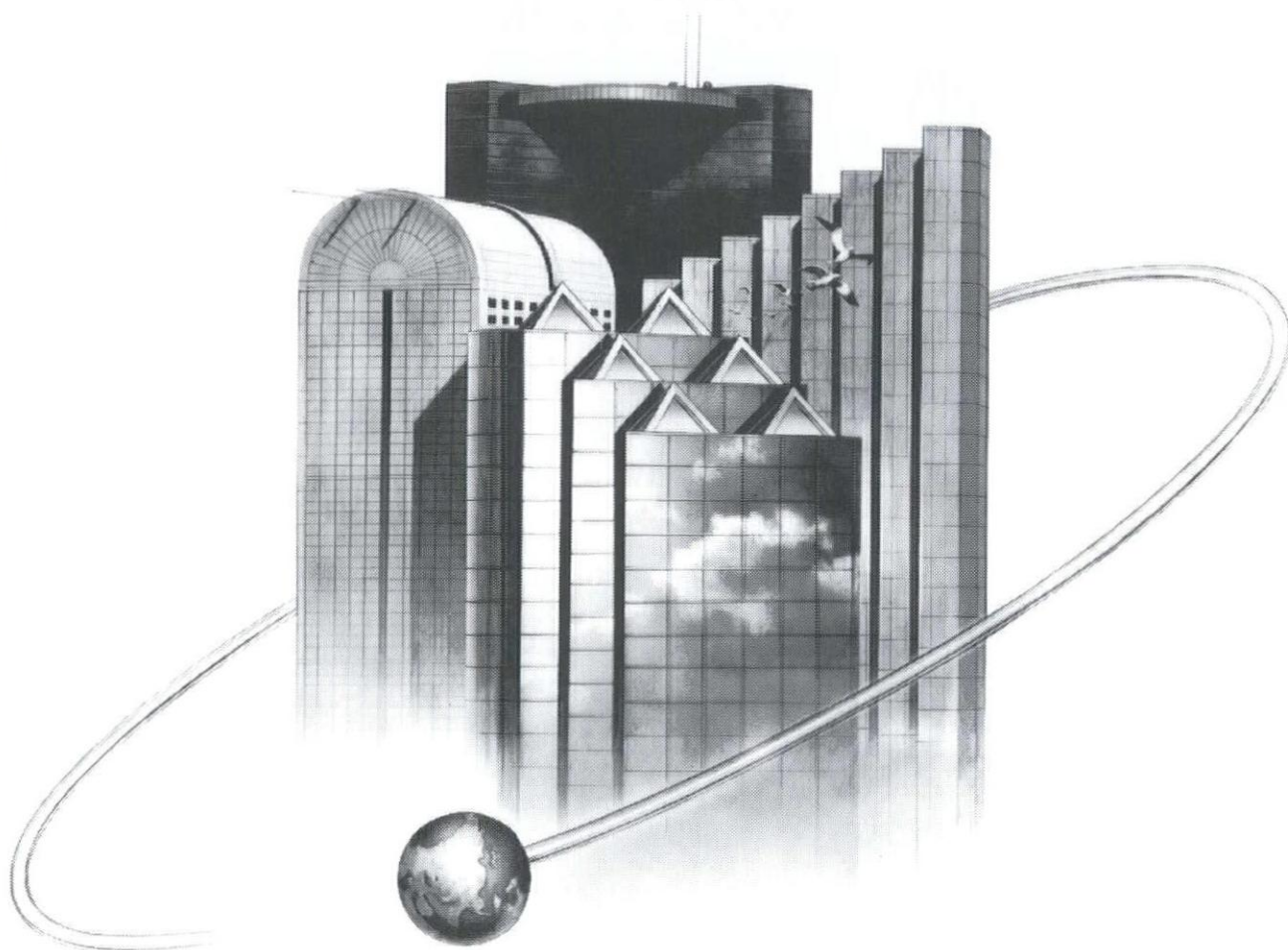
撮影=筆者



〈浮かぶ劇場〉

©横総合計画事務所/Berthold & Linkersdorff

快適創造



人と自然と機能が調和した理想の快適環境を。

人と自然、そして機能が調和した新しい快適環境を創造する。

それが三機工業のめざす総合エンジニアリングです。

都市、コミュニティ、産業施設…人を取りまくさまざまな環境について考え、

その理想を追いつづけている三機工業は、

いま、地球環境という視点にたって、すばらしい未来にむけての新しい環境のかたちを提案しています。



三機工業株式会社

〒100-8484 東京都千代田区有楽町1-4-1 TEL.03(3502)6111

Exhibition Report

展覧会レポート

銘傳大学 / Ming Chuan University

「End of Year Exhibition」

会期:

1999年6月5日(土)~11日(金)

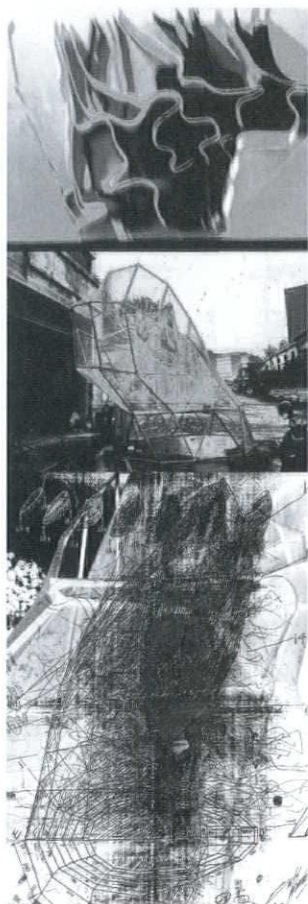
会場:

台北市華山特區規劃設計工作

京都から再度熱帯都市台湾へ

銘傳大学「End of Year Exhibition」

ジン・ヨハネス



上: 4年生のAsian Folding作品、中: 「モスキート・タワー」、製作=筆者および1年生(共同製作) 下: 「モスキート・タワー」ドローイング

今や台湾の建築学生作品は凄まじいばかりに突き上げてくる。京都精華大学ギャラリー・フロールにて今年4月に「台湾空間前衛美術創作事件'99 毒虫の多い熱帯都市台湾展」が終了したのも束の間、台北市にある銘傳大学(Ming Chuan University)で6月5日から11日まで開催された、4年生の卒業制作、そして1~3年生までの課題制作を展示する「End of Year Exhibition」に参加してきた。銘傳大学は、私のAAスクール時代からの台湾の友人(陸希傑、李建達)も教えている大学で、その他コロンビア大学やSCI-ARCを卒業した教師陣によって、海外帰国直後のホットな理論が炸裂中だ。

日本や欧米との台湾の大学における建築の相違点は、まず展示空間としての敷地の特異性にある。昨年はモーフシス設計の1997年に竣工した〈A.E.S. DESIGN CENTRE Visitors Centre 台湾、汐止〉にて開催され、今年は台北にある工場跡地の〈リニューアル・アート・スペース〉にて開催された。このふたつの新旧の格差は激しい。前者は日本にも実現されていないデコン以降の新たな空間の質感がすごく、後者は日本にはない植民地の歴史的様式の「残骸」である。敷地の選定理由は単純明快で、その年にオープンしたばかりで話題性があり、学生本人達もそこで開催したかったからである。それにしても1年ごとの敷地の消費のされ方もサイクルが早くて驚きだ。

台湾の学生の作品は、海外文化の吸収型ではなく発信型である。日本よりむしろ欧米を先取りする形となっており、「有機的都市に混在する法則」や「都市の皺のような建築」を扱うといったコロンビア大学やAAスクールの一部がやっているシミュレーション的アプローチのスタイルがここにも見られる。Folding(襞、折り畳み)だ。この点日本は現在完全に欠落している。結局、まだ欧米においても完成型がないために解りにくいのだが、だからといって「なぜ、そういったことに取り組むのか?」という問いを指導側が先攻し共有しなければ、次の理解も指導も、まして学生を海外に送り出すことも不可能だ。現代台湾の教育現場にはそれがある。逆に日本は未だに目的意識を鍛える価値観が全然培われていない。コロンビア大学に留学を決めてから知るのでは、ポートフォリオで落とされるのだ。Folding以外の台湾学生のタイプは、可変空間がオーガニック・フレームによってサ

イトの境界を変革し、アーキグラムを超えようとするものや、エニグマの音楽のように民族的土着性をサンプリング等を駆使して現代のコンテクストに再表現したものなどがある。エニグマ建築までくると現代の台湾は、完全に世界への発信型であるオリジナル作品だ。総じて有機的な建築空間を設計するとどれも面白い。

今回、私も1年生と協同で会場の入口に大胆なインスタレーション〈モスキート・タワー〉をつくった。これは単純な理由からだが、今年の植民地様式の倉庫跡地は広くて分かりにくいので、強烈な目印が欲しかった。そこへ外人である私を抜擢したようだ。この〈モスキート・タワー〉は、モスキート(蚊)で熱帯アジアのエキゾチズムを掻き立て、10年前には各家庭の食卓で使用した蚊帳だった「緑のメッシュ」で台湾人固有の古い都市記憶を呼び起こせ、というものである。それは現代日本の植民地支配をした側には失われた、古き良き空間が混在する現代都市、台北の歪みをさらに加速させる装置だ。またSKINの内部にいて外部の、外部にいて内部の蚊をよけるといったSKINの二重使用の反転が、蚊をきっかけにとってもシンプルに体験可能となり、意識がSKINを透過していく。つまり建築は、トランス・コンセプトを体感するために存在している。それが無い箱(=プログラム優先の手法)はもはや建築とは呼べないのだ。

最後にコロンビア大学出身のKayo君との会話で、「日本人建築家=アジアのトレンド」といったアメリカ人の誤解に答えていく必要がないのかという問題を指摘された。逆にアメリカ人建築家は、哲学者や科学者の思想言語に吸収されたくはない。だからハニ・ラシッドやグレッグ・リン等はフォールド(襞、折り畳み)やシンバイオシス(共生)という言葉は今まで使わなかったが、実はSFホラー映画に近いパラダイムシフトの議論を喋り過ぎるといった新鮮な情報を話してくれた。さあ、欧米のFoldingがようやく出現した今、認識困難なまでの「有機的都市に混在する法則」は、時には情報によってどのようなボーダーを超え、今後ミステリアスでダイナミックかつエレガントでチャミングに実現していくのか?そして我々アジアのポスト植民地としての「千のFold」の行方とは?

(Gin Johannes / 建築家)

MITSUBISHI
三菱電機

エネルギー効率に優れた
PMギヤレス巻上機を採用。

薄形制御盤を昇降路内に収納。
全階で多様な乗場意匠を実現。

昇降路だけの エレベーター 三菱〈エレパック〉誕生。

機械室にあったすべての機器を昇降路内にすっきり収納しました。もちろん制

新登場

エレパック

ELEPAQ

三菱エレベーター／機械室レスタイプ

御盤も昇降路内に設置。エレベーター乗場の出入口わきなどに置く必要はありません。昇降路だけのエレベーターですから、設計の自由度がアップ、すべての階で多様な乗場デザインを可能にします。

建物の設計自由度がアップ

ベントハウスがないので、日影規制への対応が容易。機械室と居室の位置関係で悩むこともなく、建物内外の設計がいっそう自由になります。

ビル有効面積の増加

機械室がないうえに、昇降路面積も従来のロープ式並みの省スペース。居室などに利用できるスペースが大きくなり、レントラブル比も向上します。

なめらかな乗り心地と省エネルギー設計

加速・減速がなめらかで騒音も少なく、エネルギー効率に優れたPMギヤレス巻上機を採用。高級エレベーター並みの、静かでスムーズな運転を実現しました。また、油圧式エレベーターに比べて電力消費量はおよそ1/3になります。

環境に配慮

油圧式エレベーターでは避けることのできなかった廃油処理の必要もありません。「環境にやさしいエレベーター」、これも〈エレパック〉の優れた特長です。

Efficient, Reliable & Comfortable
Vertical Transportation Systems
All Over The World

効率がよく (Efficient)

信頼性に優れ (Reliable)

快適な移動空間の創造 (Comfortable)

エレベーターの3つのキーワードを基に
そのすべてにおいて、世界トップクラスの製品を
全世界に向けて提供します。

三菱電機株式会社

お問合せ・資料のご請求は……三菱電機株式会社 〒107-6150 東京都港区赤坂5-2-20 (赤坂パークビルディング)

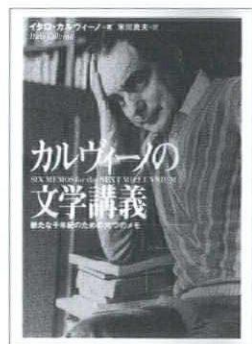
本社ビル事業部 TEL.(03)5573-3793

Book Review

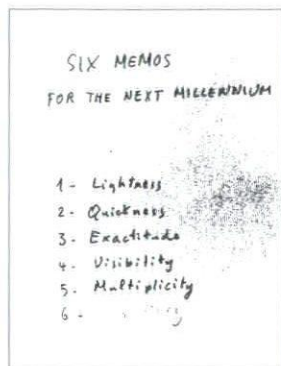
書評

世紀末、人間の根源への探究

評者 河合俊和



「カルヴィーノの文学講義
——新たな千年紀のための六つのメモ」
イタロ・カルヴィーノ＝著
米川良夫＝訳
B6判 224頁
朝日新聞社 1900円



カルヴィーノの直筆メモ（カルザンティ版テキストより）

イタリア現代文学の鬼才、イタロ・カルヴィーノによる1985～86年、ハーバード大学において行われた講義の内容をまとめたものの邦訳本である。訳本の原本となったのは、カルザンティ社刊の初版本によるものと記されている。イタリア語タイトルは、"Lezioni americane—Sei proposte per il prossimo millennio" (1988) 直訳すれば、「アメリカ講義——次の千年紀のための6つの提案」である。本書では「カルヴィーノの文学講義」とし、副題として「新たな千年紀のための六つのメモ」と記されている。イタロ・カルヴィーノは新たな千年紀、すなわち西暦2001年から3000年に伝えられるべき、文学的価値を明確化し、それを6つの言葉に掲げ、その一つひとつを一講義としている。すなわち「軽さ」「速さ」「正確さ」「視覚性」「多様性」、そして「一貫性」の6つの言葉である。最後の「一貫性」に関しては、残念ながらその原稿はなく、カルヴィーノは、講義草稿中に急逝した。

内容の中で一例をとると、「軽さ」の講義の中では、理想とする軽さの手本となる作品はどのようなものか、また、その価値を現在にどのように位置づけ、未来にどのように投影させるべきかを過去の文学の傑作を例にとり、あるいはそれを比喩的に用いながら、論を展開させている。注目すべき概念として、生きることの「実存」の機能としての文学、そして相反概念としての重さについて、「生への重さへの反動としての軽さの探究」と記し、人間の根元への探究を試みる。

相反概念はカルヴィーノの他の作品にもみられる重要な概念である。本書の他の講義の中で「速さ」と「遅さ」、そして「速さ」の中における精神的速度と物理的速度の関係等にもみられる。また、ローマ共和制時代の哲学詩人ルクレティウス・カールスの『事物の本性について』の一節を引用し、「軽さ」の概念の原点ともなったものを示しているのは、興味深いところである。

カルヴィーノは、本書の中でも言及するとおり、文学を認識のための探究と位置づけている。実存する領域を考察していく上で、その世界は、既成の文学の領域にとどまらず、人類学、民族学等へと拡大していく。

認識の源は、人間という存在の根源に向けられ、そして人間が持つ基本的な能力の未来に向けて救済せられるべき価値へと言及される。

世紀末の今日、過去から人間が抱えてきた価値が、歴史の流れと共に等価になり、あるいは本来持つ意味が変化していく中で、隠れてしまう本当に重要な価値を自ら認識する必要がある。新世紀に何かがあるという期待感からではなく、「現在」を認識するための考察が必要とされるのではないだろうか。その意において、6つの言葉は大きなメッセージを有する。

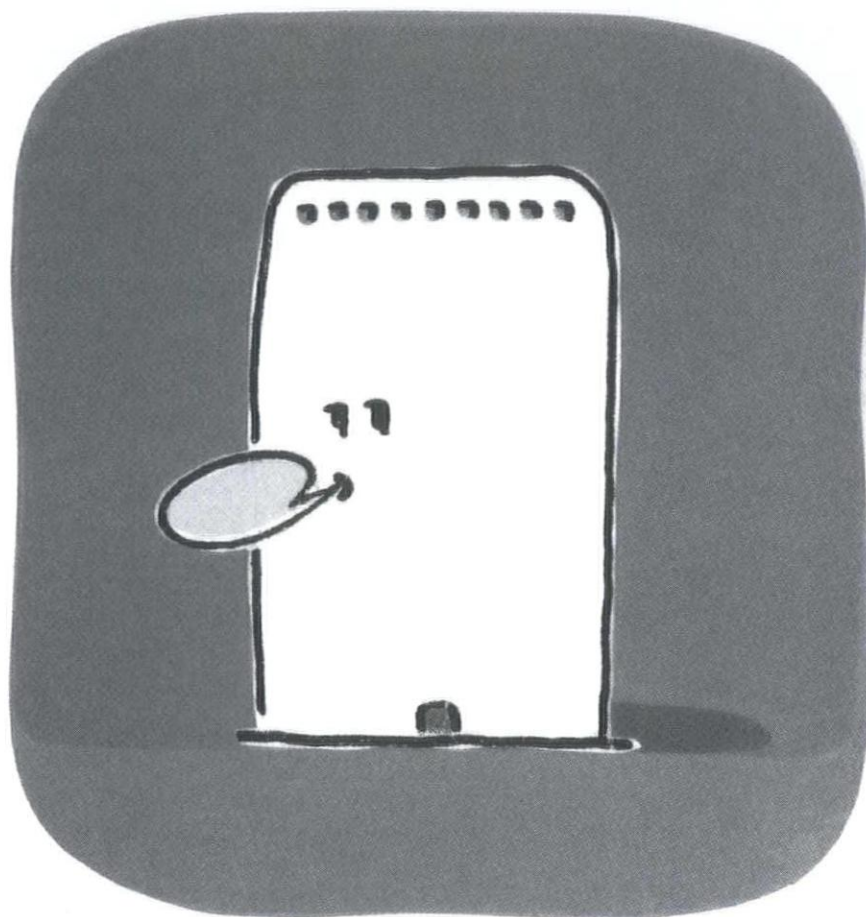
前記したとおり、第6番目の言葉「一貫性」については、その草稿は存在していない。その内容の具体的なものは知ることは不可能なことかも知れないが、全体の中からイメージすることは読者各個人のそれぞれのの中で、創造可能となろう。

新しい千年紀に向けての個人が、すなわち各個人が人間として認識すべきその探求心、その創造性は各個人にとって大きな価値となり未来を予感させるものとなるだろう。

私のイタロ・カルヴィーノの作品の最初の出会いは『見えない都市』（米川良夫訳）からであった。文学音痴の私が文学を論ずるのはおこごましいことであるが、この1冊は私に強烈なイメージを残した。一つひとつの言葉と文の構造の絶妙な配置により、大きな宇宙観を感じた。空間の奥に存在する奥を、あるいはまたその奥を、言語でもって表現されているのである。時間や空間を自由に動かしてしまう表現は、文学のみに許された遊びであり、人間のみが感じとれる不思議さかも知れない。作品の中で表現される空間の大きさと思考の多次元性に、驚きを感じたことを今でも明瞭に記憶している。

（かわい・としかず／建築家）

人間すう、はく。ビルすう、はく。



私たちの呼吸は
自然の呼吸に
支えられています。

私たち人間が意識しないで呼吸しているように、人を取りまく環境も、知らないうちに呼吸しています。海も陸地も、動物も植物も。この地球全体が、ひとつの完成された空調システムとなり酸素をつくり、酸素を消費しています。

東熱のめざすひとつの頂点が、この自然の摂理を解明し、システム化することです。温度、湿度のコントロールによる環境を超えて、フィジカルな面から、メンタルな面の可能性のヒントが自然の中に隠されています。

ビルも呼吸しています。中にいる私たちのために。さまざまな分野のさまざまな建物が呼吸しています。だから東熱はいつも考えています。次に求められる環境とは何だろう。より私たちに優しく、より私たちに身近な環境の実現のために。山の朝のさわやかな空気や、冬の夜の透명한空気を東熱は忘れません。

宇宙センターからスポーツドームまで、東熱のマインドはあなたのまわりに息づいています。

時代、呼吸、マインド
東洋熱工業

〒104-8324 東京都中央区京橋2-5-12 Tel.03(3562)1351(大代表)

Books

新刊紹介

『ルドルフ・シンドラー

——カリフォルニアのモダンリビング』

デヴィッド・ゲバード＝著

末包伸吾＝訳

B5変型 184頁

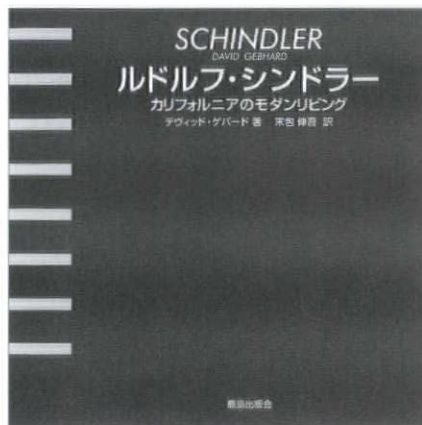
鹿島出版会 3700円

空中に浮かぶ白い箱、大きな開口部、モダンリビング。〈ロヴェル・ビーチハウス〉は、建築家ルドルフ・シンドラー（1887～1953）の代表作であるばかりでなく、20世紀モダニズム屈指の名作でもある。竣工は1926年だから、ル・コルビュジエやW.グロピウス、L.ミース・ファン・デル・ローエといった巨匠たちの名作に先んじることはあっても、遅れをとることは決してない。

にもかかわらず、本書序文に隈研吾が寄せているように、シンドラーは「負け犬」であった。ローカルな、マイナーな存在のまま世を去った。「名作」が定評となったのは、そう古くはないようで、口火を切ったのがD.ゲバードによる1971年初版の原著だという。80年代には本誌でも関連の特集が組まれた（SD8405号）。近年、再評価の気運は一層高まり、2001年にはロサンゼルス現代美術館での展覧会が予定されている。

本書は、待望の邦訳版と呼ぶにふさわしいシンドラー評伝である。世紀末ウィーンに生まれ、O.ヴァーグナーとA.ロースに感化されながら学び、渡米後はF.L.ライトに師事し、やがてカリフォルニア・モダニズムを先導した。その理念と作風が構築されていく過程が、様々な側面から切開される。上記の先達、デ・スタイル、素材、施主との関係などが、図面や言説を駆使して立証され、建築家シンドラー像が浮かび上がる。また、巻末データの充実、訳者の学位論文の基を成す研究の一端であることの面目を躍如としている。

「勝ち」をさらったのは、同郷の弟分リチャード・ノイトラであった。「負け組」をも視野に入れたとき、モダニズムへの理解は深まっていく。



『近代建築のコンテクスト

——いま、モダニズムへの回帰のとき』

北村隆夫＝著

A5判 544頁

彰国社 6800円

竹中工務店元重役の建築家による大著。モダニズムの文脈を、ギリシャ建築から起こし、近代絵画史をも引き寄せて説く。デザイナーの感性と知性が融合した博覧強記の慧眼は、歴史家も舌を巻く。



『南イタリアへ！——地中海都市と文化の旅』

陣内秀信＝著

A6変型 224頁

講談社 840円

南イタリア14都市のガイド。20年以上にわたり地中海周辺諸国のフィールドワークを行ってきた筆者の最新レポートでもある。軽妙な語り口と豊富なカラー写真が街路空間の劇場へと誘う。ナポリ、レッツェ、チステルニーノ、パレルモなど。



『ブラハ 建築の森』

田中充子＝著

B6判 240頁

学芸出版社 2300円

東欧観光の定番となっている古都ブラハ。建築博物館と呼ばれ、ロマネスクからモダニズムまであらゆる様式が共存するが、独特の造形感覚をもつ。建築史家である筆者が、文化論として人間模様を描くことで、ボヘミアの個性を見事に解き明かす。



『建築MAP大阪／神戸』

ギャラリー・間＝編

B5変型 440頁

TOTO出版 1714円

東京、京都、北九州に続く建築MAPシリーズの第4弾。パワー漲る大阪、センス溢れる神戸の建築538点へのアクセスを、78点のマップが確実にする。歴史、言説、建築家といったコラムも充実しており、ページをめくるたびに街へ出たくなる。



『バサージュ／遊歩の商業空間』

新井洋一＝編・著

A4変型 192頁

商店建築社 4667円

パリ、ロンドン、ブリュッセルなど7カ国、10都市の主要バサージュ32点を収録。18世紀末からヨーロッパに生きる空間の魅力を史的背景も含めてヴィジュアルに語る。建築、商業の専門家はもちろん、旅行ガイドとしても楽しめる。英文併記。



『箱の本』

E.デニソン＋R.コースレイ＝著

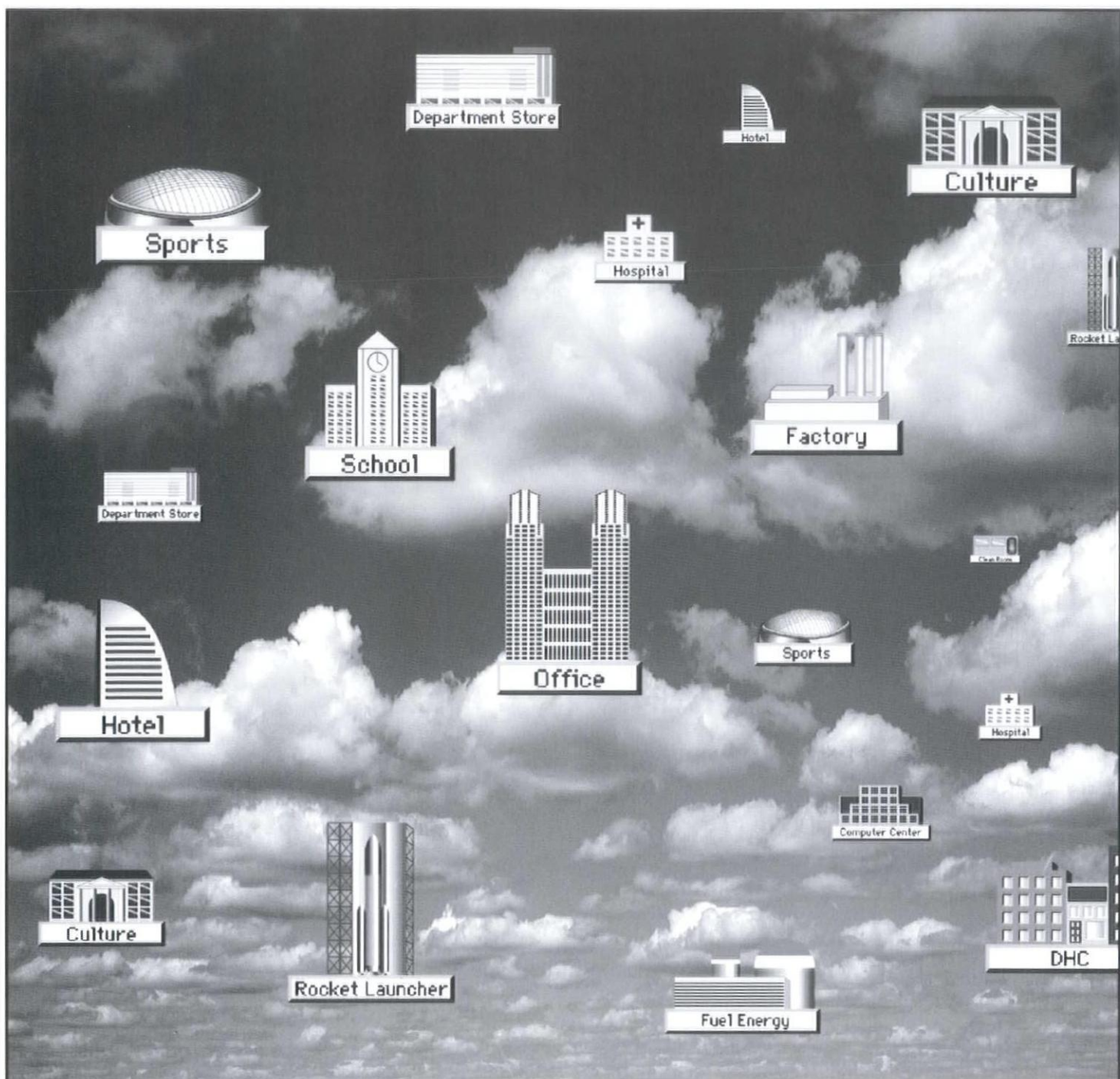
森屋利夫＝訳

A4変型 160頁

A&P コーディネータージャパン 9800円

世界7カ国同時発売の「Packaging Prototypes」。第1部のパッケージ概論も興味深いのが、やはり第2部が秀逸。77点の楽しい「箱」の解説には展開図が添えられ、実際に工作できる。CD-ROM付。





空気のメニュー。

オフィス、工場、学校、病院…。それぞれの建物には、もっとも適した空調システムがあります。

新菱冷熱は「さわやかな世界を創る」という思想のもとに、

用途に合わせたオーダーメイドの空調システムを、設計・施工しています。

バリエーション豊かな私たちの空気のメニューから、21世紀の新しい都市環境が始まります。

◆ 新菱冷熱
SHINRYO CORPORATION

Information

お知らせ

Bゼミ Schooling System 夏期講座 参加者募集

30年にわたり現代美術の学習システムとして活動を続けているBゼミの夏期講座。今年は、「言葉、以前と以後——ことばが成り立つのはいつ？崩壊するのは？」というテーマで、昼間はワークショップ、夜間是对談とレクチュアといった形式で6日間講習を行なう。

講師：塚本由晴・貝島桃代、眞島竜男、八谷和彦、伊藤誠、赤間啓之、岡崎乾二郎、藤原えりみ、山梨絵美子、藤井貞和、佐々木正人、藤枝守、李静和、アズビー・ブラウン、多木浩二

期間：1999年8月23日(月)～8月28日(土)

定員：40名

問い合わせ：Bゼミ Schooling System

神奈川県横浜市南区南太田4-12-16

Tel: 045-712-0899

Fax: 045-731-3178 (小林晴夫)

1999年度(第6期) 桑沢デザイン塾 参加者募集

日程：1999年9月11日(土)、9月25日(土)、10月2日(土)、10月23日(土) 全4回

時間：18:30～20:30

会場：桑沢デザイン研究所

東京都渋谷区神南1-4-17

テーマ：「インテリアデザインと茶室」、「グラフィックデザイン」、「ユニバーサルデザインと地球環境」、「風土と建築」

講師：内田繁、浅葉克己、中野美代子、梶本久夫、田中直人、エドワード・スタインフェルド、山田脩二、富山れい子、丸山欣也、他

受講料(4回通し)：各講座共 一般 20,000円、学生 12,000円

定員：50名(先着順)

申込・問い合わせ：桑沢デザイン研究所同窓会事務局(担当：石澤美由紀)

東京都渋谷区神南1-4-17

Tel: 03-3462-4029 Fax: 03-3462-4090

ギンザ・グラフィック・ギャラリー 企画展 矢萩喜徳展

会期：1999年8月5日(木)～8月28日(土)

時間：11:00～19:00(土曜日=18:00まで/休館日=日曜、祝日) 8月20日(金)にギャラリートーク有り(詳細は下記に問い合わせのこと)

会場：ギンザ・グラフィック・ギャラリー

入場料：無料

問い合わせ：ギンザ・グラフィック・ギャラリー

Tel: 03-3571-5206 Fax: 03-3289-1389

21世紀のソファ・デザインコンペ 作品募集

「21世紀のインテリアを予感させるソファ」をテーマに、インテリア雑誌「ビー・シュア」の創刊10周年記念企画の一環として実施されるもので、単なるコンペではなく商品化を念頭に行っている。

応募資格：なし

応募内容：自由な発想で「21世紀のインテリアを予感させるソファ」を描いたイラストを提出。但し、製品化が著しく困難と思われるものは審査の対象とならない。用紙サイズはA4程度。画材は自由。応募イラストの裏面には、氏名・年齢・職業・住所・電話番号を明記し、また作品に関する200字程度のコメントを添付のこと。応募点数に制限はなし。

応募締切：1999年9月14日(火) 必着

提出先：

〒104-0033 東京都中央区新川1-4-9 トーソー出版「21世紀のソファ・デザインコンペ」係

審査：予備審査にて製品化が困難かどうかについてチェックした上で30～50点程度に絞り込み、本審査にて5名の審査員がそれぞれ1点、合計5点の優秀賞を選ぶ。

審査員：アッキレ・カスティリオーニ、セルジオ・アスティ、宮本茂紀、ヴィコ・マジストレッティ、他1名

賞：各優秀賞には賞状と応募作品をもとに試作したソファを贈呈。また、特に優秀と認められたものは、応募者、試作品製作会社と協議の上、試作品をもとに商品化を検討する。

発表：「ビー・シュア」誌43号(12月6日発売)誌上にて発表

問い合わせ：『ビー・シュア』編集部(担当：柴谷、浦田、岩瀬)

東京都渋谷区神宮前4-7-1-202 株式会社デュウ内

Tel: 03-3408-7419 Fax: 03-3408-0164

スペイン・ポルトガル 建築探検ツアー 参加者募集

日程：1999年10月2日(土)～10月11日(月)

訪問先：ビルバオ・グッゲンハイム美術館、ガリシアン現代美術センター、他。

訪問地：ビルバオ、コルニャ、サンティアゴ・デ・コンポステラ、ポルト、リスボン、他

費用：398,000円

同行講師：淵上正幸(建築ジャーナリスト)

旅行主催：近畿日本ツーリスト(株)

東京千代田支店

Tel: 03-3263-5522 Fax: 03-3263-5961

(担当：江藤・伊藤・白井)

あかりメッセージ1999展

光はその空間のシチュエーションを決める大きなファクターであり、同じ空間でも光を変えることでそのイメージはかなり変化する。本展示会では、「SCENE 一つの箱に二つのイメージ」をテーマに、ライティングに携わる50人のクリエイターが、限られた空間(箱)の中に仕込んだ光のシーンを通して、「あかり」の楽しさや魅力を紹介する。

会期：1999年8月25日(水)～8月31日(火)

時間：10:00～19:00

会場：AXISギャラリー

東京都港区六本木5-17-1 AXISビル 4階

Tel: 03-3587-2781 Fax: 03-3586-5246

主催：JIDA / (社)日本インダストリアルデザイン協会東日本ブロック

問い合わせ：(有)ライトシーン内JIDA東日本ブロックあかりメッセージ事務局(担当：石田聖次)

東京都港区浜松町1-8-4 高島ビル

Tel: 03-5472-3777 Fax: 03-5472-3778

公開講座

上海の都市と建築 コスモポリタン・シティの150年

講師：村松伸(東京大学生産技術研究所助手)

期間：1999年9月4日(土)～10月30日(土)

全5回 第1、3、5土曜日 10:30～12:30

受講料：14,000円(消費税別)

場所：新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター(申込は4階受付にて)

問い合わせ：朝日カルチャーセンター教養講座科
東京都新宿区西新宿2-6-1

Tel: 03-3344-1945 Fax: 03-3344-4882

第14回 建築新技術展 A/E/C SYSTEMS JAPAN '99 開催

建築、建設業界におけるコンピュータの有効利用をテーマにした国内最大の展示。

会期：1999年9月1日(水)～9月3日(金)

時間：10:00～17:00

会場：東京 池袋サンシャインシティ文化会館

入場料：一般 1,000円、学生 500円

問い合わせ：A/E/C SYSTEMS JAPAN組織委員会事務局(担当：坂内、仲條)

東京都千代田区四番町8-13

Tel: 03-3222-5041 Fax: 03-3222-5033

E-mail: aec@delphi.co.jp

お詫びと訂正

SD9907号p.154で紹介した新刊書「待てばしはしない——東畑謙三の軌跡」の発行元は、日刊建設工業新聞社ではなく日刊建設通信新聞社でした。訂正して、お詫び申し上げます。

9909

特集1

ベルリン・トポグラフィ

今世紀最後の首都移転が展開されているベルリンの、ハイポテンシャルな状況をドキュメントする。

- 1「再生する文化とメディアのアクセル」ポツダム広場
 - 2「建築スタイルを継承する／しないファサード」パリ広場・フリードリヒ通り
 - 3「場末が生み出すアクティブ・スポット」オラニエンブルガー通り
 - 4「都市の主張を映す広場」アレキサンダー広場
 - 5「首都をコントロールする都市軸」シュプレーボーゲン・ティアガルデン
 - 6「ベルリン市場をコントロールするまちなみ」ZOO駅・クーダム
 - 7「エッジからセンターへの逆転」クロイツベルク北部
- [ベルリン・ハイポテンシャル・プロット・マップ]
[論文] 杉本俊多、山下昌彦、飯島洋一
[インタビュー] ヴィジョン・オブ・ベルリン（インタビュアー：花田和幸）
クリスティン・ファイライス／ヴィム・ヴェンダース／ダニエル・リベスキンド

特集2

長野市今井ニュータウン

気鋭の建築家7グループが競演した今井ニュータウン。多様な個性で形成されたその成果を、撮り下ろし写真と建築データを中心に紹介し、集住建築とまちづくり、建築家のコラボレーションの可能性を探る。
設計＝新居千秋、長谷川逸子、内藤廣、富永譲、松永安光、元倉眞琴、遠藤剛生、他
文＝渡辺定夫、植田実 撮影＝堀内広治

連載：

エントロピーの森——都市のインフラストラクチャ9 写真＝ハイナー・シリング 文＝山形浩生
カルチャー・カフェ——今月の舞踏・演劇 文＝尼ヶ崎淋、清水裕之

ベルリン・ポツダム広場、1997年
copy right: Landesbildstelle Berlin



9906

特集

小川晋一

Transbody / Super traffic

本特集では、地方都市・広島を拠点に活動続ける小川晋一の13年間の仕事を、実作だけでなくプロジェクト案や展覧会への出品作品も紹介する。そこには、スチール、ガラス、コンクリートを主体とした端正で洗練された空間が感じとれる。

●作品＝キュビストの家、ミニマリストの家、イソベスタジオ&レジデンス、キッドミュージアム／玖珂町こどもの館、リストアーステーション、ハツタ山口、グラスハウス、ホワイトキューブ、エアーチェアー、アラベスク、徳山歯科医師会館、ながやレディースクリニック、A町総合センター、ザ・キューブ／グラスゴブプロジェクト、モダンアブストラクトの家、横浜港国際客船ターミナル国際建築設計競技案、スコットランド建築デザインセンター国際公開コンペ案、他。

●文＝鶴沢隆、岡河貢、アラン・ジョンストン、小川晋一

連載：

海外レポート：アルメール

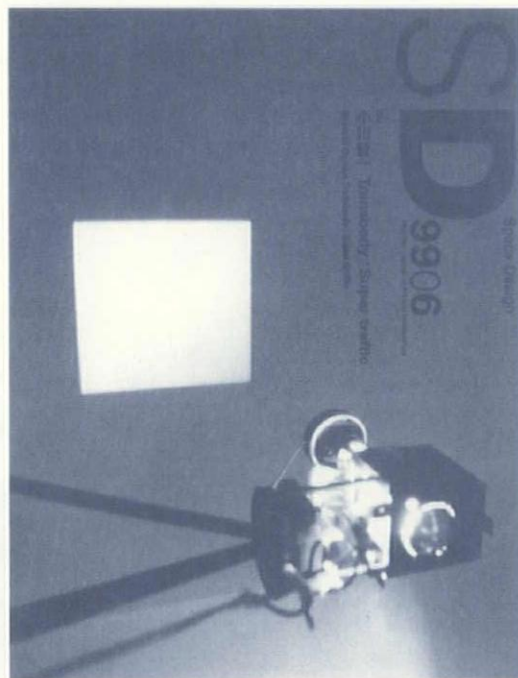
エントロピーの森——都市のインフラストラクチャー6

写真＝ハイナー・シリグ 文＝山形浩生

カルチャー・カフェ——今月の映画・舞踊評

文＝鶴沢隆、尼ヶ崎彬

定価＝2000円／本体1905円



9907

特集

学校建築

個性を育む環境創出へ向けて

コミュニティセンターや生涯学習センターの機能をも求められるようになっている今、学校建築が変わりつつある。

本特集では、学校設計の手引きとして、今後の学校建築に必要な事項を解説し、実例を現地リポートを交えて紹介する。

●21世紀の学校のための17章

●デザイン・マニュアル

●作品＝東京都立晴海総合高校／アルセッド建築研究所、宮城県岩出山町立岩出山中学校／山本理顕設計工場、福島県三春町立桜中学校／香山アトリエ十環境造形研究所、新宿区立落合中学校／船越徹十アルコム、岡山県吉備高原小学校／小泉雅生十小嶋一浩／C+A、茨城県つくば市立東小学校／現代計画研究所、他。

●文＝上野淳、倉斗綾子、力安拓

●座談会＝佐藤学十瑠昭代十船越徹十小嶋一浩十上野淳

連載：

海外レポート：アルメール

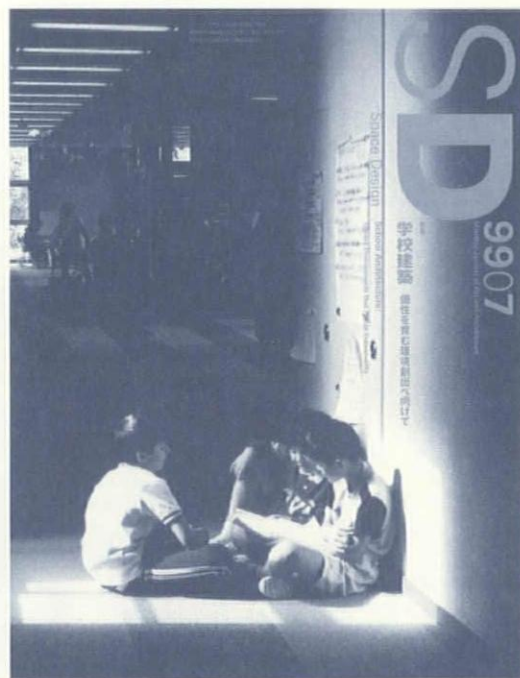
エントロピーの森——都市のインフラストラクチャー7

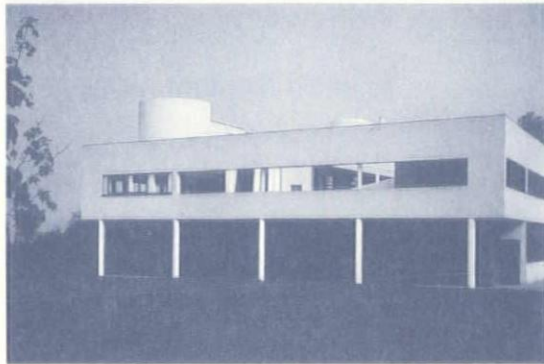
写真＝ハイナー・シリグ 文＝山形浩生

カルチャー・カフェ——今月の舞踊・演劇評

文＝多木浩二、原研哉

定価＝2500円／本体2381円





時間のなかの建築

ON WEATHERING-The Life of Building in Time

モーセン・ムスタファヴィ、デイヴィッド・レザボロー 共著

序文=横文彦 黒石いずみ訳

B5変判・144頁 本体2,800円+税

ISBN4-306-04391-6

ウェザリングをキーワードに「建築」を問い直す

建築は竣工した時を「完成した」「理想的な」姿だと思われがちだが、実はその後の時間的経過と環境的作用によって変貌してゆく過程——ウェザリング(風化)を経てますます豊かになるものこそが、真の建築のあり方だと論ずるユニークなエッセイ。

●関連図書

モダニズムの巨匠たちは、建築と時間の関係をどのように捉えていたのだろうか。



ル・コルビュジエと日本

高階秀爾・鈴木博之・三宅理一・太田泰人 編
A5・256頁 本体2,800円+税

ル・コルビュジエの建築

—その形態分析—

G.H. ベイカー 著 小野節子 訳
B5・300頁 本体6,500円+税

ル・コルビュジエ

理念と形態

W.J.R. カーティス 著 中村研一 訳
B5・330頁 本体8,200円+税

ル・コルビュジエのペサック集合住宅

P. ブードン 著 山口知之、杉本安弘 共訳
A5・228頁 本体2,800円+税

《SD選書144》

ル・コルビュジエ

C. ジェンクス 著 佐々木宏 訳
四六・244頁 本体1,800円+税



巨匠 フランク・ロイド・ライト

D. ラーキン、B. ファイファー 編 大木順子 訳
B5変形・240頁 本体3,200円+税

フランク・ロイド・ライトと日本文化

ケヴィン・ニュート 著 大木順子 訳
A5・256頁 本体3,800円+税

知られざるフランク・ロイド・ライト

E. ターフェル 著 谷川正己、谷川睦子 共訳
B5・240頁 本体5,700円+税

《SD選書7》

フランク・ロイド・ライト

谷川正己 著
四六・230頁 本体1,800円+税

《SD選書123》

ライトと日本

谷川正己 著
四六・220頁 本体1,800円+税



白い机①:若い時

アルヴァ・アアルトの青年時代と芸術思想
G. シルツ 著 田中雅美、田中智子 共訳
A4変・296頁 本体9,500円+税

白い机②:モダン・タイムス

アルヴァ・アアルトと機能主義の出会い

G. シルツ 著 田中雅美、田中智子 共訳
A4変・288頁 本体14,300円+税

白い机③:円熟期

アルヴァ・アアルトの栄光と憂うつ

G. シルツ 著 田中雅美、田中智子 共訳
A4変形・336頁 本体19,000円+税

《SD選書34》

アルヴァ・アアルト

武藤章 著
四六・248頁 本体1,800円+税



ルイス・カーン 光と空間

ウルス・ビュッティカー 著 富岡義人、熊谷逸子 共訳
B5・192頁 本体4,200円+税

ルイス・カーン研究

建築へのオデュッセイア

前田忠直 著
A5・224頁 本体3,400円+税

《SDライブラリー14》

ルイス・カーン建築論集

L. カーン 著 前田忠直 編訳
A5・258頁 本体3,600円+税



評伝ミース・ファン・デル・ローエ

F. シュルツ 著 澤村明 訳
B5・384頁 本体8,900円+税

《SDライブラリー13》

ミース再考 その今日的意味

K. フランプトン 他著 澤村明、EAT 訳
A5・224頁 本体3,300円+税

《SD選書204》

ミース・ファン・デル・ローエ

D. スペース 著 平野哲行 訳
四六・280頁 本体1,800円+税

*ご注文は最寄りの書店へ。お急ぎの方は宅配便(着払い)をご利用できます。

鹿島出版会

〒107-8345
東京都港区赤坂6-5-13

TEL. (03) 5561-2551
FAX. (03) 5561-2561

http://www.kajima-publishing.co.jp
E-mail: info@kajima-publishing.co.jp

SD選書出版案内

〈各巻四六判・函入〉

建築思潮(建築家の建築論)

ユルバニスム

ル・コルビュジェ著 樋口 清訳 本体1,800円

私と日本建築

A.レーモンド著 三沢 浩訳 本体2,000円

建築をめざして

ル・コルビュジェ著 吉阪隆正訳 本体1,800円

輝く都市

ル・コルビュジェ著 坂倉準三訳 本体1,800円

住宅論

篠原一男著 本体1,800円

続住宅論

篠原一男著 本体1,800円

建築とは何か

B.タウト著 篠田英雄訳 本体1,800円

続建築とは何か

B.タウト著 篠田英雄訳 本体980円

モデュロールI

ル・コルビュジェ著 吉阪隆正訳 本体1,800円

モデュロールII

ル・コルビュジェ著 吉阪隆正訳 本体1,800円

人間の家

ル・コルビュジェ他著 西沢信弥訳 本体1,800円

街路の意味

竹山 実著 本体1,500円

オレゴン大学の実験

C.アレグザンダー著 宮本雅明訳 本体1,800円

三つの人間機構

ル・コルビュジェ著 山口知之訳 本体980円

四つの交通路

ル・コルビュジェ著 井田安弘訳 本体980円

ラスベガスー忘れられたシンボリズム

R.ヴェンチュリ他 石井和雄・伊藤公文訳 本体1,800円

東方への旅

ル・コルビュジェ著 石井 勉他訳 本体980円

住宅と宮殿

ル・コルビュジェ著 井田安弘訳 本体1,200円

エスプリ・ヌーヴォー (近代建築名鑑)

ル・コルビュジェ著 山口知之訳 本体1,200円

建築について(上)

F.L.ライト著 谷川睦子・谷川正己訳 本体1,800円

建築について(下)

F.L.ライト著 谷川睦子・谷川正己訳 本体1,200円

建築家の発想ー私の師匠たち

石井和雄著 本体1,800円

建築の多様性と対立性

R.ヴェンチュリ著 伊藤公文訳 本体1,800円

プレシジョン(上)

ル・コルビュジェ著 井田安弘・芝優子訳 本体1,500円

プレシジョン(下)

ル・コルビュジェ著 井田安弘・芝優子訳 本体1,500円

アルド・ロッシ自伝

A.ロッシ著 三宅理一訳 本体1,800円

ミース・ファン・デル・ローエ

D.スペース著 平野哲行訳 本体1,800円

表現主義の建築(上)

W.ペートン著 長谷川章訳 本体1,500円

表現主義の建築(下)

W.ペートン著 長谷川章訳 本体1,500円

カルロ・スカルパ

A.F.マルチアノ著 浜口オサミ訳 本体1,800円

住宅

コミュニティとプライバシー

S.シャマイエフ他著 岡田新一訳 本体1,800円

現代のコートハウス

D.マッキントッシュ著 北原理雄訳 本体980円

建築VS.ハウジング

M.ボウリー著 山下和正訳 本体980円

「いえ」と「まち」ー住居集合の論理

鈴木成文他著 本体1,800円

建築環境論

岩村和夫著 本体1,800円

都市・住宅論

東 孝光 本体1,800円

評論(現代建築)

近代建築

V.スカーリー著 長尾重武訳 本体1,500円

アメリカの建築とアーバニズム(上)

V.スカーリー著 香山寿夫訳 本体980円

アメリカの建築とアーバニズム(下)

V.スカーリー著 香山寿夫訳 本体980円

建築の現在

長谷川堯著 本体980円

アメリカ住宅論

V.スカーリーJr.著 長尾重武訳 本体980円

インターナショナル・スタイル

H.R.ヒチコック他著 武沢秀一訳 本体1,800円

ル・コルビュジェ

C.ジェンクス著 佐々木宏訳 本体1,800円

近代建築の失敗

P.ブレイク著 星野郁美訳 本体1,800円

イタリアの現代建築

V.グレゴッティ著 松井宏方訳 本体1,200円

建築論

実存・空間・建築

C.ノルベルグ=シュルツ著 加藤邦男訳 本体1,800円

空間としての建築(上)

B.ゼーヴィー著 栗田 勇訳 本体1,800円

空間としての建築(下)

B.ゼーヴィー著 栗田 勇訳 本体1,800円

建築空間 (尺度について)

P.ブドン著 中村貴志訳 本体980円

思想としての建築

栗田 勇著 本体980円

モラリティと建築

D.ワトキン著 榎本弘之訳 本体1,200円

古典建築の失われた意味

G.ハーシー著 白井秀和訳 本体1,800円

芸術としての建築

S.アバークロンビー著 白井秀和訳 本体1,800円

SD選書出版案内

〈各巻四六判・函入〉

デザイン

現代デザイン入門

勝見 勝著 本体1,800円

日本デザイン論

伊藤ていじ著 本体1,800円

道具考

栄久庵憲司著 本体1,500円

環境とデザイン

G. エクボ著 久保 貞訳 本体2,000円

日本美の意匠

水尾比呂志著 本体1,500円

建築鑑賞入門

W.W. コーディル他著 六鹿正治訳 本体1,800円

バウハウス —その建築造形理念

杉本俊多著 本体1,800円

水空間の演出

鈴木信宏著 本体1,800円

木のこころ —木匠回想記

G. ナカシマ著 神代雄一郎他訳 本体1,800円

水のデザイン

D. ベーミングハウス著 鈴木信宏訳 本体1,800円

環境照明のデザイン

石井幹子著 本体1,800円

屋外彫刻

M.A. ロビネット著 千葉成夫訳 本体1,800円

トーネット曲木家具

K. マンク著 宿輪吉之典訳 本体1,500円

インテリアデザインとは何か

三輪正弘著 本体1,800円

椅子のデザイン小史 —様式からポストモダンへ

大廣保行著 本体1,800円

都市の道具

栄久庵祥二著 本体1,500円

日本の伝統工具

土田一郎著 本体1,800円

行動・文化とデザイン

清水忠男著 本体1,800円

環境デザインの思想

三輪正弘著 本体1,800円

ディスプレイデザイン

魚成祥一郎監修 本体1,800円

フラクタル造形

三井秀樹著 本体1,800円

建築家論

フランク・ロイド・ライト

谷川正己著 本体1,800円

アルヴァ・アアルト

武藤 章著 本体1,800円

ライトと日本

谷川正己著 本体1,800円

タリアセンへの道

谷川正己著 本体980円

アドルフ・ロース

伊藤哲夫著 本体1,200円

ブルネッレスキ —ルネサンス建築の開花

G.C. アルガン著 浅井朋子訳 本体1,500円

ジュゼッペ・テッラーニ

B. ゼーヴィ編 鶴沢 隆訳 本体1,500円

オットー・ワーグナー —ウィーン世紀末から近代へ

H. ゲレツェッカー他 伊藤哲夫他訳 本体1,800円

ルイス・マンフォード

木原武一著 本体1,500円

オーギュスト・ペレ

吉田綱市著 本体1,500円

アントニオ・ガウディ

鳥居徳敏著 本体1,800円

ボッロミーニ

G.C. アルガン著 長谷川正允訳 本体1,800円

ヴィオレ・ル・デュク

羽生修二著 本体1,800円

トニー・ガルニエ

吉田綱市著 本体1,800円

パラディオへの招待

長尾重武著 本体1,800円

ウィリアム・モリス —近代デザインの原点

藤田治彦著 本体1,800円

エーロ・サーリネン

穂積信夫著 本体1,800円

美術・文化論

きもの文化史

河鱈実英著 本体1,800円

現代絵画の解剖

木村重信著 本体2,000円

芸術空間の系譜

高階秀爾著 本体1,800円

日本美の特質

吉村貞司著 本体1,800円

イタリアの美術

A. プラント著 中森義宗訳 本体2,000円

幻想の建築

坂崎乙郎著 本体1,500円

キュビズムへの道

D.H. カーンワイラー著 千足伸行訳 本体1,800円

空間の生命 —人間と建築

坂崎乙郎著 本体1,500円

部族社会の芸術家

M.W. スミス編 木村重信他訳 本体780円

光の死

H. ゼーデルマイヤ著 森 洋子訳 本体980円

西欧の芸術1ロマネスク 上

H. フォション著 神沢栄三他訳 本体1,800円

西欧の芸術1ロマネスク 下

H. フォション著 神沢栄三他訳 本体1,800円

西欧の芸術2ゴシック 上

H. フォション著 神沢栄三他訳 本体1,800円

西欧の芸術2ゴシック 下

H. フォション著 神沢栄三他訳 本体1,800円

鏡〔虚構の空間〕

由水常雄著 本体980円

さあ横になって食べよう —忘れられた生活様式

B. ルドフスキー著 多田道太郎監修・奥野卓司訳 本体1,800円

SD選書出版案内

〈各巻四六判・函入〉

日本建築史

江戸と江戸城

内藤 昌著 本体1,800円

新桂離宮論

内藤 昌著 本体2,000円

日本建築の空間

井上充夫著 本体1,800円

茶匠と建築

中村昌生著 本体1,800円

日本の近代建築(上) —その成立過程

稲垣栄三著 本体1,800円

日本の近代建築(下) —その成立過程

稲垣栄三著 本体1,500円

日本の空間構造

吉村貞司著 本体1,800円

間(ま) —日本建築の意匠

稲神代雄一郎著 本体2,400円

世界建築史

都市形成の歴史

A. コーン著 星野芳久訳 本体1,800円

天上の館

J. サマーソン著 鈴木博之訳 本体2,000円

北欧の建築

S.E. ラスマッセン著 吉田鉄郎訳 本体980円

ペルシア建築

A.U. ボーブ著 石井 昭訳 本体1,500円

広場の造形

C. ジッテ著 大石敏雄訳 本体1,800円

西洋建築様式史(上)

F. バウムガルト著 杉本俊多訳 本体1,800円

西洋建築様式史(下)

F. バウムガルト著 杉本俊多訳 本体1,800円

劇場の構図

清水裕之著 本体1,800円

ヴェネツィア —都市のコンテクストを読む

陣内秀信著 本体1,800円

スペイン建築の特質

F. チュエッカ著 鳥居徳敏訳 本体1,500円

アメリカ建築の巨匠たち

P. ブレイク他著 小林克弘他訳 本体1,800円

環境・アメニティ・都市

明日の田園都市

E. ハワード著 長 素連訳 本体1,800円

プライド・オブ・プレイス

C. トラスト著 井出久登・正子訳 本体980円

アメリカ大都市の死と生

J. ジェコブス著 黒川紀章訳 本体1,800円

遊び場の計画

R. ダットナー著 神谷五男・松代真理訳 本体1,800円

都市は「ふるさと」か

F. レンツローマイス著 武 基雄・伊藤哲夫訳 本体980円

人間のための都市

P. ベータース著 河合正一著 本体980円

都市憲章

磯村英一著 本体980円

イタリア都市再生の論理

陣内秀信著 本体1,800円

住環境の都市形態

P. バヌレ他著 佐藤方俊訳 本体1,800円

ふれあい空間のデザイン

清水忠男著 本体1,800円

心理学

空間と情緒

箱崎総一著 本体1,500円

デザインの認識

R. ソマー著 加藤常雄訳 本体980円

庭・ランドスケープ

日本の庭園

田中正大著 本体1,800円

ヨーロッパの造園

岡崎文彬著 本体1,800円

日本の公園

田中正大著 本体1,800円

都市の景観

G. カレン著 北原理雄訳 本体1,800円

街の景観

G. パーク著 長 素連・もも子訳 本体1,200円

「作庭記」からみた造園

飛田範夫著 本体1,800円

都市デザインの系譜

相田武文・土屋和男著 本体1,800円

サウンドスケープ —その思想と実践

鳥越けい子著 本体1,800円

風景のコスモロジー

吉村元男著 本体1,800円

庭園から都市へ —シークエンスの日本

材野博司著 本体1,800円

フィールドワーク

住居空間の人類学

石毛直道著 本体1,500円

京の町家

島村 昇他編 本体1,800円

住まいの原型I

泉 靖一編 本体1,500円

住まいの原型II

吉阪隆正他著 本体2,000円

キモノ・マインド

B. ルドフスキー著 新庄哲夫訳 本体2,000円

かいわい (日本の都市空間)

村野博司著 本体1,800円

建築家なしの建築

B. ルドフスキー著 渡辺武信訳 本体1,800円

情報

現代建築事典

W. ベートン編 浜口隆一他訳 本体1,900円

イギリス建築の新傾向

R. ランダウ著 鈴木博之著 本体980円



SD 9804 Versatile Architects of the New Generation:

Introduces the works and creative activities of young architects in their thirties to portray a sense of the times: INTENTIONALLIES, MIKAN, etc.

Desktop Community

¥ 2,000



SD 9805 The Cutting Edge in Space Design:

Introduces specific examples of collaboration between architects and designer artists: Kazuko Fujie, Kinpei Nakamura, Susumu Shingu, etc.

House for Frida Kahlo and Diego Rivera:

Juan O'Gorman's Architecture and Mexican Modern

¥ 2,000



SD 9806 Landscape Creation Today:

The Challenges for Landscape Architects Introduces landscaping set apart from the natural environment and purposefully designed to serve society. Architects introduced are Yoji Sasaki, PLACEMEDIA, Hiroki Hasegawa, Toru Mitani, Makoto Noborisaka, N. Finley+M. chiba, Ken Smith, Kyathryn Gustafson, Douglas Reed, etc. ¥ 3,000



SD 9807 Coelacanth Architects:

Traces their activities over twelve years, mainly through introduction of their works. Kibikougen Elementary School, Suijo Fire Station of Osaka City, Sotogaoka Exchange Forum, etc. Text: Hiroshi Hara, Yoshitake Doi. Interview: Riken Yamamoto

¥ 2,600



SD 9808 Design Vocabularies of Light:

LPA Works 1990-1998

Introducing a selected list of 40 concepts from LPA's design vocabulary, this book is a bible of illumination lore for the overall study of space created by light. Text: Arata Isozaki, Kaoru Mende

¥ 2,500



SD 9809 The Landscape of Detail:

Its Art and Techniques

Introduces the details of architectural works with photos and drawings. Hiroshi Miyazaki, Akira Watanabe, Takenaka Corporation, Yoshio Taniguchi, Kajima Design, Shinichi Ogawa, Waro kishi, Fumihiko Maki, Yoshihiko Iida. ¥ 2,300



SD 9810 Office Environments for the Near Future:

Introduces recent developments in office environment design through specific examples. Works: Dentsu Interactive Solution Center, etc. Text: Ryusuke Naka, etc.

Machiya Restored: The Future of Central Kyoto and The Development of Machiya Restoration

¥ 2,000



SD 9811 135 Outstanding Works of Modern Design:

Introduces 135 coffee and tea services, glassware, and other utensils made of white ceramic or clear glass. Kasimir Malevich, Gertrud Vasegaard, Trude Ptri, Wilhelm Wagenfeld, Josef Hoffman, Peter Schlumbohm, etc. Text: Sori Yanagi, Angelo Mangiarotti, Shukuro Habara, etc. ¥ 3,000



SD 9812 SD Review 1998

The 17th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings. **Four Small Features: Charlotte Perriand, Designer's Catalogue of "Happening", Aalto's Space Composition, Shuhei Endo's Recent Works in Metal Sheet Structure**

¥ 2,000



SD 9901 Sustainable and Ecological Design Today

Specific Projects that have achieved symbiosis with the environment provide a bird-eye view of recent trends and display the vision of the upcoming generation of architects.

Emscher Park, Tokyo Gas "Earth Port", Setagaya-ku Fukazawa Symbiotic Housing, etc. ¥ 2,700



SD 9902 The Dutch Model:

Architecture, Urban Design and Landscape

Explorations of Dutch cities and social systems in terms of five key words.

OMA, MVRDV, West8, Koen van Velsen, mecanoo, Kees Christaanse, Wiel Arets, Bentheim Crouwel, etc.

¥ 2,000



SD 9903 Spaces of Wood:

The Elements of Comfortable Architecture

Introduces uses of wood construction materials that suggest next-generation standards.

Cho Umihiko, Intentionallies, Tatsuo Kawanishi, Kiyoshi Kasai, MIKAN, H. DESIGN ASSOCIATES, etc.

¥ 2,000



SD 9904 Josep Maria Jujol i Gibert's Vision:

Introduces the legacy of Jujol's work through photographs and original drawings.

Donald Judd: Consistency of Space and Cognition

¥ 2,000



SD 9905 Alluring Materiality:

Evolution of Materials and Their Potential for Design

Takes up some examples of material and technical design from Japan and overseas and analyzes the applied methods and techniques hidden in the design. Also includes "A Chronology of Materials" and "The Map of Materials 1999." ¥ 2,500



SD 9906 Sinichi Ogawa: Transbody / Super traffic:

Introduces 13 years of Sinichi Ogawa's achievements through Cubist House and Minimalist House and other completed works, plans, and works submitted to exhibitions. Text: Takashi Uzawa, Mitsugu Okagawa, Sinichi Ogawa, and others.

¥ 2,000



SD 9907 School Architecture:

Toward Environments That Foster Individuality

Offered as a guide for the architectural design of schools, this issue comments on topics to be addressed in school architecture from now on, combined with on-site reports of specific examples. Text: Jun Ueno et al.

¥ 2,500

Space Design published its first issue in 1965 as a monthly journal for a general readership introducing noteworthy achievements and leading works in the fields of architecture, urban problems, design, and the fine arts. The journal has established a solid reputation over the years in the fields of architecture and design. It enjoys the support of a broad readership in an age when up-to-date information on contemporary design, urban planning, and architecture is in heavy demand. **SD** endeavors to make its features and articles ever richer in content, focusing attention on the methodological, and aesthetic themes of modern architecture, the city, design, and the arts. The text of **SD** is mainly in Japanese, but in certain cases English translations or summaries are provided for feature articles.

Send your order for subscriptions to Space Design and/or for back issues or hardcover editions by:

Filling in the order card below and faxing it to:
Space Design: 81-3-5561-2551

Or mail the card to:

Subscriptions Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo 107-8345, Japan
tel: 81-3-5561-2551

An invoice will be sent immediately. Upon receipt of the invoice, you may pay by check or international money order or bank check.

Order Card

Name (in block letters please):

Address:

Fax number (if available):

Occupation:

Please check one of the options below:

- ☐ Please enter my SUBSCRIPTION to Space Design, starting in

	sea mail	air mail
12 issues	¥30,000	¥55,000
24 issues	¥50,000	¥80,000

Price includes postage and bank charges.

- ☐ Please process my order for the following BACK ISSUES and/or HARDCOVER EDITIONS of SD:

The invoice includes:

1. Price of the publication
2. Bank charges (¥1,500 per order)
3. Postage (determined upon receipt of order)

Alvar Aalto

A special comprehensive collection of celebrated architect Alvar Aalto's major works. Aalto's Design Vocabulary, by Akira Mutoh / Chronological Review of A. Aalto's Life: 1898-1976 / Worldwide Distribution of Alvar Aalto's Works ¥3,090

Tadao Ando 2

His 21 works since 1981 including Church with the Light are classified into five categories and introduced at once here. The 10-meter long drawing of Nakanoshima Project lets the readers feel his vigorous approach to architecture. ¥4,800

Arata Isozaki 2

Introduces whole of Isozaki's major works, 1976-1984, especially his shocking work: Tsukuba Center Building. Ministry of Foreign Affairs of Saudi Arabia, MOCA, Blick of Flats, Berlin, Okanoyama Graphic Art Museum, ¥4,944

Kiyonori Kikutake

Collection of Metabolist Kiyonori Kikutake's works from the early years to 1980: Architecture of The Third Generation, On the Notion of Replaceability, Phase of Methodological Search, Data, Location of Works ¥3,090

Kisho Kurokawa 2

13 major works for these 10 years, including Hiroshima City Museum of Contemporary Art which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan, and 2 other Museums are introduced. ¥4,300

Seiichi Shirai

Introduces a collection of the gem-like works by Seiichi Shirai, an architect of proud loneliness. Kaisetsu-kan, Noa Building, Sei-Akira-kan, Sasetsuken, Kohakuan, etc. Essays by Arata Isozaki, Ichiro Haryuu, Ikuma Shirai ¥ 3,605

Atelier Zo

Presents the first collection of the works by Atelier Zo who has continuously brought forth fresh works by their original formative ideas. Nago City Hall, Shinsyukan Community Center, etc. Essay by Hiroshi Aramata ¥4,000

Kenzo Tange 3

29 projects are introduced at a stroke so that his footwork in 1980's can be seen. Also, the noticeable new Tokyo City Hall is introduced through many drawings and photographs of new model. Full English text. ¥4,100

Fumihiko Maki 2

Presents the second collection of Maki's works which show his activities in 1980s. Spiral, Keio University Hiyoshi Library, Fujisawa Municipal Gymnasium, Hillside Plaza, Tokyo Metropolitan Gymnasium, etc. ¥4,326

Toyo Ito

9 projects of his semi-permeable architectures such as restaurant NOMAD and Silver Hut and 11 projects of Transformations by Light are introduced. The Shinorama Space by Kishin Shinoyama shows White U. ¥3,900

Shin Takamatsu

All of his major works including Kirin Plaza Osaka which won 1988 The Prize of the Architectural Institute of Japan are introduced. His working field in which he has continuously been creating his sharp works can be observed. ¥3,800

Kunihiko Hayakawa

His original pastel-colored works such as ATRIUM and STEPS give the architectures allegro rhythm and feast one's eyes. His works and projects for 10 years since 1978 show his world. ¥4,300

Kazuhiro Ishii

His Sukiya-village which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan and 51 other works introduce his method of composition. ¥4,300

The Expressionist Architecture of Germany

Meaning of the Expressionism which is the mother of the modern architectures and has influence on the contemporary ones is introduced by 12 architects' works. ¥3,300

Wooden Architecture Today 1989

Introduces works of Europe, mainly German, Swiss, and French, as well as of the United States, Australia, and Japan. Works in Japan include those by Shoji Yoh, TAKE-9, Hideaki Katsura and others. ¥3,708

Bruno Taut

Introduces his activities mostly while staying in Japan 1933-36. Features in memory of Taut in 40th year of his death. Architect's Own House Istanbul, Housing on Erich-Weinert Strasse, etc. Taut's Handicraft and Books ¥2,575

Ecole des Beaux-Arts and its Glorious Tradition

Updated: Essays: History and Credo, Thought Backbone/ On the Grand Prix: List of Recipients and their Presentations/ Genealogy of its Ateliers/ Collections: Notre-Dame at Lorette, Opera Theater, Paris, etc. ¥2,575

Details by Maki & Associates

Shows detail at Forum TEPIA, a showcase of high technology using a variety of new materials. The work features studies in surface, point, and line and develops numerous types of detail. ¥6,800

Kim, Swoo Geun

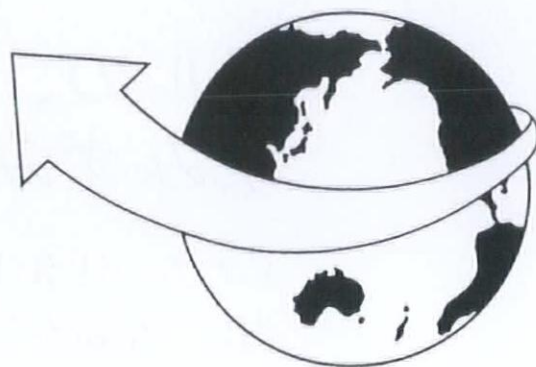
Introduces his 30 projects, mainly in Korea. Masan Cathedral, Korean Overseas Development Corporation Building, Art center of Korean Cultural and Arts Foundation, Seoul Sports Complex, Nam Dae Mun Market Redevelopment Plan, etc. ¥3,090

Architects Own Houses of the World

Introduces famous architects' own houses of the World. Architects: Richard Foster, Frank Gehry, Don Hisaka, Wilhelm Holzbauer, Michael Hopkins, Barton Myers, Christopher Owen, Arthur Erickson, Ulrick Franzen, Paul Gray, etc. ¥4,944

未来に向って...

限りある資源
限りある空間の中で
より快適な環境づくりの
ために努力しています。



●営業品目

空気調和・冷暖房・給排水・衛生設備・設計施工



株式会社朝日工業社

本社・東京支社 〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-7 電話 03(3434)5711
大阪支社 〒532-0031 大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(6302)2273
支店 北海道／東北／北関東／横浜／名古屋／中国／九州

N 日章工業株式会社

代表取締役社長 福田 三 丈

●本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-11-7(日立神田別館) ☎03-3254-3000
●大阪支店 ●横浜支店 ●仙台支店 ●広島出張所 ●福岡出張所

日立製作所電機特約店
日立化成工業特約店
日立機材特約店
日立建機特約店

旭化成建材代理店
新明和工業特約店
大和ハウス工業特約店
大昭和製紙特約店

施設商品

エレベータ・エスカレータ
ホームエレベータ
機械駐車設備
ゴミ処理設備
バスユニット・流し台
洗面化粧台
集中浄化槽・パネルタンク

空調衛生電気設備工事
受変電・自家発電設備
空調機・ポンプ・送風機
監視防犯システム
節水バルブ・節水トイレ

建材商品

PHCパイプ・シテイガイ
イーゼット・現場造成杭
地盤改良
ヘーベル・グランデ
押出成形版・金属パネル
屋根・硝子工事
フリーアクセスフロア・OAフロア

クリーンルーム床工事
ハイベス・ハイスブリット
ユーボード・軽量鉄骨
プレハブ規格建築
大昭和ユニボード
九木ライトフォーム・シールド
クローラクレーン・耐火被覆

ビルの、工場の、街の、 すみずみに、つながろう。

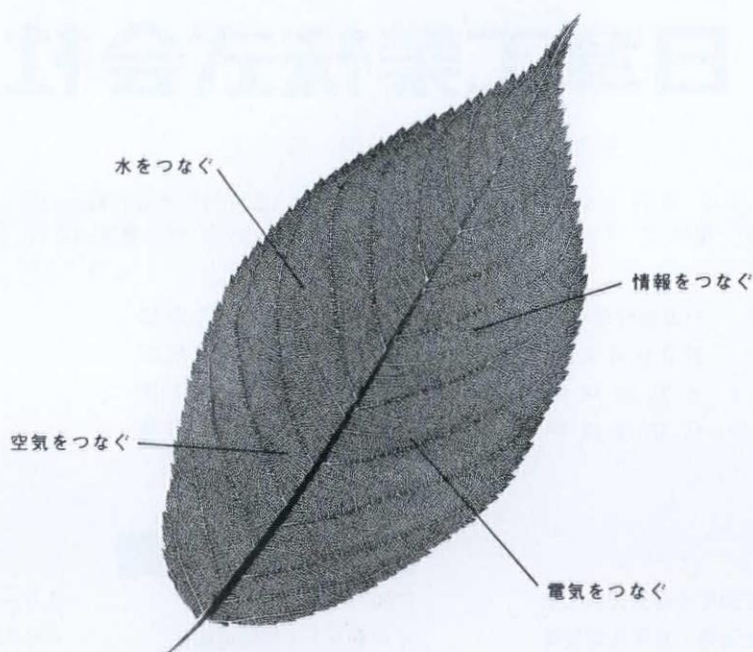
私たちの仕事は、ビルに、工場に、
街に、生命を与える葉脈として、
そのすみずみにつながっています。

もっと、人が快適になる環境へ。

総合設備業の

リーディング・カンパニーとして、
先端の技術で、高度な未来を
提案し続けます。

あなたと快適をむすびます。



住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 Tel 06(6537)3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 Tel 03(3454)7311

営業種目：電気設備／空調・給排水・衛生設備／
プラント設備／情報通信設備／電力流通設備／その他

広告目次

SD誌に広告をお申込みの際は下記広告代理店にご用命下さい (五十音順)

●共栄通信社

東京——東京都中央区銀座8-2-1

新田ビル (3572) 3381

FAX (3572) 3590

大阪——大阪市北区西天満3-6-8

笹屋ビル06 (6362) 6515

FAX06 (6362) 6052

●建報社

東京——東京都文京区湯島2-30-8

(3818) 1961

FAX (3818) 1968

大阪——大阪市中央区淡路町1-4-9

昭栄ビル 06 (6231) 4548

FAX06 (6227) 0268

●新建社

東京都中央区八丁堀2-1-10

ハヤシビル (3552) 8247(代)

FAX (3552) 8249

●中外

大阪——大阪市北区浪花町14-25

日本生命天六ビル06 (6379) 1791

東京——東京都千代田区神田須田町2-5-2

須田町佐志田ビル (3255) 8411

名古屋——名古屋市中区錦2-2-13

名古屋センタービル052 (221) 7641(代)

ア	林朝日工業社	A11
	旭硝子株	85
	旭硝子ビル建材エンジニアリング株	85
カ	鹿島	A4・A5
	軽井沢ホテル鹿島ノ森	A6
	川崎電気株	A8
	株関電工	A10
キ	株きんでん	93
サ	三機工業株	101
シ	新菱冷熱工業株	107
ス	住友電設株	A12
タ	高砂熱学工業株	表3
	大興物産株	A7
	大栄電気株	A8
チ	株中電工	A9
ト	東光電気工事株	A1
	株トーエネック	A9
	東洋熱工業株	105
	株東芝	A14
ニ	日本電気株	A3
	日章工業株	A11
マ	松下電器産業株	A2
ミ	三菱電機株	103
ヤ	矢崎総業株	表2
	株ヤナセ設備工業	88
ヨ	株横森製作所	86・87
ワ	YKKアーキテクチュラルプロダクツ株	表4

TOSHIBA

エレベーターから機械室が消えた！ 大好評、マシンルームレスのスペースセル。

〈スペースセル〉は、マンションなどの住宅用だけでなく、オフィスやテナントビルなどの乗用、病院など医療施設の寝台用と充実しています。さらに、最大昇降行程は60m。20階建ての建築物にも対応するなど、設計・デザインの可能性をいちだんと拡大。まさに時代が求めた新世紀のエレベーターです。

スペースセルは ここが違う！

デザインフリー

スペースセルは、機械室の設置は不要。ですから、屋根のデザインの自由度が拡大。建物高さの面でも制約が少なくなり、建築構造としての美観を自由に追求することを可能にしました。

レイアウトフリー

スペースセルなら昇降路の位置を自由にレイアウト。高さ制限上も有利。既存の建築物のエレベーター増設にも柔軟に対応します。

スペースを有効利用

エレベーター設備の床面積を大幅に縮小。いままでエレベーター設備に要していた共有部分を有効スペースとして活用できます。

省エネ&建築・設備工事を削減

スペースセルは、モータ容量が従来のロープ式や油圧式よりも低く抑えられるので、電源設備容量や消費電力量を低減します。また機械室そのものが無くなるため、従来必要だった機械室の建築・設備工事はすべて不要になります。

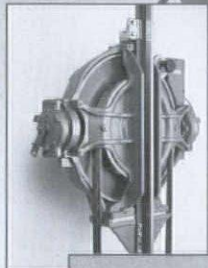
新保守システム「スーパーTERM(東芝遠隔監視メンテナンス)」で 万全の保守点検サービスを提供

東芝エレベーターが開発した新しい遠隔監視メンテナンスシステム「スーパーTERM」がエレベーターを止めずに遠隔診断、機器の状態変化をリアルタイムに察知し故障の未然防止につとめます。また万一の故障の際にも、より迅速な対応が可能となります。

いまお使いのエレベーターをハイグレードにリニューアル

ビルのリニューアルをお考えになる時、東芝エレベーターでは、最新モデルのスペースセルへのグレードアップをおすすめします。事前の調査にもとづき効率のよいリニューアルをご提案します。

コンパクト化に徹した新しいタイプの巻上機。昇降路内の設置を可能にした高圧ギヤレス巻上機を採用。高効率ギヤレスシステムにより、省エネルギーを実現しました。



超薄形の新開発制御装置

超薄形設計のインバータ装置や最新の制御用プロセスを搭載した高密度・高性能の制御基板を採用。厚さわずか100mmの制御装置を最上層のりばに配置することができました。

東芝マシンルームレスエレベーター スペースセル

SPACE



株式会社 東芝 昇降機システム社 本社 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1 (東芝ビルディング) TEL (03) 3457-4620 FAX (03) 5444-9275 ホームページアドレス <http://www2.toshiba.co.jp/ing/syoji/>
北海道支社 ☎ (011) 214-2451 北陸支社 (金沢支店) ☎ (076) 224-2815 新潟支店 ☎ (025) 246-8263 北関東支社 ☎ (048) 640-1130 東関東支社 ☎ (043) 299-1017 神奈川支社 ☎ (045) 664-8614
静岡支店 ☎ (054) 221-1787 中部支社 ☎ (052) 564-8511 関西支社 ☎ (06) 6440-2281 中国支社 ☎ (082) 542-3277 四国支社 ☎ (087) 837-0790 九州支社 ☎ (092) 735-3056
*東芝マシンルームレスエレベーター(スペースセル)はフィンランドKONE社からのライセンスに基づき、同社製の巻上機(EcoDisc™)を使用します。EcoDisc™はKONE社の登録商標です。